（毎月一回十五日發行）

大日本蠶絲會報

第百五號

明治三十四年三月十五日

（明治廿七年八月廿五日第三種郵便物認可）

目次

●論說
●製絲用水に就て　農學士　辻楊太郎
●桑の介殼蟲に就て　理學博士　佐々木忠次郎
●歐米蠶絲業視察談（承前）　今西直次郎
●其長々短々なる其短を補ふべし　高橋信貞
●蠶種製造なる語に就て　農學士　重松逸一郎

●寄書
●種類の興廢　關根雙次郎
●桑苗の栽培法に就て　齋藤常雄
●再び蠶種の穴貯藏に就て　中澤豐吉
●桑樹の害蟲の寄生蟲に就て（承前）　生熊興一郎

●雜錄
●桑樹の伐採と生理作用
●人造絹絲と天然絹絲の區別及び一二の性質
●軟化病の消毒

●統計
●明治三十四年一月中生絲類及び絹物類輸出入前年對照表

●問答
●桑樹の關係に就き質問並答
●蠶兒の血球に就き質問並答
●蠶及び繭の關係に就き質問並答
●消毒の件に就き質問並答
●原蟲製造人賣勸の件に就き質問並答
●蠶の鑑別法に就き質問並答
●製絲用水の件に就き質問並答

●絲況
●横濱市場
●組織市場
●里昂市場
●昨年度の里昂蠶絲商況
●上海市場

●外報
●伊太利生絲及び製造工場に使用する原動力の種類
●露國の蠶絲業
●昨年の佛國牧蠶高及び蠶業奬勸金追加案の可決

●雜報
●蠶病消滅法講習
●神戸生絲檢査所
●蠶種募集
●土佐蠶業同志會
●九州沖縄共進會出品
●横濱蠶絲貿易組合の
●蠶絲業研究會
●高山社蠶絲業學校の開始
●生絲と帝國博覽會
●不正屑物勸退に關する建議
●人事彙報

本會會費は是迄一ヶ年金壹圓貳拾錢の規定なりしも客年十二月二十日開會の評議員會議に於て左記の如く改正し**本年度**より**實施**致候事に決議相成候に付**本年一月一日以後**御送附に係る分は**一ヶ年金壹圓五拾錢**御拂込相成るべき旨廣告致し置きたるも往々從前の如く金壹圓貳拾錢御送金の方々も有之計算上甚だ手數を要し候につき必ず改正額の通り御拂込相成るべし

大日本蠶絲會幹事長　岡　毅

本會規則第二章第八條中「壹圓貳拾錢」を「壹圓五拾錢」に改む

（參照）

第八條　特別會員及通常會員は毎年會費として金壹圓五拾錢を前納するものとす

但一時に金貳拾圓以上を納附するものは爾後出金を要せず

大日本蠶絲會報第百五號

論說

製絲用水に就て

大日本蠶絲會
技師委員農學士　辻　暢太郎

製絲用水の生絲品位に及ぼす影響の偉大なることは昔く世の製絲業者の知る所のものなりと雖も、而も多くの當業者は雖水の不可溶解性不純物に留意して之を除去することに於てのみ勉め、更に多く生絲の品質に大なる關係を有する可溶解性不純物に就ては却て顧慮する所なきが如し、是れ可溶解性不純物は其存否多少を鑑定すること、及び除去法の困難なることと其一因なるべしと雖も、抑も亦水中の如何なる可溶解性不純物は生絲に如何なる影響を及ぼすかを明かにするもの稀なるに由るべし、此に於て乎本多農學士は曩に製絲用水質に就て詳細の研究を行ひ、其成蹟を公にして當業者に告ぐる所ありき、余も亦頃日此研究に從事し、且つ獨人ヲルペルマン氏の著書ヂイデー書中製絲用水に關する全文を譯出し、次に余の卑見を附記して當業者の參考に資せん。

製絲に使用する水には普通人の知る所のものよりも尚大なる趣味を有す、即ち詳細なる豫言の一致する程に水質は確然其作用を生絲の性質に及ぼすものなり、

カッパ及びテックストール二氏の說に依れば、繰絲湯の作用は繭絲の護謨質を溶解し、繭の解舒を容易ならしむるものにして、短時間繭を繰絲鍋中に浸水するも、尚ほ繭絲の保有する可溶解性成分の大部

分は溶解し去るものなり、實際繭は再三温湯中に浸せば其重量百分に付二十二乃至二十六分は輕減す、故に吾人は化學的純粹の水を用ゐて而して實際純粹の水中に繰絲を入し得べしと考ふるは其誤想たるを見出すに至るべし、繭を浸水せば直に水は繭絲の有する各種の鹽類及び蛹の有する一種の酸を溶解し、尙ほ繭絲は護謨質の四乃至六ペルセントを失ふ、斯の如く繭の可溶解性成分の損失は生絲の品位を劣等ならしむ、即ち其色澤を損じ强力を減殺せらる、而して生絲强力の減殺は繭の可溶解性物質の減損と正比例をなす、尙二氏は繰絲に使用すべき夥多の水を試驗し其硬度は四度乃至二十度の間にありて左の分量に於て礦物質の含有せられ居ることを知れり。(一リットル中)

炭酸石灰	〇、〇二〇六乃至〇、一三三九
硫酸石灰	〇、〇〇〇〇乃至〇、〇五六〇
硫酸マグネシア	〇、〇一二五乃至〇、一〇〇〇
鹽化石灰及曹	〇、〇〇〇〇乃至〇、〇六二〇
炭酸	〇、〇〇一〇乃至〇、〇一二五

尙二氏によりて硬水を以て繰絲せるものより石灰を含有せざる水を使用して得たる生絲は、光澤及び强力劣れることと及其理由は硬水は其有する所の溶解性軟水よりも微弱なるが故なることを確められたり。

此は理論上正確なるも實際の試驗に依れば、多量に石灰を含有する水は、全く軟水より最も多くの場合に於て生絲の性質上並に分量上惡結果を生じ、唯單に最も好都合の場合に於てのみ良好の結果を生ずるに過ぎずガッペ及びテックストール氏は或は軟水に沈澱せる硫酸石灰、硫酸マグネシア及び炭酸石灰を加へて適度の硬水を作ることを試みしを以て前述の結果を生じ、其人造水が生絲の性質に比較的滿足なる結果を與へたるものと思はる、尙又二氏の說に依れば水の溶解力は其温度に依りて異なれり、

從て夏と冬とは同一の水も礦物の添加量を異にすべき必要ありと云ふ。

以上の諸說に從へば繰絲の目的に向ては、必ず適度に少量の石灰含有の水を使用せざるべからず、而して二十度の硬度も敢て過剩なりとせざるなり、然れども若し石灰含有の水にして實際上許容すべきものならんには、他方に於て其反應をよく考察せざるべからず、慨して鹽基性の水は用ゆべからず、何んとなれば此は生絲の品質を甚だしく害し、殊に日本種の如く水質の感應を受け易き繭絲にては、到底滑かにして色澤ある良生絲を得ること能はざればなり。

クッラァ氏は蒸餾水及び六度の井水を使用して得たる生絲の强伸力を檢してベルナルディー氏の主張說の如何、即ち蒸餾水は繰絲に最も優等なりや否やに就て試驗を企てたり、氏は其試驗の結果として生絲の外觀即ち彼の色澤には純粹なる水の使用必要なれども、纖維の强伸力に關しては純粹なる水の使用全く無意味なることを確めたり。

フランセゾン氏の研究に從へば蒸餾水、即ち凝結水は全く中性にして、副作用を起さゝるが故に過なき繭絲の繰絲用に稍や優れる所あり。

繰絲の際蛹の破碎より生じたる黃色泥狀の油、及び鹽類を含有する汁液を繰絲湯に加ふるものあり、此の如くせば蛹中に存する固有の有機酸は繰絲湯に溶解し水に其二五乃至三〇ペルセントを含有せしめて、水の自然に有するアルカリー性を破壞し繰絲を容易ならしむるが如し、然れども最も多くの石灰水の如く用水の極めて高度の硬水（凡十八乃至二十度）にして、アルカリー性なるときは蛹酸の良作用一部分妨碍せらる、蛹汁を加へたる水は繰絲鍋中に長時間屢數日間も全く取換せられず、而して其間に水は泥黃色を帶び强き酸性反應を呈するに至る、此方法に由りて繰絲せる多くの生絲は少しく灰色を帶ぶと雖も生絲染色には殊に良好の結果を呈す、尙ほ斯の如き生絲も練絲後は他の生絲と同一の光澤を有す、故に生絲の光澤は最も多くの生絲商人によりて重要視せらるれども、必要ならざる外

觀の一性質として觀過すべきものと殆んと見做し得べし、殊に生絲の光澤は一時なり、詳言せば尙ほ以上の加工に依り消失するものにして、縱ひ光澤なき生絲も練絲等の後何れ一度は光輝を保つものとなるべし、若し外觀上に要求する所ある生絲を得んと欲せば屢々繰絲湯を取換へ、可出來的低溫度の範圍内に於て繰絲をなすべし、然らば生絲自然の光澤を增進することを得ん、故に幾分か純粹の水を用ゆる場合に於て鰤油を使用して繰絲するは、全く不合理にして實際其法は漸々消滅しつゝあるが如し、鰤汁の使用に依りて生ずる膠質の減耗は注意するに足るの價値なきことを證せられたり、是れ膠質は脂肪酸の含有する液に對しては僅かに可溶解なるか、若しくは油及び鹽類の或部分却て絲質に附着するも此が爲め絲量を增大する利益は作業の他の損失を凡て償ふに足らざるかの理由によればなり、ロトンディー氏の研究は繰絲鍋中の水を永く取換へずして繰絲せる爲め、鰤體中に含まれたる液汁の和せる水の酸性反應を呈するは尿酸及び其酸性鹽の存在に基くことを證せり、氏は曰く全くの純粹の水は繰絲の目的に向つては不利益なり、殊に黃繭種並に綠繭種には適度の硬水を用ひて（前者は稍高度の硬水を用ひて）多くの好結果を得べし、而して繰絲作用を促進する鹽類を擧げんに、第一はアルカリー土類金屬の硫酸化物にして、炭酸化物及び鹽化物之に强げり、過剩の硬度（二十度以上）は餘分にして斯の如き場合に於て不利益の硫酸石灰を無害ならしむるには少量の鹽化加里を添加するにありと。

尙ロトンディー氏の說に依れば軟水（八度乃至十度）には直接に硫酸石灰を加へざるべからず、黃繭に適當なる硬度は十二度乃至十五度にして少くとも其半ば硫酸石灰よりならざるべからず、然らば綠繭種に向つては十二度の硬度は過剩ならずと云ふ。

ビグノン氏は用水に種々の化學藥品を添加し、一々其作用を試驗して製絲用水の生絲質に及ぼす影響を研究せり、此研究は繰絲作業、生絲の强伸力、外觀の性質並に撚絲及び練絲の狀況に廣く關係を及ぼせり、即ち氏の注意深き試驗の成蹟は次の如し、繰絲は或礦物質に依りて容易にせらる、然らざれば其仕事遲緩なるか將た全く成就すること能はず、鹽類の分量は比較の爲めには等價的に使用せざるべからず、例令へば硫酸石灰（$CaSO_4, 2H_2O$）は練絲湯一「リートル」に付一、七二「グラム」「マグネシア」は（MgO）〇、四〇「グラム」なるが如し、繰絲は醋酸石灰、硫酸石灰、鹽化加里、ポッタースの痕跡、及び鹽化苦土の添加に依りて甚だ良く仕遂げらるゝも、鹽化石灰、及び硫酸石灰の同時に存在するとき、多量のポッタース又は石灰及び苦土の同時に存在して痕跡なるとき、若しくは硫酸苦土及び炭酸苦土の添加は實際必要ならざるのみならず作用の整齊を害すること明かなり、炭酸石灰の添加は生絲に柔軟なる性を附與し、等價量のポッタースは繰絲を甚だ困難にす、之と同じく石灰及び醋酸加里は惡しき作用をなす、然れども後者は稍々其作用輕し、之れに反して蒸餾水は良成蹟を表す、生絲の分量的利益は（絲量の多きこと）繰絲狀況の良否と正比例をなし、並に强力及び伸度に關係あること明かなり、然れども伸度の變化は極めて微々たるものにして留意するの價値なし、遙か多く之と反して生絲の外觀は用水の性質に關係あり、生絲の外觀とは其色澤の謂にして商業上隨分緊要なるものなり、石灰鹽類中硫酸石灰及び鹽化石灰は生絲の色澤並に手觸を害す、炭酸石灰及び醋酸石灰は等價量に於ては生絲に何等の影響をも及ぼさず、加里鹽類は一般に良好の作用をなす、硫酸加里を以て得たる生絲の外觀及び手觸は蒸餾水を以て繰絲せるものより卓越せり、鹽化加里及びポッタースの如き他の加里鹽類は手觸を柔軟にし、又醋酸加里は好成蹟を表す、石灰は繰絲の作業に障害をなし苦土と互に生絲の色澤を害すれども、又互に生絲の手觸を佳良にす、苦土鹽類中鹽化苦土は良好の作用をなし、硫酸鹽及び炭酸鹽は生絲の手觸を損し光澤を害す、カルシュム及びマグネシュムの硫酸化物、鹽化物及び醋酸化物並にカルシュム及びマグネシュムの炭酸化物は生絲に稍高きテトロを附與す、是れ生絲の此等鹽類を吸收するが故なり、石灰、苦土、及びポッタースの如きアルカリー反應の物體は

繰絲に於て著しく絲量を減却す、而して生絲の性質上に於ける彼等の作用は煑繭鍋及び繰絲鍋内の著しき高温度の湯に依りて寧ろ不利益をなす；適量の鹽類を加へて純粹なる水の溶解力を減弱せしむるは繭の或優美なる種類を取扱ふに利益なることは爰に附記するの要あり、而して鹽類の絶對的及相對的分量は各特殊の場合に於て計測せられざるべからず。

以上諸述せるが如く諸説紛々として純粹の水若しくは人爲的添加の硬水、何れを以て繰絲に使用すべきかは今日に於て未だ確定せず、然れども可出來的純粹の水は最も信用すべしとの説には一般に附合する場合常に多きが如し、合理的に繰絲をなす者は常に水の純粹なることに注意し毎日屢々煑繭湯及び繰絲湯を取換ゆることを忘らず、製絲業者は緩慢に流るゝ水を用ゐて好成績を得たることあり、實際凝結水並に花崗岩質土壌を流下せる泉水は純粹の水と考ふるとを得ると雖も、最も多くの場合に存在する普通の水は石灰を含有するを常とす、而して其硬度五度乃至十五度を越へざれば添加なしに使用することを得べし、硅酸を含有する水は繰絲に能く適當す、可出來的石灰に乏しき水は遙かに信用すべきことの證據に向つて缺くべからざる事實あり、彼のコーカサスに於て同一種類の繭を以て繰絲をなすと雖も其地方によりて生絲の絲量及び品位に異なる結果を來たす、其原因は一に水に疑すべきことを確定せられたり、硬水は繰絲に惡結果を起すも永日間其水を受器内に入れて、太陽の光線に晒せば著しく水質を改善し得べし、是れ太陽の光線は可溶解性の重炭酸石灰を炭酸と不可溶解性の炭酸石灰に分解し、斯くして其作用は自然に硬水を軟水に變ぜしむるを以てなり。

以上ザィダイ中記載せるガッパ及びテックストール二氏の説は余の試驗成蹟と一致せる所あり、即ち余は炭酸石灰を蒸餾水に溶解せしめて硬水を作り、之を以て繰絲の試驗を行ひしに水の一萬分中一分の炭酸石灰を含有するもの（之より多く炭酸石灰を含有する水は試驗せざりき）及び是より少量の炭酸石灰を含有するものは、總て蒸餾水より生絲の色澤を佳良ならしめたり、而して水の一萬分に就き炭酸石灰の一分迄は其含量多き丈其丈之を用ひて得たる生絲の色澤佳良なりき、故にヴルベルマン氏がガッパ及びテックストール二氏の説を評して沈澱せる石灰及びマグネシアを加へて硬水を造りたるが爲めに良結果を得たるならんと想像せるは除りに認いたるかの傾あり、然れども又余は悉くガッパ及びテックストール二氏の説を信ずるものにあらず、何んとなれば十萬分の一及び其以上の炭酸石灰を含有する水は普常に蒸餾水より生絲の手觸を細緻ならしむることを見出したるを以てなり。

ヴルベルマン、クラヌア、ベルナルディー、及びフランセゾンの四氏は蒸餾水を以て最も製絲に適せりと主張すれども、余の製絲試驗に依れば蒸餾水は炭酸石灰含有の水に比して煑繭に長時間を要し解舒悪しく落緒繭多く從て求緒困難なりき、故に余は寧ろロトンデー及びピクノン二氏の説を贊す。

永く繰絲湯を取換へずして製絲をなせば生絲の色澤は不良となるも繰絲は容易なり、而して生絲の色澤は結局必要ならずとの著者の説は亦一理ありて實際本邦に於ても此方法を行ふ大製絲場あり、然れども尚ほ今日に於ては生絲の價格は其色澤に關係すること甚だ大なるものなれば、全く之を度外に措くことは不得策なり故にピクノン氏の説の如く可出來的純白の生絲を得るの必要あるは止むを得ざることなりと云はざるべからず。

ロトンデー氏は黄繭及び綠繭の繰絲には十二度乃至十五度の硫酸石灰含有の硬水必要なりと説けり、或は然らん然れども本邦の白繭種の繰絲には硫酸石灰含有の水を必要とせざるのみならず其硬度七度以上は却て害あり。

ヴルベルマン及びピクノン兩氏の結論は概して本多農學士と余の研究成蹟及び所見と一致せり、然れども唯余が今回の試驗によりて得たる成蹟によりて考ふるに、蒸餾水は少しく煮繭を遲延せしめ之より得たる生絲の色澤手觸は少量の炭酸石灰を含有する水を以て得たるものより稍々劣れる傾あり、是れベルナルディー氏等の説と少しく異なる所なり。

要するに如何なる可溶解性不純物も、之を多量に含有する水は勿論製絲用に不適當なるものなり、而して其可溶解性不純物中炭酸石灰は生絲に不良の影響を與ふる程度最も少なきもの、一なるのみならず、其存在少量なるときは（前記の試驗成蹟に在りては一萬分の一分迄は）却て繰絲を容易にし且つ佳良の生絲を得るの利あり、尙ほ水中多量に存在する可溶解性不純物の幾分を除去する簡易の法はヲルペルマン氏の說けるが如く、水を永時間淺くして廣き水溜に入れ、太陽の光線及び空氣の曝露するにあり、斯の如くせば

第一、可溶解性の重炭酸石灰を分解して不可溶解性の炭酸石灰を沈澱せしむ。

第二、可溶解性の第一鐵鹽は酸化により不可溶解性の第二鐵鹽に變じて沈澱す。

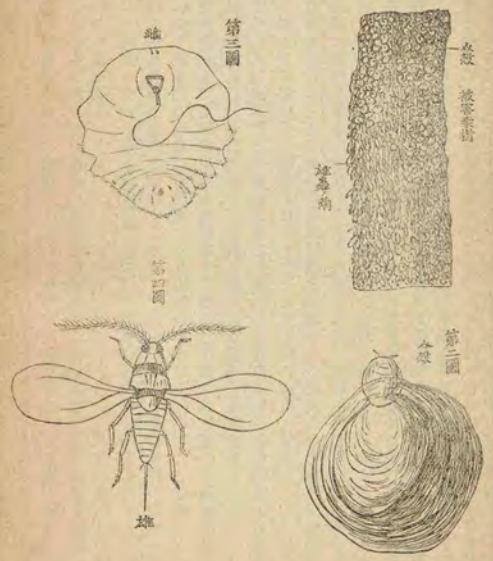
第三、此他空氣中より夥多下等の動植物水中に入りて生棲するが故に、其細體構成の爲め水中可溶解性不純物は攝取せらる。

等自然の作用に依りて水質の改善せらるゝこと尠少ならざるものなればなり。

桑の介殼蟲に就て

大日本蠶絲會
技藝委員理學博士　佐々木忠次郎

本邦各地に於ける立木桑を見る時は、其幹枝面に白紛を塗りたるが如き觀を呈するものあり、近く寄りて之を見る時は白粉は白粉に非ずして細長き白繭の群着せるものたるを知るべし、此白繭は即ち學名 Diaspis pateliformis, Sasaki と稱する介殼蟲が雄蛹の整するところとす、而して其群着せる白繭を取り去るか若くは其側を調ぶる時は灰白色を帶びたる圓形若くは楕圓形の扁平なる介殼ありて（第一圖及第二圖）、殼面には一個の黃點を存するを常とす、此殼の下には雌蟲（第三圖）を存するなり、雌蟲は六月



と八月との兩度に於て生殖を營むものにして常に介殼内にありて、細長き細毛の如き口吻を樹皮内に刺入れ其養液を吸收し幹枝の勢力を失はしむること夥し、雌蟲の形は殆んど圓形にして少しく黄色を帶び、常に定所に固着して移動するの必要なければ脚を缺き、又常に介殼の下に横り暗黑の中に棲息するを以て、物を見るの必要なければ眼を缺き、皮膚面に開ける小孔よりは一種の物質を排出して介殼を製造するの材料となすの外他に觀るべきものはあらざれども、獨り生殖器は非常に發達して數百顆の卵子を產するに足る、特に產卵の時期に至れば雌蟲の腹内は殆んど卵子のみにて充塞せらるゝが如くに見ゆ、故に雌蟲の職は唯幹枝より其養液を吸取することゝ、夥多の卵子を產し子孫の繁榮を圖ることの二者に外ならず、之に反し介殼蟲の雄蟲（第四圖）は其形雌蟲よりは遙に小形にして細長く、長け一厘七毛許にして翅の開張三厘六毛、尾絲の長は一厘弱あり、着色は橙黄にして頭には數個の眼、二本の鬚を生じ、能く物を見且つ觸感に富み、口はあれども敢て樹皮より養液を吸收することなければ、其形極めて不完全にして尋常の口具を備ふることなし、翅は二枚ありて其形は杓子の如く之にて能く飛翔し、交尾の時期に至れば極めて短し、蓋し雄蟲の職は雌蟲を搜索し之と交尾も終れば直に斃るゝなり、故に雄蟲の生活期は雌蟲に比ぶれば極めて短し、蓋し雄蟲の職は雌蟲を搜索するの必要あるが故に、翅脚共に之を具へて雌蟲の側に飛來り或は這行して之と交尾することに止まれば、雌蟲の如く幹枝に患害を及ぼすことなし、右の如く雌蟲は幹枝に患害を及ぼすこと甚しきも雄蟲は敢て是れなきを以て、前者は害蟲と稱すべきも後者は害蟲と見做すは酷なるが如し、而して雌蟲の六月產みたる卵子は數日にして孵化し、幼蟲出れば桑樹の幹枝を這ひ廻り一たび蛻皮すれば、粗毛の如き口吻を樹皮内に挿入し津液を吸取するが故に其害雌蟲に讓らず、漸く成長するに從て尚ほ一回蛻皮し、雌蟲となるものは樹間の介殼を造り、雄蟲となるものは白繭を營て蛹となり次て有翅の成蟲となる、斯くて其成蟲は雌雄交尾し雄は直に死するも雌は幾り八月に至りて產卵す、其卵子の再び化するや前と同一の經過を採り、雄蟲は斃れ雌蟲のみ介殼内に整して越冬し翌年六月に及で產卵するものなり。

元來介殼蟲は多く立木桑に寄生するものは絶て稀なりと雖も、桑苗は往々此蟲害に罹るものあり、蓋し此蟲害に罹りたる桑樹は蟲害の多寡に從ひ、勢力衰へ、成長を妨げられ、桑葉の收穫を減少するに過ぎざれども、被害の幹枝及び苗木の如きは之が爲に枯死することあれば、桑園内にありては二個の惡ひべき害蟲なりと知るべし、故に桑苗を販賣するものは介殼蟲の之に寄生するや否やを調査し、若し一頭たりとも寄生することあれば直に之を撲殺したる上にて販賣するを要す、又桑苗購求者も之を購求する際には篤と該蟲の寄生するや否やを調査したる上にて買受くべし、否らざれ意外の蟲害を被り損害を招くこと尠からざるなり、今左に之が豫防驅除の方法一二を掲げ當業者の參考に供すべし。

（一）桑樹若くは桑苗を時々檢査し、若し幹枝而に雌蟲の介殼群着したる時、又は雄蟲の白繭群着したるものあり時は、必ず竹箆又は石決明の介殼にて害蟲の附着部を搔き取り驅除すべし。

（二）被害部に魚油乳液を振り掛くれば亦害蟲を驅除するに足る、但し此方法は幼蟲期に於てのみ施行するを要す、魚油乳液の製法は左の如し。

水五合　魚油七匁　曹達七匁

（三）桑園は風氣良く流通し且つ日光の透射宜しき地に設けたる時は此蟲害に罹ること少なく、又桑苗仕立場の如きも矢張右の位置を選定して設くること、を要す。

◉歐米蠶絲業視察談（承前）

大日本蠶絲會技藝委員　今西直次郎

◉獨逸　伊太利國の巡回を了へ歩を獨逸に移し、先づエルペルフェルトに着し同地生絲檢査所長に面

會し、同所長の懇切なる案内に依り、生絲檢査法其他器械裝置等を親しく視察することを得たり、エルベルフェルド生絲檢査所、該生絲檢査所の規模は前の伊佛兩國に比すれば甚だ狹小なりと雖も建築及び機械の整頓せること、又檢査法の嚴密周到なるは實に感服せし所なり、然るに同地には撚絲工場の設置なきが爲め生絲の儘にて輸入するもの甚だ僅少にして、其多くは撚絲となせるものを輸入するが故從て同檢査所も亦撚絲を檢査しつゝあり、且つ該檢査所は從來萬國會議に於て議決したる綿度、即ち五百メートルにて其量五〇ミリグラムを以て檢査を施行しつゝありしが、曩に里昂に於て開かれたる檢査所長會議に於て同所長は最も熱心に伊太利斯式綿度、即ち四百五十メートルにて五〇ミリグラムを採用せんことを主唱せられ居りしが故に同所の如きは右新式の檢査法を採用すること蓋し遠きにあらざるならん此他檢査上に關し其異る所ありしを見ず。

エルベルフェルド市絹織物業の概況　生絲檢査所の視察を了へ同所長の案内に依りてエルベルフェルド市内及び其附近の狀況を調査するを得たり、同地の織物及び染物の仕上等は其規模頗る壯大にして實に一驚を喫すべきものあり、如何に其工事の盛大なるかを察するに足れり、就中絹織物商は市内に最も多くして經營頗る類繁なるに似たり、されば同地の商工業は共に前途の有望なること敢て斷言するに躊躇せざる所なり、且つ前にも述べたる如く撚絲工場の設けあらざるを以て、主に伊太利より撚絲を輸入しつゝあるが我日本よりも之を撚絲となし、同地に輸出したらんには將來大に之が販路を擴張するの望みあるべしとの說も少なからざりし、併し該問題は頗る至難の一事にして將來之を實行し能はざるにあらざるべし、何んとなれば日本今日に於て撚絲業の工賃は、物價騰貴の趨勢に伴ふて漸次昇騰せるのみならず、生絲相場の浮沈厚薄も一定せざるの現況なるが爲め、其原料をして彼の欲する如く廉に且つ精なるものを購入し、彼に輸出して其滿足を與ふることは餘程研究を遂くるにあらざれば、輕々之を實行し難きものなるを想像せらる、然れば我當業者に於ても須らく精密の調査を要するの價値あるものなるを信ずるなり、今同地方に於て撚絲工場の興起せざる原因を探ぬるに其土地の職工賃銀が非常高貴にして、伊太利國職工賃銀の廉に且つ技術の熟練等に一歩を輸するに依るものゝ如し、此他に在りては特に蠶絲業上に就て視るべきものあるを認めず、是れ固より同地は生絲の生産地にあらざればなり。

クレヘルト生絲檢査所　クレヘルト生絲檢査所は前に述へたるエルベルフェルド檢査所に於けるが如く其檢査の方法は最も綿密に其他總て組織も略ほ相似たるなり、然して同地は獨逸中機織業の最も盛大なる所なるを以て、檢査數量の如き前記檢査所に比し甚だ多かりしなり。

クレヘルド市蠶絲業の概況　同地には幸ひ商業會議所會員に審知己ありしを以て、其の案内に依り親しく市中の狀況を視察することを得たり、織物染工等は前記エルベルフェルド市に比較すれば甚だ盛大を極むれとも絹織物商業の點に至りては一歩を讓らざるべからざるに似たり、要するにクレヘルドは工業地に適當しありて歳々其織物に對する技術意匠の進歩、又は生産高の增進すること實に一驚を喫するものあり、這は夙に世人の熟知する所にして、里昂の機織者も常にクレヘルドに於ける斯業の進歩發達には大に注目しつゝある所なり、而して同地も亦撚絲工場の設けなきが爲め、他より撚絲として輸入するもの多し、是亦前陳エルベルフェルドに於ける撚絲業と共に當業者の攻究を要すべき問題たるべし、其他諸般の狀況は略ぼエルベルフェルドと同一にして特に記載すべき事項あるを見ず。

●白耳義　白耳義國は蠶絲業に對しては更に參考の資となるべきものゝ之れなきは豫て承知せし所なれども巡回の序を以て同國の首府なるブリクセールに立寄り一二泊當地に足を止め以て市内の情況を視察せしが果せるかな蠶絲業上に就ては別に見るべきものなかりし、併しながら同市は小巴里の綽名ありて其市中の清麗なること、又凡て組織の能く整頓しあることは頗る賞賛に堪へざるものありき、尙ほ同地は實業上の組合法等は特に完備せるものゝありしを以て、聊か參考の爲め調査せんと欲せしが如何せん滯

在に餘日なく歸途最早顏前に迫まられ遺憾なから其望みを充たす能はざることゝなれり、唯僅に絹織物店に就き稍實況を視察せしが、其陳列に係る現品は頗る美事なるもの多く、彼の巴里に流行しつゝある品物も亦少なからざるを見たり、特に我日本國より輸出せる羽二重を以て襟飾の類を製造し賣捌けるものを見るに、誠に驚美にして且つ又相應に需要せられつゝあることを見認めたり。

●英國　白耳義視察の後は十九世紀産業上の覇王と稱せられた英國に移り、其首府たる倫敦に至る、流石の倫敦の生絲織物業に採りては轉た落魄の感なくんばあらず。

倫敦生絲檢査所　倫敦の生絲檢査所は古來より設置せられたるものなれども其規模は甚だ狹小なるものなり、同所に出頭し所長に面會し經覽を求めしも、理事會の許可を得るにあらざれば內部の實狀を示す能はざるの內規なるを以て、其機械拵へ付等の詳細なる裝置を見ざりしが、只外部より之を觀察するに矢張各檢査所にて使用する檢査機械と同一にして少しも異る所あるを見ざりし、嘗昔東洋生絲が喜望峰を迂回して歐洲に輸出したるものは、一旦之を倫敦市場に上陸せしめ然る後巴里、里昂其他歐洲諸國に輸送したる頃は同檢査所も極めて盛大なりしも、蘇士運河の開鑿以來俄に衰微の狀を呈し、現今に在りては實に微々不振の狀態となれり。

倫敦絹織物業の概況　生絲の取引は現今猶支那及び日本の品を取扱ふと雖も、元來英國は絹綿交織其他綿紡績織の最も盛んなる土地故生絲の如きは別に見るべきものなかりし、又以前倫敦に生絲取引場を設けありしことを聞きたりしが、今尙ほ之が存立を見ると雖も僅かに月に二三回位の立合を爲すに過ぎざれば是亦微々たるの現況なり、此他蠶絲業に就ては毫も見るべきものなかりしなり。

●米國・英國より更に太西洋を橫きりて我邦生絲の最大顧客たる米國を訪問したり。

紐育生絲檢査所　紐育の生絲檢査所は十數年以前の設立に係るものにして、其檢査の方法は佛國に則りて之を施行しつゝありしが、機業家は今尙ほ生絲商の賣買量目を信用し、之に依りて容易に取引を爲し居るの慣例あるを以て、之が檢査の効用は未だ以て當業者の腦裡に浸入するに至らず、且つ又檢査料の高貴なるとに依り從て檢査の件數少し、之が爲め一時之を閉鎖する場合に臨みしものなれども、現今の生絲檢査所長は最も斯業に熱心に盡力せらるゝと、當業者間にも多少之れに賛同するものありしを以て、所謂有志の據金を以て之を維持するの有樣なり、予が今回の視察に依れば檢査數量も甚だ少く且つ其効用を感ぜざることは以前と同樣の狀態なりしも、未だ以て彼に之を閉鎖するに至るなきを信ずるなり。

バタソン絹織物業一斑　世界絹織物業を以て有名なる米國バタソンの狀況は豫てより視察せんことを欲せしが、歸途幸に紐育を巡回し途次其狀況の概要を知るを得たりしは實に滿足とする所なり、恰も好し同伸會社林鶴太氏は歸朝以前に際しバタソンの機業家、機絲場、染工場、仕上工場等を暇請ひ旣巡回せらるゝの機會に接せしを以て、爰に同氏と行を伴にし著名にして且有力なる數個所の工場に就きて親しく視察することを得たり、抑もバタソンの織物は昨今殖んど昔織機械を以て織成するものにして、其規模の宏大なること彼歐洲の盛大を極むる機業地と雖も猶三舍を避けざるべからざるの有樣なり、又撚絲場の如きも歐洲に比すれば凡て機械廻轉の速度を增し出產高も亦甚だ多額なるを見認めたり、殊に注目を要するものは本邦の輸出に係る羽二重に更に紗形を施す器械にして、且裝置の宏大なる生產高の多額なる實に驚くべきものあり、如斯宏大なる裝置の機械を有する工場バタソン市內に凡そ三百ヵ所ありと云ふ、近年機業家の競爭激しくしてペンシルアベニヤ州にも如此工場を設立せらるゝ數頗る多く、年々亦增加するを聞けり、蓋しペンシルベニヤ州に於ては石產の價格も廉に職工等も隨意に得らるゝ便ある を以て、バタソンに比すれば多少生產費を省き得らるゝが爲め此の通運を呈せるものなるべし。

本邦生絲の品評　前陳バタソン織物工場にて我生絲の使用法其他之れに關する批評如何の質問を試みたるに、何れも欠點の主なるものは纖度の不齊にありし此他再繰の困難、節の過多等に就きて大に注

意を促がされたるもの多々あり、と雖も、佛國里昂に於ける生絲商若しくは機業家が本邦生絲の品質に就て批難を唱ふるに比すれば、甚だ少きを見認めたり、惟ふに米國に使用する我生絲は經緯絲共に纖度の太きものを使用するもの多くして、里昂の如く美術的精巧の織物に用ゆる原料の細微にして、且つ品質の善良なるものを撰む者尠きに依るなるべし、然れども近頃米國に於ても歐洲の如く生絲若くは撚絲を生の儘之を機織器に掛けて織り立つるの方法行はるゝに至れり、故に其盛なるに及んで日本の細絲を以て之れに使用せんか、里昂に於けるものと同結果を現はし遂に伊太利の細絲を用ふるに如かざるものなることを稱道するに至るべし、蓋し現時米國に於ける其製出高は里昂の如く多額ならざるを以て未だ歐洲に於て批難を唱ふる程の感は惹起せざりしものならん、尙三ッ井物産會社支店長岩原氏の案内に依り紐育市中に於ける最も有力なる二三の絹物商を訪問して、本邦生絲の品位如何を質問したるに是亦纖度の不齊なるを唱へ、此後日本生絲をして益々米國の需要を擴張せんとするには其纖度の一定を圖らざるべからざるのみならず、極めて親切に繰絲法を施さゝるべからず、一昨年の如き生絲市價の暴騰に遭遇するも之に伴ふ粗製濫造の弊を矯正するに於ては、今後益々日本生絲の需要を增加するを想はるゝなりと云へり、又生絲合名會社支店長新井氏に就て詳しく其品位上の質問を試みしが何れも前陳と大差なき說にして、且つ同氏は謂へり日本生絲の特約賣買の盛んに行はれ、日本の製絲家も其約束を履行して受渡を嚴重になすに至らば販路益々擴張するに至らんと、此他數名の外商に就て本邦生絲の需要如何を聞き質したるに、何れも一昨年の粗製濫造に就て大に苦情を唱へあるものゝみ多かりし、中には昨年米國絹絲業協會より本邦當局者に提出したる意見書を示して之れを喞ッしたるものありしが、這は余も甚當時里昂に在りて詳細なる報告を得て知悉する所あり、且つ當業者も已に承知せらるゝことなるべきが故に再び茲に之を說くは少しく蛇足たるの嫌あれば敢て省略に從はん、兎に角生絲相場の俄然昇進するに際し、製絲家は此機會に乘じ多額の生絲を製造し巨利を獲得せんとなしたる爲め如斯不評を招きたるものなるべし。

以上生絲檢査所並に蠶絲業及び絹織業の狀況は畏に其大要一斑を略述せるに過ぎざるものなるが、聊か當業者參考の一助となる所あらば余の本懷之に過ぎざるなり、今左に上來述べ來りたる生絲檢査所及び其他諸般の概況を摘說して終結を告ぐることゝなさん。

余が視察せる生絲檢査所の數は總て十有四個所にして、此等は皆歐洲中最も主なる檢査所なり、之れに對して本邦生絲檢査所の組織其他の狀況を對照すれば、彼れは概ね商業會議所の監督に屬するか、又は株式組織にして殆んど營利的會社と其軌を一にするものなり、然るに我は官設事業にして未だ曾て檢査料を徵集するなく殆んど嫌勵的に之を施行しつゝあり、檢査數量は正量及び品位檢査共に未だ彼れと對比するに能はざるは論檢査事業優劣の標準となるべき乾繰釜數の如きは伊太利を第一とし、佛國を第二とし、我横濱を第三とす、品位檢査機械數は伊太利を第一とし、我横濱を第二とし、佛國を第三とす、次に其機械の排置法等を比較するに、彼れは其排列區々點列整頓するとなし難も、我國のものは何れも整然一室内に備へ付け働作上の至便なるは彼れに一歩を讓らざるなり、故に將來當業者が益々此正量及び品位檢査の效用を感じ來りたる暁には、我横濱生絲檢査所の如きは世界生絲檢査所中有數の位置を占むるものたるは深く信じて疑を容れざる所なり。

蠶絲に關しては前既に陳べたるが如く歐米各國共に品質不良にして、當時流行しつゝある機織器の使用に堪へ能はざる程不適當なりとの批難に到る處に喞ッしかりしなり、之れ實に我蠶絲業の一大病原と云はざるべからず、故に之を改良するの方法は將來幾多の試驗を重ね其病原を探究し以て之が改善の手段を講ぜざるべからず、果して彼が唱ふる如く我種は逐年劣惡に傾きつゝあるに因るものなるや、將た製絲上其技術未だ適當なる方法を盡さゝるに因るものなるか、蠶業改良上の一大問題たるべきなり、然れども其病原を發見し之が改良を施して以て其効果を奏するに至るは今後幾何の星霜を閱したる時にあるも

や前途轉た遼遠なるの感あり、去れば一方に於て此等の試驗を施行し其病原を探究すると同時に、一方に於て現今歐米市場に販賣する生絲に對しては經絲たると緯絲たるとを問はず、彼が嗜好に投合する樣織度の一定、類節の減少、再繰の便益等を圖り努めて之に滿足を與ふるは最も肝要なる事柄なりとす、之を要するに海外に於ける絹織物は、昔日の贅澤品にあらずして常用品の域に進み、生絲も亦之に追隨せるを以て、需用者は成るべく精且つ廉なるを購入せんとするの傾きあるは蓋し免るゝ能はざる所なれば、本邦蠶絲家たるもの常に彼が狀態を觀察し其方針を誤まらざることに勉めざるべからず、殊に絹織物の流行は年々其趣向を異にし歲々其意匠を變ずるを以て、機業界の變動と共に生絲需要の狀況も亦多少の變更するあるは勢免るゝ能はざる所なり、故に其生產者たると貿易者たるとに關せず、苟も斯業の局に當るもの進んで彼が事情に聽通し、退て我邦斯業の內情を洞察し、顧みて自己の經營事業を酌量し專心銳意改良進步を期圖せるあらば伊佛諸國を凌駕し競爭場裡に勝利の旗幟を翻揚せんこと敢て至難の事にはあらざるべし。

（完結）

●其長を長として其短を補ふべし

大日本蠶絲會枝藝委員　高橋　信貞

本邦生絲を伊佛其他の生絲と比較して長ずるところは、素質の白くして溝色染に適すると、練減の寡くして加工上に減耗寡少なるとの二點なり、之が特長は世界各國の生絲と對比して嶄然頭角を拔ずること、之を歐米機業地の實際に照らして炳なり、故に溝色染流行の時代には勢ひ我生絲に一層需要の加はり來りて、歐米市場は圓滿なる販路を得て需供相互間に於ける利潤も增進し來れるものゝ如くなれども、之に反し尋常普通の年柄には左の缺點あるを以て、常に伊佛其他の後に瞠若たらざるを免れざるの現況なり。

一色相に不同ありて商標は同一なるも一工場の製絲と認め得ざるのみならず、染上げたる絹帛面に不齊の色を現すこと。

一織度に不同ありて再繰に切斷多く、且つ繊立たる絹帛面に厚薄の不齊を生ずること。

一輪類多きが爲め繊立たる絹帛面に茸毛を生じ光澤を減ずること。

一繭の貯藏不完全なると繰絲機械要部の裝置に缺點多きが爲め、抱合あしく强力及び伸度を減し殊に延伸力の多きを要するリボンの如き絹帛の經絲に用ふるに耐へざるもの夥多なること。

以上の缺點は伊佛絲に對する比較上の缺點にして、彼の多數と我の多數とを比較したるところの評論なり、本邦皆彼に劣れりと云ふの言にはあらざるなり、本邦絲といへども「ヨコハマ」ストラ以上の有名品に至りては、精巧彼の優等絲を壓するが如きものあるは往々にして見る所なり、只比較的彼に良絲多く我に良絲寡くして、繰絲たるもの多きを遺憾なりとするところなり。

夫れ此の如きの實況なるを以て、生絲改良の要は我の長する所の特長をは益々之を長せしめ、而して我の彼より劣れる所の短所をは努めて之を補はしむるにあり、短所の補査完く成就し得るに至りなば、伊佛は決して我勁敵にあらざるなり、製絲國としての伊佛は決して恐るゝに足らざるなり、今や本邦絲を其產出地區に依り類別するときは、數十種の多きに彌るべけれども、其一二の地區に就き改良すべきの要點を知らしめむが爲め其長短得失を擧ぐれば、

一信州絲は色澤齊一にして白く、束裝亦同一にして一見顧客の愛情を惹くが如きの長所あり、然れども親しく之れが內部を點驗するときは、繰絲機械要部の裝置不完全なるが爲め抱合あしく、繊維半扁なるもの多し　又輪類多くして茸毛を生じ易く、繊度細太の範圍も亦廣きに彌るもの多きを見る、故に此地方は先づ以てタヘレット式（通稱クンチル）を改良して繰緒の抱合を完全にし、而して茸毛を少からしめ、原料の撰別配合に用ゐて精粗混同の弊を絕ち、而して繊度檢査を一層嚴密にする

の急務なるを認む。

一關西絲は品質純良にして、其纖度に細大の差寡なく佳良なるもの多しと雖も概ね其規模小にして產額寡なし、爲めに市場の在荷に就きて見るときは、其纖度は同一なるも觀體區々雜駁にして所謂端物の集合に外ならず、故に千斤若くは二千斤と云ふが如き注文に接するも、直ちに之に應ずること能はざるもの多き有樣なり、去りとて市場に千斤若くは二千斤の荷物の到達を待たんか且夕に變移せる頻繁なる商況常に好機を失ふことあるを免れず、加之ならず彼等は毎日製產するところの少數の生絲に就き之を檢し、之を括し、之を個となすを以て、一回の出荷は縱し齊一に其品位を保ち得るとするも、一次二次乃至三次と其回を重ね來るところの荷物を開きて一回に之を檢査するときは、勢ひ其品質に異動を生じ、色澤に手感に齊一を缺くものあるを常とす、是れ則ち小規模の工場に免るべかざるの弊源なりとす、故に此弊なからしめんと欲せば是非とも合同場返所若くは合同荷造所を其地方適當の地に設けて、小工場の生絲を集合し、同一の檢査同一の束裝同一の荷造をなし商標を一にして、少なくも一年三百個乃至五百個の生絲をば同一商標のもとに出荷せしめ、以て以上の弊源を清めさるべからず、但合同に就き豫め注意を要するは生絲の色相即ち水質の異同如何を吟味するにあり、玆に甲あり乙と合同せむと欲せば甲乙兩者が平生產出する所の生絲の色相と趣味とに察し大差なしとせば、國を異にし縣を異にするも合同して可なり、區々たる行政區域などに拘泥するの用なかるべし、工業に商業に固より國境縣界なければなり。

尙ほ關西絲に向つて望む所のもの一あり原料の配合に意を用ふる是なり、元來繭の配合は其色澤と其纖維と較や同じければ絲量に幾分の多寡あるも、之を合同して可なり、漫りに區別を多からしめ原料を數多の階級に分ち數段階の生絲を製出するの不利なるを知らむ、況や小規模の工場に於けるをや、一顧すべきの要件なりとす。

以上叙べ來りし如く地方によりて斯く其長短得失あるを免れず、故に自己の製品に察し其長を長として其短を補ひ、以て各自の利益を謀り延ひて國家に及ぼすべし、曾に品位の精巧のみに偏して色澤の齊一を缺き、區々の製品を出すが如きは策の得たるものにあらず、又外觀の齊一のみに心神を走せ內部の整理に缺けるが如きは固より余の與みする能はざる所、特に曰ふ色澤と纖度とは其品質の精粗優劣とに拘はらず、之を齊一に成就せしむるを要す、宜しく其地方の實況に察し許す限りの定度に於て、其短を補はれむことを切に望む。

蠶種製造なる語に就て

農學士　重松達一郎

鹿を指して馬と云ふ、之を信ずるものは鹿を知らず又馬を知らざるものなり、著し夫れ鹿なる語が時に或は鹿を意味し又馬を意味することありとせば、其混雜は實に言語の不備より起るものにして馬鹿々々しき極みならずや、況んや馬なる語あるに尙ほ之を指して鹿と云ふをや。

養蠶上使用せらるゝ術語多し、蠶種と云ひ、護種と云ひ、催青と云ひ、收蟻と云ひ、蠶兒と云ひ、眠起と云ひ、給桑と云ひ、老熟と云ひ、上簇と云ふ、是等は用語の法其當を得たるものなり、只かの蠶種製造と云ふに至りては實に不適當なる言語を應用したるものにして、名實相適はざる恰も鹿を指して馬と云ふに異ならず、然れども因襲の久しき蠶種製造なる語は普く使用せられ、法律また此語を認用せり、由來養蠶界には議論甚だ多し、然るに予輩見聞の狹きの致す處なるか、未だ此語の適不適に就て世人に議論あることを知らざるは、蓋し養蠶界多事にして他に研鑽考案すべきもの、蝟集の些々たる一の術語に付て云々するの暇なきによるなるべし、遮莫苟くも一の術語たる以上は、其適否を論する强ち無用の事として斥くべからざるなり、請ふ予輩をして此語に對する予輩の意見を述ぶるを得せしめよ、抑も製

造なる語は如何なる意味を有するや、之を知らんと欲せば須く其用途を調査するを要す、世人は眞綿製造と云ふ、然れども繭製造とは云はざるなり、簇製造、蓆製造と云ふも、稿を製造すとは云はざるなり、牛酪乾酪を製造すと云ふと雖も、牛乳を製造すとは言はざるなり、重過燐酸石灰を製造すと云ふ、然れども燐酸採掘に對て製造なる語を使用せざるなり、上述せる所を吟味すれば、製造なる語は天産物に人工を加へて其形を變じ若しくは其内に含有する或物質を抽出し、若しくは二つ以上の異りたる物質（天産物と製造物とを問はず）を調合して一のものとなすことを意味するものにして、一言以て之を蓋さば品物を造り出すと云ふに外ならず、而して生理的の生産物、或は純粹なる天然力の作用によりて生ずる場合には製造なる語は使用すべきに非るなり、馬は馬を生じ、牛は牛を産すれども人は馬を製造する能はず、又牛を製造する能はざるなり、故に製造物は常に死物にして生命を有するものに非るなり、蠶蛾をして卵子を産み付けしむることを佛國西にては Graineage と云ふ、此語ははた使用上毫も弊なし、夫れ蠶種の物たる草木の種子、魚介の卵と同じく生理的に生じたるものにして吾人が工夫を用ひ調製したるものに非ずして生活せるものなり、只其取扱に便利ならんを欲し、紙面に蛾をして産卵せしむる場合には、卵子の散逸を防ぐ爲に多少の工夫を要すと雖も、これ恰も婦人の分娩に際し産婆が爲す處の務めと同じきものにして、産婆が赤子を製造するものに非ると同じく、吾人は蠶種を製造する能はざるなり。蠶種製造なる語に弊あるや上述の如し、然れども他に適當なる是に代るべき語なくんば、止むを得ず舊慣に依らざるを得ずと雖も、名實相適ふの語あらば宜しく速に彼を捨て之を採用すべきなり。

經濟學上使用する所の生産なる語は、其意義甚だ廣汎にして農業、工業、商業、其他採鑛、漁業等凡て此内に包含せらる、然れども其生産なる語は何が故に爾かく廣汎なる意義を表示するに至りたるやを察するに、其初は動物の子を生じ卵を産するより思ひつき、而して經濟的業務の結果は新に利用を增進せしむること、動物の繁殖すると其趣を同ふするより、此二字を聯結して生産なる語を使用するに至りたるや疑ふべきに非ず、而して經濟學上の術語としては、生産なる語中に製造なる語の意義を包含するや明らかなり。

蠶蛾が其卵子即ち蠶種を他物に附着するは蠶蛾自身に蠶種を生産するものには非るか、吾人が蠶蛾をして紙面に其卵を附着しむるの手段は、蠶種を生産せしむるものに非ずして何ぞや、就れの方面より見るも蠶種なるものは人工によりて製造せられたるものに非ずして、蠶蛾の生産したるものの若くは吾人が蠶蛾をして生産せしめたるものなり、然らば即ち不適當ながらも從來慣用せられたる蠶種製造なる語を廢止し、將來は事實を表示し、且つ之を使用する上に毫も不便を感ずることなき蠶種生産なる新術語を採用することは、蠶業文學の發達に一歩を進めたるものに非るなきか。

右の理由により予輩は將來蠶種生産なる術語の應用を主張するものなり。

寄書

種類の興廢當業者の迷ひ

栃木縣安蘇郡犬伏町
大日本蠶絲會員　關根鑿次郎

本邦蠶業は世界の蠶業國を凌駕せんとする趨勢を以て進歩しつゝあるなり然るに伊、佛、支那等の蠶業國を視察せらるゝ學士或は視察員の齎す處の報文各〻異同あるは勿論の事ながら政府奬勵の方針として歸着する處なきの歎なき能はず是れ當業者の甚だ迷ふ處なり請ふ試みに蠶種々類の興廢ありし既往歷史を叙述し以て參考に供せんとす

其第一、二博覽會に於ては陳列場中黠々黄繭相交るを視る而して其黄繭なるものは不幸にして審査デーブルに上らず所謂門前掃ひを喰ひしと傳ふ

元來黄繭種は純白と云ふ點に於ては落第すべきも光澤てふ點に於ては優に白繭種の右に出づるや明けし矧んや蠶見強健、飼育容易從て收繭多きをや當時幼稚なる養蠶家は皆之を飼育したりしが當局の奬勵方針は勿論製絲家の如きも亦皆白繭の一方に傾き黄繭を顧みるものなし故を以て爾來年を逐ふて黄繭種地を掃ふに至る偶々之を飼育するものあれは其繭の價格の低廉なる殆んど買人なき迄に排斥せらる之に因て現今に於ては其形影だも絶つに至りしも亦宜ならずや

而して第一、二博覽會の時代は唯々絲量多きを貴び彼の福島縣信、達二郡に於ける赤熟種全盛の時代たり褒賞の如きも絲質光澤に重きを置かれざりしや是等の大巢繭が特に勝利を得たりと云ふ

又より第三回博覽會に於ては更に二轉して小巢繭たる小石丸の如き純白にして繊維細く光澤佳良なるものが採用せられたるに似たりと是より以遷靡然として小巢にして繭の長形なるもの流行し赤熟種の如き繊維細太不同にして純白ならざるものは殆んど顔色なきに至れり

其第四回博覽會は三轉して更に大振繭を撰む方に傾き又昔、青熟種の頻世に色めき出せり博覽會共進會の指導奬勵上來叙るが如し然り而して本多學士伊、佛の蠶業を視察し歸朝せらるゝや蠶種々類の良好なるものは彼れにあらずして却て隣邦支那にありとの意外なる報告に接するやゆ恰も局面一變の形勢を爲す

續々として視察員を派遣せられ支那蠶業の視察に日も亦足らざるの感あらしめしが如し

是より更に四轉して支那種及び之に類似せる角又種の如き中央縊目なき種類を奬勵せられたるに由り種屋として此二種を飼育せざるものなきに至れり之れが影響にや從來日本絲の長所として米に佛に賞揚せられをる練減り寡きこと、純白なること此の二點今や待み甲斐なくて日本絲も練減り多きの慨ありと傳ふ奬勵の結果右に左に搖然向ふ所なし豈に恐れ慎まざるべけんや此頃本縣木村半兵衛氏歐洲視察中伊佛の蠶業を調査せられたる談片を聞くに彼の二國は何れも本邦産の如き白繭なく皆黄繭なるにも拘らず世界蠶絲國の第一に位す該種は絲質佳良にして且つ彈力あり光澤あり何れの點に於ける最美優等にして彼れが如く精巧完備なる美術の織物を製出す絲質豈に敢て論ずるを俟んや而して蠶種は一種類を連綿繼續製種すが如きは血族改良の所以にあらずとし盛に異種類の掛合を爲すと果して然るか

其黄繭なるものは繊維光澤強彈力共に本邦種の黄繭種に酷だ相近似せるものにして最近歐洲土産として木村氏の觀察意見の如きは將來我蠶業界に於て頗る深重なる講究を要すると共に蠶種改良の一大問題に

して氏が厚意に酬ふる所なかるべからず

編叙し來らば吾人蠶業家は迷ふ事なからんと欲すと雖も豈得べけんや政府當局の士及び製絲家たるもの既往歴史に鑑み思ひ半に過ぐるものあらん本邦蠶種改良の大方針を確定するに方り三たび思ひを致して可なり兎に角吾人は本邦蠶種革新の時機到來せるを信認するものなり

◉全孚養蠶法に就て

福島縣伊達郡掛田町
大日本蠶絲會員　齋藤常雄

近來物價騰貴の趨勢は滔々として來り殆んど底止する處なし是れ社會の進運に隨伴する經濟界の現象にして止むべからざるの勢なり然り而して我蠶業界も亦其波及する處となり生産費の增加は益々度を高め我蠶業界將に危殆に陷らんとす養蠶家たるもの誰か寒心せざるものあらんや若し今日に於て貴族的玩弄主義の養蠶術を我蠶業界より一掃し盡し平民的少費多獲の養蠶術を採り以て我養蠶業を經濟界の狂瀾より救濟するにあらずんば或は桑園變じて桑圃となるの慘狀を現出するなきを保すべからず吾人は此際に於て養蠶法の革新改善すべきの必要を見る然らば即ち現今世に流布する各種の養蠶法中最も蠶體の生理に適ひ而して將來に於ける生産費の增進に伴我ひ養蠶業を永遠に維持し得べき養蠶法を採らざるべからず吾人は信ず現今及び將來に於ける生産の增進も顧みるに足らず氣候の變動に處して恐るゝに足らざるものは唯一の全孚養蠶法あることを然り然れども吾人が今日此の如き斷言をなさば斯法を知らざるの人或は言はん彼は井蛙大海を知らざるの言をなすと又或は云はん彼は奇を衒へ虚名を博し利益を貪らんと欲するものなりと吾人は其言はんと欲する處に任ずれども吾人は夫等の人に向て一顧を煩はさゝるべからざるものあり何ぞや他なし世の山師者流の如く他流の育蠶術を知らずして漫然筆を執り井蛙的の聲言をなし又奇を售らんと欲して親愛なる同業者を欺くものにあらざることを實に斯法の如きは明治十九年以來慎重なる試驗を積み細密なる研究を經て完全無缺なる飼育法なることを確めたるものにして現今世の熱心なる同業者の賛助を得て一瀉千里の勢を以て各地に傳播しつゝある飼育なり故に吾人は斯業に熱心の餘り未だ此飼育法を知らざる人の爲めに其大要を記して之を紹介せんと欲す親愛なる同業者諸君

若し夫れ改善の道に吝ならずんば少しく試み以て吾人の言の過なきを知られんことを庶幾くは以て自己を利し國を益することを得んか飼育法の大要は左の如し

全芽養蠶法とは蠶兒掃立より熟蠶まで桑葉の蔕を除かず又庖刀を用ひて桑葉を切ることなく一芽其儘にて給與する飼育法なり

掃立法は包紙に掃き卸し蟻量を改めたる後凡そ尺坪一坪に付蟻量二匁づゝの割合に配置し夫れに全芽を蟻量の二倍乃至三倍給與して蟻の悉皆其桑葉に附着したる時に竹の箸を以て桑葉の蔕を掴み豫め籾糠を二粒重ね位に撒布し置きたる蠶箔に矢張尺坪一坪に付蟻量二匁づゝの割合に移すべし

一二齡の際蠶兒の配置に厚薄を生じたる時は竹の箸を以て桑葉の蔕を掴み他に移し其配置の平均を計るべし伸暢に過ぎたる桑葉を給與し置く時は意の如く配置の平均を計ること困難なり故に一齡間は四葉より六葉二齡間は八葉まで開鋏したる桑葉を給與するを宜しとす又桑葉の蔕は水分多くして乾燥遲きものなりとて大に嫌ふ人あれども全芽飼育法にては之れを除くは却て凡ての點に利用せり給桑時間は一齡より四齡まで午前六時午後一時同九時の三回づゝ五齡は午前四時同十一時午後四時十一時の四回づゝに定め時宜により斟酌せり又給桑の時期は三齡まで桑葉の脈絡青色を帶び能く乾燥して捨も刻み煙草の撚り加減と同一なる時を給桑の好期なり而して四齡よりは普通飼育法と同じく食ひ切りを見て給桑すべし

三眠前に給與する桑葉は可成摘立のものを用ゆべし蒸凋したる桑葉は食ひ切り悪しく且つ蒸凋したる桑葉は葉々相密着するが故に蒸凋せざるものよりも知らず識らず多量に給與して殘桑を生ずることあるものなり稚蠶の際單に分箔を行ふには其分箔すべき分を竹の箸にて桑葉の蔕を掴み豫め籾糠を布きたる蠶箔に移し一を畜箔に殘して叮嚀に擯座すべし稚蠶の除沙は給桑せんとする前に籾糠を三四片に碎きたるものを一粒並び に振り掛け其上に二回給桑して其最後の給桑の七分方も食したらんと思ふ頃に捨も軸物座すべし分箔前の糠入は最も注意すべき件にして糠の多きに過ぐるも亦少なきに失するも共に蠶兒を棄捨することあれば其中庸を得ることに務むべし又四五齡に至れば網を用ひて除沙するを便利とす

好食期に至らば充分給桑してなるべくは忽ち就眠するものなり而して此飼育法は留桑にも全芽を用ゆるなり若し此際全芽は乾燥遲きを恐れ切桑を給與するが如き又温度を高めて蠶座を乾燥せしめんとするが如きは甚だ不可なり

桑附の時期は天候非常に暖にして桑葉の乾燥甚だしく手にて之れを揉めば細末となるが如き場合若しくは南風等にて蠶兒は苦悶の狀を現はす時は止むを得ず九分方位の起蠶を見て少しく給桑することあれども通常の場合には悉皆起き揃ふにあらざれば桑附せず飼育法の何たるを問はず蠶室内の空氣滯溜する時は忽ち失敗を來すものなれば蠶室内には常に換氣の滑なるを要す蠶兒を疾病に陷らしむるは概ね夜中に多きを以て特に注意すべし

飼育中の温度は常に七十度前後となし催眠期より桑止に至るまでは毎飼一二度づゝ高むるも可なり

此飼育法に利益ある點を示せば概ね左の如し

此飼育法にて要する桑葉は普通飼育にて要する給桑量に比すれば全芽飼育は一齡に於て普通飼育に要する四分の一、二齡は三分の一、三齡は二分の一にて足れり又桑掃に要する手數と器具とを省く而して一齡より四齡までは給桑回數一日三回にて足れるを以て副業的養蠶を營む人は山野の蹄途に桑葉を採り已れが食事と蠶兒の給桑とを了らば復た田圃に出でゝ耕耘し得るなり又普通飼育を行たる蠶兒と此飼育法にて飼育したる蠶兒とを比するに此全芽を給したる蠶兒は蠶體の肥滿すると發育の速なるとは豫想の外なり

全芽飼育標準表　但蟻量一匁

齡	蠶日齡	給桑 回數	給桑 一日ノ量	蠶座面積	備考
一齡	一日	三	一五匁	五坪尺	后九時桑付
	二日	三	六〇		后三時除沙
	三日	三	九〇	三	后九時蟻入
	四日	三	一一五	四五	前十時除沙分箔
	五日	三	一五〇	九	后五時除沙分箔
	六日	三	一五〇		前六時蟻入
	七日	三	三六		前七時除沙分箔
計	一八日	一四	四六六		前八時桑止

齡	蠶日齡	給桑 回數	給桑 一日ノ量	蠶座面積	備考
二齡	八日	三	一五匁	五坪尺	后九時桑付
	九日	三	六〇		后三時除沙
	十日	三	九〇	三	后九時蟻入
	十一日	三	一一五	四五	前十時除沙分箔
	十二日	三	一五〇	九	后五時除沙分箔
	十三日	三	三六		前六時蟻入
計	一四日	一	四六六		前七時除沙分箔
					〃 〃

齡				
三	十四日	一		前六時桑付
	十五日	二	六〇	后二時糠入
	十六日	三	二四〇	前四時除沙分箔
	十七日	三	三四〇	全十時除入分箔
	十八日	三	三六〇	后二時糠入沙分箔
四	十九日	三	四八〇	全后三時除沙分箔
	計	二	二八〇	二〇
	廿日	一五	一、六七〇	
	廿一日	一	一八〇	后十一時桑付
	廿二日	三	六三〇	后二時糠入
	廿三日	三	八〇〇	全六時除沙分箔
	廿四日	三	九五〇	二五
	廿五日	三	一一五〇	三五
		三	一、八〇〇	后二時糠入六時除沙分箔
		五	五〇	前六時糠入全六時除沙分箔

齡			
五	廿六日	一	三〇〇
	廿七日	〇	前七時桑止
	計	一七	五、八一〇
	廿八日	三	一、六〇〇
	廿九日	四	二、七〇〇
	三十日	四	三、二〇〇
	廿一日	四	四、七六〇
	廿二日	四	六、二四〇
	廿三日	四	七、六八〇
	廿四日	四	五、七六〇
	廿五日	二	一、二〇〇
	計	二九	三、四〇一
	通計	九三	四、二九二

前八時桑付
五〇　前七時除沙
七五　後五時除沙分箔

缺蠶見ハル

五齡三日目毎日午前六時午後五時ノ兩度ヲ除沙ス

再び蠶種の風穴貯藏に就て

長野縣南安曇郡安曇村
大日本蠶絲會員　中澤豐吉

余は本會報第百號寄書欄に於て蠶種風穴貯藏に就て寸言記述せし所ありしに會員諸君より左記の各項に就て質問を受くる日に多きを加へ今や殆んど爲す所を知らざるに至れり余は素より無學にして加ふるに公私多忙一々回答を呈するを得ざるなり依て本會報の餘白を借り多年の實驗を記述し以て畧答と爲し延引の罪を謝せんと欲す

問　蠶種を風穴に貯藏すれば一旦春季の温暖に觸れ發生すべき性質を有するものをして冷所に於て發生を抑壓するに至る害なきものなるや

答　夫れ蠶卵の性質たるや一旦寒冷の候を過ぎ再び暖氣に觸れ初めて催青するものなれば越冬後暖氣に觸れ卵心の萌發を催したるものを冷所に轉ずるは貴問の如く最も有害なるも風穴へ蠶種を貯藏する時季は本會報第百號に於て述べたるが如く外氣の温度と風穴内の温度と凡そ均一なる時季に貯藏する故冷所より冷所へ遷すものにして更に暖氣に感ぜしめざれば曾に冬季を少しく長からしむるのみにして蠶卵の生理上害あるを見ざるなり故に健全の蠶種を撰び貯藏の時季を過さず乾温其和を得構造亦完備せる風穴へ貯藏せば毫も卵性をして虚弱に陷らしむるの憂なく良好の結果を得ることは余が蠶種貯藏預りを業とするの久しき實驗上斷して疑を容れざる所なり

問　風穴内に蠶種を貯藏し得る日數は何十日位なるや又何十日位まで貯藏するも被害なきや

答　最も完全なる貯藏箱へ入れて風穴へ貯藏するときは蠶種は産卵後一ヶ年間を保つも更に害なく發生良好、蠶兒强壯なるを以て風穴内に蠶種を貯藏し得る日數は一化蠶、二化蠶、四化蠶を問はず今假りに旬今年七月産卵せしものは翌年七月下旬まで八月下旬産卵せしものは翌年七月下旬乃至八月下まで九月上旬産卵せしものは八月下旬乃至九月上旬まで貯藏し得らる故に其の期間は何時出穴催青するも差支なし

去る明治二十三年一月中伊豆國の養蠶家より春蠶種の箱入壹個を郵送し來り風穴へ貯藏し預りしも其後何等の通知なき爲め其儘翌年三月に至り風穴の掃除を爲すに際し各國より蠶種を入れ送り來れる破損其他の爲め捨て置きたる箱と共に風穴より取り出し自宅の二階へ上げ置かんとせしに其箱中蠶種の存在するを以て之を取出し二階に其儘掛置きたり然るに五月下旬に至り十中七八迄發生せり是れ産卵より一ヶ年と十一ヶ月間を經過して孵化せり今回質問を受けて之を追想せり唯之が試育を なさざりしは甚だ遺憾とする所なり

問　風穴へ貯藏せし蠶種は出穴後何日目に孵化するや

答　其出穴の時季早晩により催青日數に長短あるものなり例へば六月頃晩春蠶に飼育せんとして出穴する時は十七八日間を要し其際冷氣なるときは三週間位を要することあり又飼育の土地により其日數に大差を生ず例へば九州四國地方の暖國と我が信州の如き寒國との如し七月頃の出穴は十四五日を要し八月頃の出穴は十日乃至十二日目に發生す然れども出穴當時の寒暖により多少の伸縮あるは氣温の致す所なれば必ず此期間を要すと斷言する能はざるも余が多年の實驗上に於て大差なきを信ずるなり

問　風穴秋蠶種とは何種類を云ふや

答　何種類を論せず風穴へ貯藏して發生を抑壓し七月下旬より八月乃至九月上旬より出穴して發生飼育する蠶種を云ふ

問　貴所風穴へ春蠶種を產卵後直ちに貯藏するときは何日目に出穴發生せしむるを以て發生一齊となすや

答　余も春蠶種の人工越冬孵化に就ては先年來苦心するも未だに一齊に發生せしむるの良法を案出せず研究の足らざるを嘆息しつゝあり然れども昨年より聊か期する所も之れある故に今明年研究の上御答申すべし先づ以て伊豆國渡邊及び矢田部兩氏の實驗に就て見られなば誤りなからん（本會報百三號）發生は一齊ならざるも健質强壯にして育蠶し得ると云ふは余が風穴へ貯藏せられたる諸士の實驗報告と余の試育に徵して明かなり然れども之れ將來に向て奬勵すべきや否やは今後斯業大家の考慮を要する所なり

◎桑樹害蟲の寄生蟲に就て（承前）

静岡縣濱名蠶業學校內
大日本蠶絲會員　生熊與一郎

其四　桑葉捲蟲の寄生蜂（第四種）

該蜂は體長二分翅の擴張四分許りあり前種よりも稍大形の種なり頭部の長さは一厘八毛、巾四厘の長方形にして其兩側に大なる黑色の複眼あり頭部の大半を占む其兩複眼の中央に三個の單眼あり黑色の內に紅色を交ふ觸肢は圖の如く非常に長く長さ三分七厘あり四十四節より成り基部の二節は大に三節は小さくして細く四節は又大となり上部に至るに從ひ漸次其太さを減ず而して基節の三節は褐色にして其より九節までは黑色なし十節より二十節まで淡褐色なり二十一節より四十四節までは又黑色なすり口部には割合に長き下顎鬚及び下唇鬚を具ふ胸部は頭部と同じく飴色にして長八厘巾四厘の橢圓形をなす腹面に三對の肢背面に二對の翅を具ふ前肢長さ二分二厘中肢は長二分四厘後肢は三分二厘あり前中の二肢及び後肢の基節、轉節は共に胸部と同色をなせども後肢の腿節及び脛節は黑色をなし附節は白色をなす翅は前後共に無色透明にして前翅は長さ一分六厘八毛あり後翅は長さ一分一厘、巾三厘あり腹部は其胸部との堺非常に細く漸次其太さを增し第六關節は最も太く第七關節は稍ゝ細まれり腹部は八關節よりなり一、二、三節即ち細き部分は飴色にして四、五節は黑色と飴色とを混交し六、七、八節は黑色をなす即ち第五圖に示すが如し而して前記の成蟲は桑園の諸所を徊徘し若し葉捲蟲の所在を認む時は直に飛來りて先づ桑葉の表面を數回徊り後葉裏に至りて葉捲蟲に尾部を接し產卵管を體內に刺し込み一粒の卵子を產み込みて飛び去る體內に產み込まれたる卵子は二三日にして孵化し後三日乃至四日即ち產卵より六七日目には葉捲蟲の體色青き者は白黃色となり（此時葉捲蟲を解剖し試みたるに蛆即ち寄生蜂の幼蟲は五厘許あり）是より二三日を經過すれば宿主は食桑を止め靜止す此時寄生蛆は躰內にて盛に成長し葉捲蟲と略ぼ同大となり外皮を脫ぎ出づ蛆は外皮硬化し淡褐色となり又變じて黑色となる此變化は蠶蛆の幼蟲より蛹に化する場合と異なる事なし其形は第六圖に示すが如くにして長さ三分、巾一分許りありて上面は滑澤にして關節等は不明なり蛹は殼皮內にあり普通の蜂の蛹と異なるなきを以て別に記さず蛹の殼內に繫する事六日乃至十日にして再び成蟲となる成蟲の生期は二日乃至六日なりとす

第五圖

桑葉捲蟲寄生蜂第四種

第六圖

イは蛹　ロは蛹の羽化したる

桑葉捲蟲寄生の蛹

附記　葉捲蟲の寄生蜂には前記四種の他に尙二種あれ共詳しく研究したる後之れを報ぜん又寄生蜂第一種には一種の寄生蜂あり是れ亦詳しく研究を攻めて報ぜん

其五　シロコかヲの寄生蠅

客年七月二十五日某地（出張の際クロコガネを捕へ來りし之が飼育をなせり然るに其擧動不活發となり遂に日中と雖も土中に入らず養蟲箱内を徘徊して斃死する者あり因て解剖を試むるに體内に五頭の完全なる蛆蛹ありしを以て直に試驗場に入れ日々蛆蛹の出づるを待ち居たり斯くて八月九日に至り一頭の完全したる蛆蠅發生し翌十日に三頭發生し共に活潑に場内を飛翔せり（試育したるクロコガネ二十七頭の内

第七圖

クロコガネの寄生蠅

該蠅の寄生を受けたるもの五頭に及び一頭に寄生蟲の數四乃至五頭あり）

此蠅は七圖の如く一見家蠅に酷似すれども能く詳細に調査する時は全く異なりたる點のみ其體長は二分六厘七毛翅の擴張四分五厘にして大さは略ぼ家蠅位なれども家蠅に比し全體肥滿し灰黑色をなし黑粗毛を生じ（殊に腹部に多し）頭部は長さ五厘三毛、巾九厘二毛にして複眼は頭部の兩側にあり暗赤色をなす而して複眼との間には白色の短毛を密生し其中央に縱黑線あり觸肢は三關節よりなり其長さ一厘にして之に三厘五毛の長毛一本を生ず胸部は長さ九厘巾八厘あり背面に四條の黑線を走せ之に沿て粗毛を生ず肢は全體黑色にして圖の如く比較的長く腑節は四小節より成り末端に小吸嚢及び二本の鋭き爪を有す各部に粗毛を生ず殊に腑節に多し翅は圖の如き形狀にして長一分九厘一毛、巾七厘ありて腹部は長一分二厘、巾一分にして雌は五節よりなり尾部に至るに從ひ長毛多し

其六　桑のキンケムシの寄生蠅

桑のキンケムシの寄生蠅に二種あり其一は家蠅と略ぼ同樣にして體長二分七八厘、翅の擴張五分内外ありて全體黑灰色をなし體の少しく痛せたる樣清國蠶の寄生蠅に似たり而して頭部は長五厘、巾九厘許りあり複眼は大にして胸部と同色をなし光澤を帶ぶ觸肢は複眼の内側前方にあり長さ五厘に滿たず三關節より成り蛆の觸蠶に似て第一、二節は短かく第三節は大にして其基部より一本の長毛外方に向つて生ず胸部は長巾共に一分内外にして背面には五條の黑色なる線を縱に走らせ粗毛を生ず翅は長二分巾一分餘ありて條の縱翅脈及び二條の横翅脈あり腹部は六關節にして長一分、巾八厘あり一見五關節の如くなれども第五關節と重なり居れり腹部のイカツキ樣は宛ながら清國蠶の寄生蠅の如し其他肢の構造及び生殖器等普通の蠅と同じけれは茲に之を略す

此の寄生蠅は如何にして寄生するやは未だ判然せざれども兎に角體内にて一體の白色なる蛆となり後に化蛹し早きものは幼蟲、遲きは蛹蟲を斃し前の一方を破りて羽化して出づるものなり　（六完）

正誤前號桑葉捲蟲第三圖は第四圖、第四圖は第三圖の誤

雜錄

桑樹の伐採と生理作用

栽培物中主として其葉を摘用するもの桑樹の他に猶ほ無しとせず、例せば茶樹の如き是れなり、然れども該樹にありては其摘葉によりて未だ桑樹萎縮病に於けるが如き判然たる病害なきは、第一茶樹の常綠木にして冬間も猶ほ數多の葉を有し、以て葉の官能を營むを得ると、且つ該樹にては桑樹の如く枝條も併せて採伐する甚しきに至ることなきのみならず、其摘葉の狀態自ら相異なるによるものなるべし、又三種の如きも其枝條を採伐すれども、該植物にて其採伐期が、冬間葉なき時なると、且つ其葉片を摘取することなきは、以て桑樹に於けるが如き萎縮病を生ぜざるゆえんならんか。

然るに今桑樹に於ては摘葉伐條の狀況果して如何、春蠶飼養期は恰かも新葉の正に生長して盛んに同化作用を營むの時ならずや、此時に當て夥多しく葉片を除去するのみならず、枝條も共に切伐するは桑樹生計上に損害あるは明らかなり、而して枝葉切伐の結果は交互作用により新機官形成力を惹き起し以て缺損部を補成せんことを勉むるのみならず、該形成力の旺盛なるが爲めに過度の發生を促し、多數の枝葉を生ずるに至る、是れ種々の樹木に於て、伐條の結果夥多しく新枝條を發出するを見て知るべし。樹木の種類によりて悉年貯藏養分充分ならず、且つ機官形成機能も亦活潑ならざるものにありては、春來新枝葉發生の後、殆ど其全部を採伐するときは再び之れに代ふべき新枝葉發生の力なく、唯僅かに痔枝、痩葉を生じ、隨て全株の甚しく衰弱するものあり、然るに桑樹の如きは之に反し、其貯藏養分の比較的豐富にして、且つ其機官形成力の甚だ活潑なるを以

て古來より已に知られたる植物にして、春時より秋時に至るまで一年中の發育時期中絶えず新枝葉を發生するの機能あり、故に其材質即ち木帶部の肥大生長の如きは、中秋の候尚は識別し得べし、是れ獨人モール氏が今より三十年前に於て已に認めたる事實なり。

此の如く桑樹は活潑なる機官形成力を有し、且つ其陸續萠出せる新葉により絶えず同化物質を得るの特性あるを以て、今新たに桑園に植え附けたる新株に於ては、能く當初數回の摘伐に堪え、俄かに變狀を呈せざるも、而かも若し連年同樣の亂採伐を施して止まざるときは、遂には生理作用の紊亂を生じ發病を免かれざるに至る、何となれば今茲に根刈の桑株ありとせんに、春蠶時に於て新枝葉の大半を刈り取るときは、再度の新枝葉發生の爲めに切株中に殘留せる前年度の貯藏物質の一部、幷に今年度に於て採伐前已に形成せられたる同化物質を用ひざるを得ず、斯くして生じたる第二次の枝條にして陸續新葉片を發生し、晩夏に至るまで其官能を全くし充分なる同化作用を營なむことを得るときは新成の養分充分に枝條中に轉流し來るを以て、桑樹は一旦損失せる養料を回復するを得れども、若し然らずして再び夏蠶時にも摘葉せられ秋蠶時にも亦採摘せられ、甚しきは春蠶以來、秋蠶時まで間斷なく枝葉を除去せらるゝときは、固より桑樹生計の能く支ふる所にあらざるを以て此の如きは遂に僅々一兩年を出てずして全株の衰弱を招くべし、余が巡回したる地方の桑園にて調査せる所によりても採伐の最も甚しきものは發病期最も早く左まで劇しからざるものは能く五六年を支へ而して其頗る採伐に注意せるものは十年に渉りて毫も病兆を呈せざるものあり、（三好理學博士桑樹萎縮病調査抄錄）

●人造絹絲と天然絹絲との區別及一二の性質

人造絹絲纖維の太さは天然品のものよりも五六倍大なり、故に顯微鏡下に一照するのみにても區別するを得。

人造品を燒くも天然品の如き特臭を發せず。

人造品を稀硫酸と共に二〇〇度に熱すれば炭化し粉狀となり沈下するも天然品は左程侵害さるゝことなし。

人造品を苛性加里溶液にて熱すれば液は黃色を帶るも天然品にては色附ず。

人造品を沃度及び硫酸にて處理すれば青色或は帶赤青色を呈するも天然品は褐色を帶ぶ。

人造絹絲の未だ天然品と競爭する能はざるは獨り其價格の高き爲のみならず其持ちの惡き事も其一原因なり、其持ちの度合は天然品を一〇〇とすれば人造品は二四ー五〇の間にあり、濕りたるものは殊に持ち宜しからず、又水に觸れて著しく膨脹することは其一大缺點と云ふべし。（據工業化學雜誌）

●軟化病の消毒

傳染性蠶病の病毒を消滅せしむる方法種々ありと雖も、就中フォルム、アルデヒート一名蟻酸アルデヒート瓦斯は其殺菌力强大なるを以て歐洲諸國に於ては既に已に諸般の消毒に利用せられ、又蠶の傳染性病毒を消滅せしむる効力あることも亦諸學者の實驗に據りて明かなり、而して此瓦斯を蠶室及蠶具の消毒に適用するには諸法あり就中主要なるもの左の如し、

一、木精（原名メチール、アルコール）を不全酸化して

此瓦斯を發生し以て燻蒸すること、

二、「トリオキシメチーレン」（固形態）を灼熱すること、

三、「フォルム、クロロール」を高壓の下に沸騰せしむること、

四、「フォオルム、アルデヒード」ノ水溶液即チ「フォルマリン」を撒布すること、

蠶室の間口二間半奥行二間高さ八尺五寸總容積千五百三十立方尺に及べるもの四方共に板戸を以て之を密閉し、空隙は盡く目張りを施すも尚ほ瓦斯の室外に漏洩するを免れざる故に蠶室を燻蒸して消毒の効を奏せんには短時間に多量の瓦斯を發生せしめざるべからず、此目的に適へるは前記諸法の中フォルム、クロロールヲ使用するにあり、木精を不全酸化せしむるには簡單なる器具ありと雖も同時に多數を使用せざれば効力完からず、從て其製造費及木精の消費額敢て少からざるべし本邦に於ても既にフォルム、クロロールヲ使用して蠶室及び蠶具を燻蒸消毒する者あれども室の容積に對する藥劑の用量及び時間を

測定して世に公にしたることなきを以て玆に軟化病毒に就き之を試驗せり。

フォルム、クロロールは精製鹽化石灰若くは食鹽四乃至五瓦を十立方センチメートルの清水に混合したるものを、更に濃厚なるフォルマリン（アルデヒードの含有量百分中凡そ四十に達せるもの）百瓦に混和したるものにして、之をトリラ氏消毒器中に容れ其蓋を密閉したる儘加熱し、攝氏百卅度乃至百卅五度に上り三氣壓以上の壓力を生ずるを待ち、噴出管を開くときはフォルム、アルデヒードは其末端より盛に發散すべし、此試驗は以上の裝置に依り容積千五百三十立方尺ある前記の蠶室を充用し、室内には養蠶期中の如く蠶架を設け籠を挿入し其上に俗に皆川莚と稱し經絲に麻絲を用ゐたる薄き藁莚二枚乃至六枚宛を載せ、中間に縮小病蠶より採取したる軟化病毒を塗抹したる絹絲を挿み、或は之を露出して瓦斯を送入したる後其儘密閉し置くこと若干時間にして絹絲を取り出し、液體又は固體培養器に移して病毒繁殖力の有無を檢査し效力如何を判定せり。

種別目標	瓦斯噴出時間	藥器用量	室内密閉時間	蠶架ノ薄重積數	成績
第一號	一一八分	一〇五瓦	二日	二枚	無効
第二號	一一	一三五	二	二	同効
第三號	一一	一三五	二	二	有効
第四號	一五	一四〇	二	二	無効
第五號	一五	一四〇	三	二	有効
第六號	一五	一四〇	三	四	同効
第七號	一五	一四〇	三	六	無効
第八號	一五	一四〇	三	四	有効
第九號	一五	一四〇	三	六	無効
第十號	三〇	一四〇	三	六	有効
第十一號	三〇	一四〇	四	八	無効

以上成績に由りて之れを觀れはトリラ氏消毒器を以て燻蒸せんには、前記の如き室に對しては百立方尺の容積に就き十一瓦のフォルマリンを準備し、此に相當する鹽化石灰又は食鹽を加へ七十秒間以上瓦斯を噴出せしめ、爾後三時間以上密閉し置かざる可らず、且つ蠶架一段毎に皆川莚四枚以上を重積するときは消毒の效を完ふせざることあるものとす。

本器は極めて堅硬なる金屬製にして、其蓋は螺旋によりて固定すべく、寒暖計と壓力計とを備へ噴出管の末端は細管より成るが故に本器を燻蒸せんとする室外に置き噴出管をして板戸を貫通せしめ室内に瓦斯を送入するを得べく、且つ本器に附屬する石油燈は石油を漸次揮發して燃燒せしむるの裝置なるを以て高熱を生ぜしむること容易なりとす。

フォルマリンを撒布する方法は瓦斯の漏洩を防ぐこと困難なる蠶室、或は居宅を以て蠶室に應用する場合には適當なる消毒法にして農學士大森順造氏の研究に依れば、軟化病毒を一時間以上百分の一のフォルム、アルデヒードを含有する液に浸漬するときは悉く繁殖力を失ふと云ふ、而して從來消毒液を撒布するには護謨製品を用ゆるを以て通例とすれども、此試驗に於てはムラトリ式自動噴霧器を試用したるに、百平方尺の面積に對し三百立方センチメートル（凡そ一合六勺六才）の割合を以て前記の液を撒布せば能く消毒の目的を達すべきを確めたり、故に本器は室内に瓦斯を送入するを得べく、且つ本器に附屬する石油燈は石油を漸次揮發して燃燒せしむるの裝置なるを以て高熱を生ぜしむること容易なりとす。

フォルマリンのフォルム、アルデヒードを含有する量は常に一定せずして多少の差あるを免れざれども純良なるものは其量概ね百分の四十に達し、之れを卅九倍の清水に混し百分の一のフォルム、アルデヒードを含有する液を得べし、然れども容器開封後數日を經過し、或は其他の事情に依りて白色の沈澱物を生じて混濁せるものは「アルデヒード」の含有量甚だしく減少し、廿倍の清水に混して撒布するも消毒の効を完ふせざることあり本品を購入使用する者須らく此點に注意すべし。（蠶業事報告十六號河原農學士試驗）

統計

三十四年一月中生絲類及絹物類輸出入前年對照表（次日本外國貿易月表に據る）

種目	三十四年一月分 數量	三十四年一月分 價額	三十三年同上 數量	三十三年同上 價額
輸出 生絲	六六、六二〇	四八、二〇六、〇六	三五、六二〇	四、三六二、三六
撚糸	四三、八四〇	三四、二九八、八〇	一〇六、六三〇	二四、一〇〇、〇〇
羽二重	二二、三四四	一、八四一、八九四	六九、三三	一、四四〇、三五
甲斐絹	四、二三	三六、八四九、三六	二、四四四	四四、三四〇、〇〇
他の諸絹布	一、八六七	一四、八八、三〇	一、〇〇	二四、八六、一三
絹製手巾	四七、六六	一六、一〇四、三〇	三四、〇〇	七、八四、一三
刺繍絹布		三四五、一五〇		三、六〇、〇〇
他の諸絹製品		九、三二、九三		八、四、一六、四四
計		七、六六六、八三五、八九		四、一六、一六、四四
輸入 蒸生糸	七、九二五	三六、一三一、一四	八九、一三四	八八、四四一、六九
計		三六、一三一、一四	八九、一三四	八八、四四一、六九

種目	三十四年一月分 數量	三十四年一月分 價額	三十三年同上 數量	三十三年同上 價額
絲織				四六、三六九、二四
縮緬	三三、三四九	五、一〇九、一九	三三、四四四	三四、一〇〇、〇〇
絹紬	六、二三〇	九、三六、四一	一〇六、六三〇	二四、八〇、一三
絹縮	七、六六一	六、三三、一八	一九	四、三〇、一三
絹縮天鵞絨	三、四六一	四、七四一、一四		
他の諸絹布	七、〇六四	五、〇四、三七		
計		一〇六、八三六、一一		一四四、四四、四四
輸出 他の諸絹製品				四六、三六九、二四
計				四六、三六九、二四

（參照）三十四年一月中輸出入品價額連月比較表

月次	輸出	輸入	合計	輸出に比し輸入は 增	輸出に比し輸入は 減
一月	一六、七四、三四、四一円	一八、三四、八三六、三四円	三四、六三三、〇〇、六三円	三、一〇六、八三六、八三円	

備考　三十三年一月中は輸出千五百十一萬六千九百七十六圓六十四錢、輸入二千二百二十八萬九千七百八十九圓二十一錢にして輸入超過七百十七萬一千八百十二圓五十七錢なり

問答

●桑樹と蠶蛆の關係に就き質問

三重縣阿山郡花之木村　大日本蠶絲會員　木津悦造

曾て桑樹の仕立方と蠶蛆の關係に就き質問せるに三吉農學士は蠶蛆の蠅は桑梢の上部に產卵すること多くして下部に少しと答へられ又練木技藝委員の講話中にも是れと同樣の說あり然れども余は尙疑團の氷解せざるものあり何となれば桑梢の上部は空氣の流通及び日光の透射宜しきを以て蠶蛆の飛來り產卵すること寡く下部は之に反するものあるを以てなり果して如何のものにや

答　大日本蠶絲會技藝委員　土屋泰

蠶蛆の蠅は日光の强射して常に風の當り多き處を忌むは事實にして彼の蠶種製造の盛なる地方に所謂步桑畑なるものあるは其適例なり而して此等の桑園は概ね河流に沿ふて前陳の二件を具有せる地勢に在りなれども一株の桑樹に就て云ふ時は上部に多くして下部に少し蓋し蠶蛆の蠅は枝條繁茂して鬱蒼たる場所を好み產卵すること多しと雖も既に硬化せる葉には產卵することなく發育旺盛なる軟葉を撰みて產卵するものなり然るに蠶蛆の蠅の好む葉質は枝條の先端及び新芽の頂點に近き處にあり是れ產卵の桑樹の上部に多き所以ならん

●蠶兒の血球に就き質問

山形縣西置賜郡宮内村　大日本蠶絲會員　丸川鶴松

强壯なる蠶兒の血球は瀰浸せる微粒子を自己の血球に同化する性質を有するものなりとの說あり余は其了解に困む蓋し强壯の蠶兒は微粒子を寄生せざるものと信ず願はくは其理由を明敎し賜はらんことを

答　大日本蠶絲會技藝委員　理學博士　佐々木忠次郎

强壯なる蠶兒の血球は能く微粒子毒を殺滅し虛弱なる蠶兒の血球は之を殺滅するの力に乏し故に健蠶兒に至りては病毒に罹ること尠く弱蠶兒は病毒に罹ること多しとす質問者の說に强壯の蠶兒は微粒子を寄生せざるものと信ずとあり其寄生せざるの理由は蠶兒の强健にして血球の作用の敏活に依るものに外ならず

●蟻量及び風穴の件に就き質問

愛媛縣宇和郡三瀦村　大日本蠶絲會員　亀岡哲夫

(一)掃立蟻量は春夏秋蠶各同じき者なる哉例へば蟻量壹匁は武斗五升の收繭に當ると云ふが如し

(二)近來風穴種の秋蠶大に盛となれり右風穴の構造は如何にして宜き哉設計詳細に示されたし

答　大日本蠶絲會技藝委員　芝山直清

(一)春蠶の蟻蠶を夏秋蠶の蟻蠶に比すれば其體大にして重きを以て等しく蟻量一匁と稱するも夏秋蠶の蟻蠶は其數多きを常とす然れども其成繭は小にして繭層亦薄ければ收繭額は春蠶に比し升量寡きを常とす

(二)風穴の構造は地形其他の關係に由り異なるを以て爰に詳記しがたしと雖も要するに盛夏の候華氏四十二三度以下の場所あらば其地の實況等報道あるべし

●消毒の件に就き質問

山形縣四村山郡東五百川村　大日本蠶絲會員　清野國次郎

(一)蟻酸アルデヒート瓦斯は何々原素の化合體なるや及び各原素の化合比例を問ふ

(二)蓄烟するに十分枯燥せる木葉と乾燥せざるもの即ち伐本したる者を直に蓄烟すると何れか該瓦斯の發散に多少あるや

(三)蟻酸アルデヒート瓦斯は人體及び蠶體に直接害を及ぼすこと微弱にして最下等動植物即ち微粒子及び細菌類に大害なるは如何なる化學作用を及ぼして死滅に至らしむるものなるや之に反し亞硫酸瓦斯は良く酸素を奪取し人體及び蠶體の呼吸作用を妨げ害を爲すこと最も激甚なり然るに消毒力却りて前者に及ばず所謂前者は稍高等動物に害少く最下等動植物に害多くして後者は全く前者に相反す是れ如何なる理由なるや理化學上最も精確なる御敎示を乞ふ

(四)河原農學士の說に田中商店販賣の簡便安全消毒盪一個にて普通蠶室(但し十疊間高さ八尺五寸)には十分消毒する事能はず十分消毒せんには七八個を要すと然るに經濟にして輕便なる蓄烟法にて咫尺を辨ぜざる位になし二三時間にて十分消毒し得らるゝ者なるや唯幾分の功あるのみなるか詳細なる試驗あらば御明敎を乞ふ

大日本蠶絲會技藝委員　農學士　河原　次郎

(一)蟻酸「アルデヒート」は炭素一原子、水素二原子、酸素一原子より成れる炭素化合物なり

(二)充分試みたるものなけれども生木の方多かるべし

(三)化學的には非るべし中毒して原形質の生活力を失はしむる爲めなり生活力とは如何なるものなるや明かならざるを以て此アルデヒードの亞硫酸瓦斯と消毒力に差あることも明かに考へられざるなり

(四)木材蒸烟法は普通の室にて廿時間以上行はざれば消毒の効なきが如し

●原繭製造人督勵の件に就き質問

奈良縣宇智郡牧野村大日本蠶絲會員　森本　二一郎

余は今般熟練なる養蠶家十五六戸を原繭製造人に契約し擔當せしめ就中優等なる成繭六七戸分を以て蠶種製造の原料に供せんと欲す其賢勵の方策如何せば可なるや謹んで御教示を乞ふ

但督勵金百五拾圓内外使用の見込

答　大日本蠶絲會技藝委員　松永　伍作

製種用の蠶兒を數多の擔當人(養蠶家)に分養せしめ其成蹟の優劣に由り採否を定めんとするには先づ飼育中に於ては蠶兒發育の良否を鑑別し易き時期即ち眠起及び上蔟等に際し養蠶熟練なる者を巡檢せしめ成繭後に於ては其繭の良否を仔細に鑑査し飼育中病害少なくして繭質の良好なるものを選擇採用するより他に良策なかるべし

但各養蠶家は自己の蠶種製造擔當代理人となし蠶種檢査法に依り都ての手續きをなし且受檢を要するは勿論なりとす

●繭の鑑別法に就き質問

宮城縣玉造郡岩出山町大日本蠶絲會員　櫻井　順藏

繭を檢して蠶兒の飼育を批評するものあり例之(は)繭を截斷して靜に之を揉み其厚さの層を見て一眠は可、二眠は否、三眠四眠は云々と此等の鑑別法は正確のものなりや如何御教示を願ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　吉池　慶正

成繭の品位は飼育の適否と相關聯することは言を要せざる所なりと雖も繭層によりて各齡に於ける飼養の適否を判斷することと能はざるなり何となれば繭層

なるものは上蔟の狀態に關係するものにして決して蠶齡の異るによりて之を生ずるものにあらざればなり

●製絲用水の件に就き質問

新潟縣北蒲原郡葉鳥村大日本蠶絲會員　浮須　市造

(一)炭酸石灰硫酸石灰を含む水は硬度何度位迄製絲用に適するや

(二)石石灰鹽を軟化せしむるに適當量の苛性曹達を加ふれば宜しかるべしと雖も定量分析を爲さゞれば加ふ可き藥品の適當量を知る能はざるを以て之を行ふ難しとす故に目分量に之を加ふるには硬水及び軟水を試驗する際白濁の沈澱を生ずる位の水ならば幾何量の苛性曹達を加へて宜しきや

(三)硬水及び軟水なるやを試驗するとき少しく白濁を生ずる位及び白濁の少しく沈澱する位の水は製絲用水として差支なきや

(四)鐵鹽類を含む水は水十萬分中何分位迄製絲用に適するや

(五)井水の不絶流出し居る水底に褐色の沈澱物を生じ居る位の水は(固より定量分析に非らざれば確たる事は知るを得ざるも)製絲用水として差支なきや將た如此水は大凡水十萬分中幾何量の鐵分を含み居るものなるや

(六)右鐵鹽類を除去するに適當量の苛性曹達を用ゆれば宜しと雖も(適當量は前陳の通りなれば)目分量に前項井水の鐵分を除去するには幾何量の苛性曹達を加ふれば大凡除去するを得るや

(七)前各項苛性曹達を加ふる場合誤て過量の苛性曹達を加へ水中に殘留し居るときは製絲に如何なる影響を及すものなるや

(八)前各項他に改良する簡易の法あらば御教示を乞ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　辻　暢太郎

(一)炭酸石灰を含有する水は硬度凡そ十度迄硫酸石灰を含有する水は硬度凡そ七度迄製絲用に適す

(二)硬水を軟水に變じて製絲に適當ならしめんには苛性曹達よりも石灰水を用ゆべし、唯單に白濁の沈澱云々のみにては凡何度位の硬水なるか豫想し能はざれば又幾何量の石灰水を用ゆべきかを知ること能はず

(三)白濁にも濃薄の別あれば唯白濁を生ずる位のみにては製絲用水の適不適を判すること能はず然れども白濁の沈澱するは硬度餘り高くして製絲用水に不適當なり

(四)水千萬分中鐵鹽類の含有量一分迄は製絲用に適す

(五)唯褐色の沈澱ある水云々のみにては製絲用水に適するや否や知ること能はず殊に沈澱物褐色なればとて其水必ずしも多量の鐵分を含有するものと限らず從つて鐵分の含有量を知ること能はず

(六)前項の如く鐵の含有量を知ること能はざれば苛性曹達使用量亦不明なり

(七)苛性曹達を含有する水を以て製絲をなすときは繰絲困難にして生絲の色澤手觸佳良ならず

(八)水質改良法中最も簡易なるは先づ淺くして廣き水溜に水を入れて永時間空氣及び太陽の光線に曝露し次に砂、棕櫚、羅紗、毛布、骨炭等を以て濾過するにあり

◉絲況

◉横濱市場

時に活潑を呈し時に沈靜を現はすは貿易上の趨勢數の免るべからざる處なりと雖も生絲の如きは此變動を見る殊に著しとす屠蘇の醉醒め雜煮の飽滅し暦の二月に入るや歐米經濟上の氣運は順況に進み機業家夏衣の調製に忙を加へたるを以て幾多の新注文到着し販路坦々として平滑に一萬四千〇二十四個半の生絲を販售し了れり然るに内地の羽二重も亦好況に向ひしを以て機業地方に積戻したる數も一千〇七十六個半に達し三萬六千四百二十二個の持越あり四千五百三十三個半の入荷ありしものを整月に繰越として廻したるもの二萬五千八百五十五個（商談中のものを含む）に過ぎざらしめたり顧て客年本月中の狀況を尋討せば入荷は二千〇四十個半にして賣了は六千百八十一個地方積戻七百三十三個半にして之を本年の集散高と比較すれば入荷に於て二千四百九十二個半積戻に於て三百四十三個賣了に於て七千七百四十三個半の多きを見るに至れり又以て良蹟なりしと云ふを辭せざるなり價格に於ては最高信州機械松葉軒太一千三百圓最低岩代折返二頭馬頭一千六十圓を示

したりしが之を本年本月の取引に對照すれば最高伯耆米子器械太九百十五圓最低岩代折返共同三頭馬七百十圓なるを以て其差高價に於て三百八十五圓低價に於て三百五十圓を現はせり又止むを得ざるものと謂ふべし爾來歐米市場より漸次新注文到達すべき形勢あるを以て強て價格の昂進を貪らざれば販路の平滑を維持するを得べし

明治三十四年二月自一日至二十八日生絲集散表

日標	持越	入荷	賣了	積戻	繰越
器械	三百六十四	三萬五千四百六十四	一萬四千〇八十四	一千〇七十六	一萬四千三百三十三
座繰	三百三十三	六百八十八	三百四十四	一百四十四	六百八十三
折返	七百三十一	一千九百	一千〇八十一	一千〇七十六	一千九百
雜絲	四百三十八	四百三十三	一百四十四	一百四十四	四百三十三
合計	三萬三千六百	一萬四千〇四十四	一萬五千八百五十五	一千〇七十六	一萬三千三百三十三

備考

一、表中單位圓は九貫匁を指す

二、持越とは客月より本月に繰越したるものにして本月一日の調査、繰越とは本月より翌月に繰越すべきものにして本月末日の調査に係る

三、持越以外に商談中のもの三千百二十四個ありしを以て實際の持越三萬六千四百二十二個なりと知るべし

四、賣了中米國に輸出せるもの五千三百八十三俵歐洲に輸出せるもの三千〇十一俵にして合計八千三百九十四俵なりとす但し一俵は十六貫匁なりと知るべし

明治三十四年生絲集散月別表

目標	持越	入荷	賣了	積戻	繰越	輸出
一月	三百六十三	三萬六千三百六十三	一萬四千〇四十四	一千〇七十六	三萬六千三百三十三	五千〇八百
二月	三百三十三	六百八十三	三百四十四	一百四十四	六百八十三	六百八十四

備考　本表持越及び繰越の個表と一致せざるは商談中のものを加算せしなり以てなり

明治三十四年二月中生絲集散日別表

	入荷	手合	取引濟	引戻	直輸出	地方積戻	國名	製造者	細太	最高價	最低價
一日	一百〇〇	六百八	八百六	二百八	六百〇〇	一百三	三河上州信濃	君津水明館	三甚美濃絲	八百〇〇	八百〇〇
二日	三百三	一百七	三百七	一百七	一百〇〇	一百三	羽前月山信濃	龍鶴二頭馬社	甚美濃絲	八百〇〇	八百〇〇
三日	一百〇〇	一百七	一百七	一百七	一百〇〇	一百三	岩代共同製絲社	調製社	太細	八百〇〇	八百〇〇
四日	一百七	一百七	一百七	一百七	一百〇〇	一百三	岩代共同製絲社	調製社	太細	八百〇〇	八百〇〇
五日	一百七	一百七	一百七	一百七	一百〇〇	一百三	信濃河牧	調製社	太細	八百〇〇	八百〇〇

○は器械　◎は器械中細絲　△は器械太絲　×は座繰　＋は折返　□は雜絲

狀況

物外に商館交々乗出歐洲の買來向加入し賑ふ英國其他の商館休業同様

日曜

各商館は本日より市場を以て大に賣の日なり

六日	二〇一	五一六	五三九	一四〇	三五〇	—	人氣引立たれども相場には變りなし
七日	二二六	一四五	七二九半	一三一	—	九五	相場依然たれども弗々手合出來せり
八日	一〇五	二四〇	三二六半	七〇	—	三三	便船の積切日なれば底意弱けれども先つ保合の姿なり
九日		五四〇	二六〇	一八〇	四、〇〇七	四九	佛向弗々補充買を見るのみ
十日	三九四	—	—	—	—	—	日曜
十一日		—	—	—	—	—	大祭日
十二日	八九	一、一二五	四三九半	一六六	—	八五	市場引立たず補充品弗々折合を告げたるのみ
十三日	三六六	五九四	七五八	一六四	—	—	注電に接し生絲合社の如きは猛勢を以て買進めり
十四日	一六四	四一〇	六一五半	一九八	七三	—	氣配前日に變なきも買高多からず
十五日	一六四	八九三	五四〇	六一	—	一〇七	前注補充買にて適當品は商談を遂げたり
十六日	二四〇	一、五六二	五六一	九〇	—	九半	米佛向共多少の新注文に接せるも相場は依然たり
十七日		一〇	六九	—	—	—	日曜なるに拘らず新注文來りし爲市場賑へり
十八日	二〇三	一、五三八	七七六	五九	—	六一	各館の動靜活氣を呈し商談多し
十九日	一九七	七三五半	九七三	二五八半	八六六	二三半	甲九買進み各館共に態度一變市場繁忙を呈せり
二十日	二二九	七二五半	一、〇〇六半	一三五	—	四〇	引繼き商談行はれ氣配手堅し
二十一日	二三九	六〇一半	四五八半	二三一	—	六三	活氣なきも底意強く緩々小堅く折合へり
二十二日	二〇九	五六九半	一、一三一	三二四	一、二三〇	六五半	氣配は手堅く維持せられ適當品は弗々商談纏る
二十三日	一八〇	六二四半	五六五半	二三六	六三八	一六六	便船出帆に際せるを以て多少買入れたるもの少なからず
二十四日		—	—	—	—	—	日曜
二十五日	一〇三	一、六七〇半	五四五	一〇三	—	一一〇	米國より注電着し市場活氣を呈し絲價も十圓方騰貴す
二十六日	八三	六二四半	七二六	一四四	八三五	二	前日の勢なけれども氣配手堅く維持せり
二十七日	一三八	七三八	四七六	七三半	—	—	新注來り絲價も幾分か上向なり商談も少なからず
二十八日	一〇〇	五四四半	四八〇	一九一	三六四	六九	便船積切に新注來れるも商談多からず氣配は手堅し
合計	四、三五三	一七、三六四	一四、〇四四半	三、五五五	八、三六四	一、〇四六半	

六日—九日	甲斐	向陽館	□	八六五
	甲斐	甲晴社	□	七五五
	羽前	多勢龜	□	八〇〇
	岩代	協立二人組	+	八五〇
	駿河	大宮製絲	○	七六〇
	相摸	滿進社	×	七四〇
	武藏	敬眞社	○	八四〇
	甲斐	扶桑社	□	七二〇半
十日	—	—	—	—
十一日	—	—	—	—
十二日—二十三日	伯耆	米子製絲三俵	□	九一五
	土佐	錦水社	□	七六〇
	若狹	雲道製絲	□	八六五
	岩代	眞由馬(?)	×	七七〇
	駿河	耀同一顯館(?)	○	八四五
	岩代	共山製馬(?)	+	七六〇
	美作	津水製絲	□	八三〇
	上野	交姬竹(?)	×	七二〇
	信濃	長同二顯絲(?)	□	八四〇
	岩代	共洲二顯馬(?)	+	七三〇
	信濃	五行館	□	八九〇
	信濃	東子社	□	七九〇
	伯耆	米原製絲(?)	□	九一五
	上野	天海老(?)	×	七三〇
	羽前	多丸太(?)	○	八九〇
	岩代	區立二人鎭(?)	+	七三〇
	信濃	信陽館	□	九二〇
	上野	確水社紅業(?)	×	七四〇
	伯耆	倉光製絲	□	九〇〇
	信濃	山登館	□	七七五
	尾張	佐橋製絲	○	九七五
	岩代	[illegible]	+	七三五
	伯耆	田江留製絲(?)	□	九一〇
	岩代	共同三顯馬(?)	+	七二〇
二十四日	—	—	—	—
二十五日	伯耆	[illegible]絲	□	九二〇
	岩代	[illegible]館	□	七六〇
二十六日—二十八日	出雲	東同館(?)	□	九二五
	岩代	共一顯馬(?)	+	七〇〇
	備後	沼製絲(?)	○	八五五
	上野	甘樂社黑字	×	七二五
	羽前	宮內製絲	○	九〇〇
	信濃	明功館古(?)	□	七五五

正誤　本欄七六頁持越荷三萬三千二百九十七個は三萬六千一百四十八個の誤、操越荷數三萬四百十一個は三萬三千二百九十八個の誤

四七頁生絲集散表中持越の部合計三六、一三八半は三六、一四八半、同入荷の部折返一八〇三は一、一七〇、同雜絲九八〇は一二八、同操越の部雜絲一三八は一三九同合計三、三二九七は三、三二九八の誤

●紐育市場（一月十二日報）

紐育市場の需要は稍々引立ち來りしかど未だ一般の製造家は引退の風情にて必要口に於てさへ十分の買入れを爲すを敢てせざりし爲めに一時の模樣にては絹物市場も大に引立ち來るべき形勢ありしかど昨今に至りては大に落付きの氣味となりたり織物に向ひ早く約定せし製造家の或る者は漸く製品を渡しつゝあるが此等は無論良好の結果を得たるものゝ如しされど製造家は未だ容易に繁榮の域に進まざるか幅廣絹及ひリボンとも幾分宛が好調には向ひつゝありされば春季注文の現はるゝと共に相當の位置を占むる事なるべし前年に於て遲々たる觀ありしリボン機業の不振は勢ひ生絲市場に不振を增し來りたりセントエチンより達せし報によれば大にリボン市場も引立ちたりと若し此機業が漸く多忙を告げ來るに於ては勢ひ流行を他國に及ぼすに至るは必然ならん今日總ての有樣は正しき方向にて進みつゝある姿なるが坐繰の安きより勢ひ機屋も購買心を惹起せしものなるべし殊に一時は非常に多數と稱されて織物の在荷も近頃大に減少を告げ來りしは昨今市場を幾分引立たしめし一因なるべし

因に記す本月日付にて紐育支店より横濱の生絲合名會社に達せる絲況電報は左の如し

一本週は需要多くして相場も手堅く終れり

一相場　器械一番三弗四十五仙（横濱手取八百十圓內外）
　　　　座繰一番三弗四十五仙（同）

即ち去月中旬よりは十仙高を示したるものなりとぞ

●里昂市場（一月十二日發）

生絲市場の形勢は變りなき方にて投機者流の買人も出廻らず取引の如きは僅かに目先き必要品の買入れに止まり居り相場は多少弱味を帶べり然れども里昂に於ける製造所は可なりの仕事を握り居りて生絲の

消費高も手堅き方なり而して今週市場を多少引立たしめし一現象はチッシ用として光澤よき横絲の需要ありしに爲めにしてチッシ需要の突然なる增加は沈みゐりたる市場を引立たしめ從て撚絲業も多忙を極め相場も大に手堅く撚業も可なり進み居れり歐洲絲の需要は可なり宜しくセヴエンヌエキストラ十八—二十デニールにて四十七法の取引相場なりし志里亞絲及びプローサ絲の相場も變りなく手堅き取引ありプローサ、ベクダッド一番十四—十六デニールにて四十法より四十一法にて取引ありたり先物約定に向て亞細亞絲の取引は殆んど少數なり且つ相場も當地に於ける相場よりも一寸一法方本國高なりし尤も廣東器械及ひ支那七里絲の取引は目先の必要口に向て弗々行はれつゝあり日本絲の相場は横濱の相場と略同一位を保てりされと僅かに一部の範圍に需要ありたるのみ

乾繭の需要は靜かにしてマルセール市場の在荷は百十萬瓩と數へられたり製絲家は僅かに目先の需要を呼びつゝあるのみ乾繭佛國優等品は九法の相場を示し居れるに高加索白種は八法半より八法四分の三の相場なりし

● 昨年度の里昂蠶絲商況

（在里昂帝國領事館一月一日附公報）

當市場の有力なる蠶絲商社の所説に基き同年に於ける當地絲況の梗概を叙し以て參考に資することゝなせり

明治卅二年は絲價常に昇騰の盛況を呈したる處なるが客年は往々市況回復の望もあり其計畫もありしなれども常に空望徒勞に馬し年中原價減退の衰運に遭遇せり即ち左表は客年に於ける蠶絲の逆況を約説するものなり

但し表中原價は月初に於ける一基の相場なりとす

生絲品位	織度	一月	六月	十二月
佛國セヴエンス産	最上	一六分一〇	六〇	五三
伊太利産	一等	一六分一〇	五九	四八
プルース産	二等	一五分一三	五五	四一
シリー産	二等	一一分九	五五	四三
日本機械	一等中	二分一〇	五七	四六
絲	二等	一二分一〇	五〇	四二
廣東産	二等	一二分一〇	三四	三五
七里産	金巾繭同		三六	三〇
				二八

歐洲の蠶絲檢査所は蠶絲取引の關門たるものにして其檢査高の增減は取引の繁閑を表すべきものなるが今茲に歐洲の主要蠶絲檢査所十八箇所に於ける客年の檢査高を案ずるに一昨年分に對し凡一割九分の減少を現はし又客年北米合衆國に於ける蠶絲輸入高の一昨年分に比し凡三割三分の減縮を示めせるが如きは執れも客年の絲價下落を説明するに足るべし

歐洲の主要蠶絲檢査所に於ける蠶絲檢査高

一八九八年	二〇、八七八、〇〇〇瓩
一八九九年	二三、六二一、〇〇〇
一九〇〇年	一九、一四二、〇〇〇

北米合衆國輸入蠶絲高

一八九八年	五七、四一四	凡三、七七〇、〇〇〇瓩
一八九九年	五二、〇〇〇	凡五、〇〇〇、〇〇〇
一九〇〇年	五五、〇〇〇	凡三、三七五、〇〇〇

近年に於ける新式大速力織機の增加及び舊式機速力の增進は原料蠶絲の吸收力を大に促進したるものにして是れ即ち一昨年に於ける絲價昇騰の一原因たりしが客年に於ては織機製造の活進に伴ひ製産力膨脹の結果として絲布の産額超過を告るに至り爲めに市場に絲布の堆積を訴ふると同時に殊に北米製絹業者の如きは其機械一部分の運轉を中止するの止むを得ざるの逆境に遇ひ目下尚ほ苦痛を感じつゝあるものなり

右の外一昨年に於ける絲價騰貴の影響として絲布消費力を減縮したるが如き亦絹布商況不振の一原因として屈指せざるべからず往時にありては絹布は一個の貴族的贅澤品なりしも現時は一般の織布と共に平民的常用品として使用せらるゝの氣運に進みたる事は今や世人の事實として認むる所なり故に絹布の代價低廉なるときは其需用伸張すと雖も代價著しく騰貴せば平民的性質を失ひ從て販路の圓滑を缺くに至るべし即ち客年に於ける絲價の下落は一昨年に於ける絲價の騰貴に伴ふ順當なる結果なるに外ならざるものと謂ふべし客年内絲況不振の常態を脱し寔に稀有の變動を示したるは僅々數月に過ぎざりき同年の一月より三月に至る三ヶ月間當市場は其前年に於ける盛況の餘勢の下に依然待望の態度を示したりと雖も是表面上の外觀たるに過ぎざりしとは當時默々の間に安賣の行はれたる一事を以て之れを窺知するに足るべし四月以降は絲價益々低落に傾きたれども遂に活況を誘起するに至らざりしが蠶絲市場の將來に對する待望の尚ほ全く消滅せざる事實の存せしことは當時伊國英蘭市場に於て一基ヨリー ル三十乃至四リール六十の相場にて新繭取引の豫約ありしを以て察知せらるゝ處なり六月に及び佛國に於ける三割の增收を除くの外歐洲の收繭は蠶業界の豫期せし如く豐作ならざることは事實として認はれ伊國にありては收繭の品質惡くして其絲量の不充分なるを酷く憂へ又近東諸國にありては客年の養蠶に失敗を告げたる地方多々あり而して其新絲の原價は一般に當時の絲價の上に出づるの逆況なりしが之れに反し極東の生絲輸出高は絲價騰貴の聲援を得て一昨年七月より昨年六月に至る蠶業期一年度に於て十

九萬八千五百梱に達するの盛況なりとのこと當市場に傳へられたり

客年夏季の數日間は酷暑の下に全然取引沈靜の狀を以て經過せるの結果徐々絲價の低落を來たせり漸く十月の初めに於て日本機械絲一等半の品三十九法の相場を以て荷溜なる輸入絲商及製絹業者にして仕入をなせるものも見たり

當時我横濱市場の在荷高は一萬五千梱と唱へられたるが幸ひ注文の來電によつて一時は活況を演せりと雖も我營業者要求の過大なる一週間内に於て一基に付絲價五法を昂めたるため忽ち賣方の氣配を挫きたると同時に市況は再び沈降せらるゝものゝ如くにして絲價は幸く最低相場に比し些少の進歩を保持したるに過ぎざりき

絲價下落の時期に於ける當態として客年も亦世論は空望に欺かれたる實跡あるを見るべし例せば巴里大博覽會の成功が絹布の賣捌に空も影響を及ぼさゝるが如き廣東及び上海の蠶絲輸出が清國事變の爲め更は同國市場に活氣を與へざるが如きは即ち世論の豫想に反したるものなりと謂ふべし

是に由て之を觀れば客年の蠶絲市場は空しく年と共に其望の去り行きたるを見たるものと謂はざるを得ず然りと雖も絲況は一昨年中絲價暴騰の時期に於けるよりも一層健全なりと謂ふを得べし如何となれば製絹業者は其製品の賣捌に不如意を感じたるべきも其仕入の原料絲の如きは之れを消費し目下空乏の姿なればなり

絲價は其品種に因り二割乃至三割の下落を示したることなれども絹布消費の擴張に隱然既に力を竭しつゝあること復た疑ふ可からざるなり

終りに臨み一言せんに紐育絹布市場の現況は不振なりと雖も合衆國に於ける財政的及び商業的狀況の一般に繁盛なるは爭ふ可からざる所なるを以て早晩其の影響の他の商品に於けると共に絹布の消費にも亦た波及するの日なかる可らずと信ぜらるゝなり

◉上海市場　本月二日報

市場は引續き沈靜にして休場の有樣なり然れども支那商人の常として絲況下向き安直にて賣拂はんことを談ずれば彼等は益々怖氣づき何處まで下落するものなるやを恐れて却つて逃足となるを以て輸入商等は到底今日の唱直には手合なり難きを知れども自ら安直を提出する能はず是非なく有名無實の唱直をなして時節を待てり其唱直は八十三兩なり

◉外報

◉伊太里絲及び製造工場に使用する原動力の種類

伊太里農商務省より近日發行せる農事統計表に依れば同國生絲諸般の工業に於て使用する處の原動力の種類の中蒸汽機械の總數は一千八百九十四年にありては一千三百卅二臺にして此馬力の總數二萬五千〇七十七馬力とす其後五ヶ年を經過せる千八百九十九年の調査には稍々增加を表はし機械の總數一千四百廿六臺此馬力二萬九千二百五十四馬力となりたり左れば最近五ヶ年間に生絲工業に於て使用する蒸汽力は其機械に於て四十四臺馬力に於て四千百七十七馬力を增加せし割合なりと云ふ

◉露國の蠶絲業

昨年開設の巴里大博覽會に派遣せられたる露國博覽會事務官の報告に據れば露國の南部地方は今日殆んど養蠶業を放棄し一層收利の工業に轉ずるの趨向あるに反し近來高加索地方に於る蠶業は著しく發達しつゝあり之れ「チフリー」蠶業試驗所の設けありて蠶種の製法に分房式（セリユール式）を應用すると同時にブルース、佛蘭西及び伊太利より輸入する蠶種を檢査し以て斯業の改良を謀るに努むる所あるに因るものなりと云ふ

高加索年々の收繭見積高は乾繭にて二百萬基之に對する生絲の製産高は約五十萬基にして其内一半は内地製絹業の需要に充て他の一半は莫斯科に於ける斯業用として輸出せらるゝものなりと云ふ

◉昨年の佛國收繭高及び蠶業奬勵金追加案の可決

（在里昂帝國領事館一月二日付公報）

佛國外務省の公報によれば佛國昨年の收繭高は九百十八萬四百四基にして曩に當館報告の高より少しく多量なり然るに同省の調査高は養蠶業奬勵金（收穫の生繭一基に付佛貨六十三仙）を配與するに方り養蠶業者の屆出の收繭量を嚴査し以て得たる處のものなれば稍や正確なるものとして認めらるゝことを得べし佛國客年の增收は飼養蠶卵の增加（一八九九年一八二、九四五オンス、一九〇〇年一〇五、五八四オンス）殊に蠶卵毎オンスに對する收入の平均量の增進（前年凡三八基後年四二基强）に因ることなるが客年に於ける該平均量の如きは實に例外の成蹟にして第十九世紀の中頃蠶病流行の以前に於ける豐作の年と雖も恐らくは佛國養蠶業者の曾て見ざる處なるべし

而して該成蹟を見るに至りたる原因として認むべきものは客年の養蠶季節中氣候の適順なりしこと佛國製蠶卵品質の善良なりしこと及び養蠶業者飼育上の注意周到なりしこと即ち是なり我養蠶業者亦宜しく蠶種の選擇及び蠶の飼育に注意し努めて其收繭の平均量を增進し以て自己の收益と共に國利の增殖を謀る處なかるべからず

客年佛國の養蠶地二十八縣下に於ける養蠶業者の員數及び孵化蠶卵高を舉げんに

養蠶業者　十三萬六千二百十四人
孵化蠶卵高　九百九十八萬四百四基
敢繭高　六百九十萬三千三百三十九基
同一昨年分　二千萬五千五百八十四キンス

客年は佛國養蠶の進行頗る順當にして故障ありしを聞かざる處なるが養蠶期に際し桑葉に多少の剩餘を告げたるが如きは畢竟するに例外的好順なる天候の下に桑葉の繁生を促したるの事實あると又進んで孵化蠶卵高を增加するときは內地桑葉年々の供給高に不足を感ずるの虞あるにしてよるものにして後者は即ち政府奬勵の特與及び一昨年に於ける繭價の好況なりしに拘はらず佛國の養蠶高に著しき增進を見ざる所以を說明す可きものなり

今茲に最近五箇年間佛國收繭高の增減を表示せんに

年次　養蠶業者の員數　孵化蠶卵高　敢繭高
一八九六　一四萬三千〇　三三億六千萬キロ　九三億六千萬キロ

一八九七　一四萬六千八百　三三億六千萬　九六億六千萬
一八九八　一四萬六千八百　三六億二千萬　一〇三億九千萬
一八九九　一四萬六千八百　三六億三千萬　一〇〇億

同五箇年間飼養の各種蠶卵高を列記せんに

年次　佛國眞種　日本種　復製絲種　外國種　計
一八九六　三三億八千萬　一億六千萬キロ　四億八千萬キロ　三億四千萬キロ　三億三千萬キロ
一八九七　一億六千萬　一億六千萬　三億九千萬　一億六千萬　一億六千萬
一八九八　奈億九千萬　一億六千萬　一億六千萬　一億六千萬　一億六千萬
一八九九　一億六千萬　一億六千萬　一億六千萬　一億六千萬　一億六千萬
一九〇〇　一億六千萬　一億六千萬　一億六千萬　一億六千萬　一億六千萬

同五箇年間收繭の增減を各種に區別せんに

年次　佛國眞種　日本種　復製絲種　外國種　計
一八九六　八億九六八、一三五　四億二、三四〇　一億八、六七〇　二億八、九四〇　九億三、八二五
一八九七　一億六、六四〇、六七五　一億六、六四〇　一億六、六四〇　九億六、八四〇　一億六、六四〇
一八九八　六億六、六四〇、六六八　一億六、六四〇　一億六、六四〇　一億六、六四〇　一億六、六四〇
一八九九　一億六、六四〇、六六八　一億六、六四〇　一億六、六四〇　一億六、六四〇　一億六、六四〇
一九〇〇　八億九、七七〇、七七〇　一億六、六四〇　一億六、六四〇　一億六、六四〇　一億六、六四〇

客年佛國に於ける蠶繭收穫の結果として同年度の養蠶奬勵金豫算額佛貨四百二十二萬八千法に對し不足を告ぐるに至りたるを以て佛國政府は奬勵金不足の補充額及び之が配與に關する費用として合計佛貨百三十七萬法の追加案を提出したるに兩議院とも客年末の會議に於て之を可決せり

雜報

蠶病消毒法講習

蠶病消毒は蠶種檢査と相須て蠶業界の病魔を驅り惡毒を去るの要務たり好法たることは既に世の認むる所なりと雖も其方法にして背槩を失し手段にして缺隙あらんか毫も其の效果の觀るべきものなきのみならず幾多の勞力と不耕の藥品とを擧げて水泡に屬せしめ依然として進蠶の悲境に沈淪せざるを得ず豈悲慨に堪へざるべけんや東西蠶業講習所茲に觀る所あり地方蠶業の素養あるものを集め蠶病消毒の講習をなさんとすと實に時世に適切なる良擧と云ふべし地方の有志者此に入りて消毒の方法を習得し之を實地に試みなば前の憂は清く洗濯せられて病魔の潛伏を許さゞるに至るべきか今左に其規定を揭げて參考となさん

蠶病消毒法講習規程

第一條　蠶病消毒法講習會は每年一回東京、京都兩蠶業講習所內に之を開く

第二條　講習生は地方にありて蠶業奬勵の局に當り或は蠶業に關係し經驗を有する者にして地方長官の撰定したる者とす

第三條　講習生の定員は各所五拾名以內とし府縣廳當の人員は東京京都蠶業講習所長之を定む

第四條　講習期限は概れ二十日間とし八、九月中に於て之を開く

第五條　消毒に要する物品は之を貸與すべしと雖ども其他は總て講習生の負擔とす

第六條　講習課程左の如し

一蠶病論大意
一微生物學大意
一消毒藥品論
一消毒法
一消毒實習

第七條　始業の時日及其他講習に關する事項は東京京都蠶業講習所長之を定むるものとす

◉神戶生絲檢査所

神戶生絲檢査所經費は兼議院にて削除せられたるを以て神戶蠶絲商同業組合及び神戶市民は關西地方蠶絲業の消長に關すること尠からずとなし頗に政府及び議會等に對て存撰の必要を鳴らし復活運動に努むる所あり

◉蠶種專賣意見

幾多の政客中產業通なりとして知らるゝ井上甚太郎氏は近頃財政救濟策なる一書を著はし代議士諸氏の參考に資せり中に蠶種專賣の項あり曰く一は以て政府の收入を增加し一は以て蠶業の改善を企てんとするにありと今之を拔萃して一槩に供せん

一金三百萬圓
但蠶種紙百蝦付六百萬枚一枚每に金五拾錢の利益を得るとして此の如し

賣價金壹圓五拾錢

内譯

金一圓　百蚕付蠶種紙一枚の價を公定に附し其金額は七拾錢に超過せざるは事實之を證して除あり其實五拾錢とせは高きに過ぐるも低きに失せざること之を實際に徵證して以て誤らざるのみならず却て利便を慮ずるに至るべきを信ず

原種を無代價にて之を蠶種製造家に配布し其成繭より蠶種に供する良繭を撰擇し以て其蠶種を買收する等總ての費用として三拾錢を見積れは足れり

金五拾錢　政府專賣の利益即ち國庫に收納すべきもの、因に記す蠶種の良好なるもの多くは貳圓乃至貳圓五拾錢に販賣し有名なる蠶種家の製造に係るものに至りては三圓なるもの亦寡からず要するに精良の蠶種紙一枚の價一圓五拾錢は相當の評價にして決して高きに失せざるなり

理由本案を實行せば第一蠶種を一定するの利あるのみならず粗製濫造の弊を防遏し、第二養蠶家は精撰の蠶種を飼養するを以て獎蠶少く隨て成繭多く、第三製絲家は蠶繭の種類一定するを以て製絲の販賣上に便宜を得且高價ならしむるの利あり、第四染色家は絲質の均一なると染色に均整の便を得、第五機織家は其織上の完美なるを得るを以て文明國の嗜好に應ずるを得て利益を增加するの一大利便あり

凡そ課稅上蠶種專賣の如く官民の利便あるものは蓋し之れなかるべし何となれは爲めに國益の唯一なるものゝ盛況を致し大に國力を增進し得べけれはなり

但た夫れ本案の實行に當ては或は蠶種家が種々の口實を設けて苦情を鳴らすやも未だ計るべからずと雖も抑も本案の精神は蠶種家をして蠶種を製造せしめ以て應分の利益を得せしむるものなれば毫も配慮を要せず殊に蠶種の需要者にして指定の蠶種を得んと欲せは政府は該蠶種家をして之を製造せしむるを以て需給者相共に滿足すべきなり

◉上佐蠶絲業同志會

高知縣の蠶業熱心家西内義顯氏等卒先し其縣蠶絲業の改良進歩を計り相互の交誼を厚ふし信用を保持するを以て目的とし農商務省蠶業講習所其他公私立の場所に於て學理若くは實業を修得したる同志者を糾合し土佐蠶絲業同志會を設立し大に貢献する所あらんとすと云ふ而して同會は基礎の鞏固を圖る爲に基本金を積立つる計畫あり

◉九州沖繩共進會の出品

第十一回九州沖繩聯合共進會は二月十日より開設せられたるが繭生絲は前回に比し出品點數七割を增加せしのみならず品位も亦頗る進歩せりと云ふ今其出品數を擧くれば左の如し

繭出品點數	二、三五七	同上出品人員	二、一七七
生絲出品點數	六一〇	同上出品人員	五八四

（本會々員宅和正穀氏報）

◉横濱絲貿易商組合の結束に關する注意

横濱蠶絲同業組合にては生絲荷物の結束絲は百斤に對する一斤の四分の三即ち七分五厘以外の量目ある結束絲（庫絲を拘はらず近來七分五厘以外の量目ある結束絲（庫絲と折返絲に多し）を用ゆる向尠なからざれば之に向ひ注意を發せんと之れ役員會を開きたるに無異議可決したれは夫れ〳〵荷主に向ひ注意書を送附し是れと同時に荷造りに對しても注意せり即ち生絲箱に桧板を用ゆるときは松は餘程乾燥したるものにても肉脂を吹くとあり生絲の品質に障害を與ふるとあれば桧板は用ひざる方利益なるべし且つ總ての荷造りに對しても鐵道局貨物取扱規則に據り厚紙に包み更らに油紙を以て上包と爲し木箱に入れ莚包と爲して送荷ありたしと云ふにあり

◉大日本蠶業研究會

農學士大森順造氏は茨城縣の養蠶家岩田太郎氏等と圖り大日本蠶業研究會を組織し機關雜誌蠶業の燈を發行し其支部なる茨城縣北相馬郡高野村にては蠶種の製造及び生徒の傳習をもなすと云ふ

◉高山社蠶業學校の開始

群馬縣の高山社に於ては豫て蠶業學校開始の企ありしが設備整ひ定認可ありしを以て社長町田菊次郎氏を名譽校長とし學士及び技術者數名を聘し一方に於て生徒の蒐集をなし一方に於て各種の試驗を行ひ蠶業界の爲に大に盡す所あらんとすと云ふ

◉生絲は是迄の需要高に於て既に著しき減額

昨年來の生絲は是迄の需要高に於て既に著しき減額を示したる結果として目下世界何れの生產地にも多數の在荷を存し本邦の如きも横濱に於ける現在の在荷と前途新絲の時迄に出荷す可きものとを合すれは約四萬五千乃至五萬梱を存せるものなるべく之を金利の安き國に移し有力なる商人の手に持たしむるときは左まで大嵩の荷物には非ずれども唯其持主の滯とも三萬梱以上を賣り拔かざる可からず而して昨今の所は尚ほ米國の夏物用の需要ありて可なりに賣行きつゝあれども其仕入れ季節を經過したる曉には最早新絲まで急を要する買物は現はれずして商人の意向は總て新絲へ氣移りをなすに至る可し然るに之に對して尚ほ引續き多數の荷物を賣り懸けんとせば自然相場の下落を免れざる道理なるが若し其相場を維持せんとせば是非とも當用日貫外の買人の見込み買ひを待つの外なかる可し然るに商人の見込買ひは現在相場の低きに在る事を知りながらも手近く其上進

を見る可き望みあるに非ざれば容易に現はるゝ者に非ず昨今の生絲相場八百圓内外の所は必ず低位なるには相違なかるべきも其高位に復するの時機は何時來るべきや假りに本年秋口の頃なりとせんか誰しも容易に買進みの念を生ず可きに非ず故に昨今の生絲は其市價を落さずして然かも大部分を賣り拔けんとするには前途に商人の見込買ひをなすに足る可き機會を生ずるに非ざれば能はず若し南阿の戰役北清の事件など結末を告げたる後に於て直ちに各國の經濟界を振はしむる事もあらば申分なき次第なれども是亦恐らくは手近く數箇月の後には望み難かる可く左すれば本年の夏季米國にて開かるべき南北亞米利加博覽會は如何と云ふに是れは同國に於ける祭禮の稍や大なるものと見れば大差なかる可く而して是迄の經驗に於て好景氣の年には之が爲めに隨分人氣を引立たしむる事あるも大勢の沈淪せる場合には（昨年の巴里大博覽會の如きも其一例にして）餘り多きを望む可からず併しながら昨年中既に不景氣の頂上を通り越したる揚句の本年の事として何か機會もあらば直ちに恢復の結に就かんとするの傾向を有せる折柄なれば此際前記博覽會の如きものが圖らず其導火線たる事なきにしも非ざるべしと云ふ者あり

●不正屑物防遏に關する建議

横濱蠶絲貿易商同業組合及次神戸蠶絲販賣同業組合にては不正屑物防遏に就て協議を凝らし同兩組合長より此程左の建議を提出せりと云ふ

對外貿易の消長は國家經濟の盛衰に一大關係を有すべき事なり而して外國貿易を盛んならしむるの手段方法蓋し一にして足らずと雖も要するに輸出品質の精良を保ち商品の信用を需用地に博するより急なるはなし本邦産出の屑物（蠶絲附屬の蜕斗、絲皮等の類）の輸出は蠶業の發達に伴ひ漸次其額を增し明治卅二年度は横濱神戸兩港に於て約四百有餘萬圓に上り輸出品の第九位を占む之に加るに内地絹絲紡績所の原料として消費せらるゝもの亦海外輸出と殆ど同額にして二者を合すれば約八百有餘萬圓の重要産品たり曾て之を聞くに本邦屑物は歐洲に於て織物の原料として他國の模倣す可らざる一種の美質を有すと當業者たるもの益々品位の精良に留意し以て國産の美を發揮して海外需用者の聲價を博するに勉むべきなり然るに近年神戸に集中する屑物には往々正品に類似せる僞造品を混合し又は種々の手段を以て不正の利を貪るものあり之れが爲め需用者の蒙る損害は實に莫大にして屢々歐洲の華主へ對し外商より數萬圓の賠償を爲せしことあり其結果延ひて當業者一般の信用に波及し正品混同取引に關する紛議苦情常に跡を絶たず終に其弊害に堪えずして神戸の屑物輸出を廢業せんとせる外商あるに至れり神戸蠶絲販賣同業組合は

夙に此弊を看破するが故に協力以て相互監査の任に當り不正品を驅除するの方法を設け勵行せんとせしこと嘗に一再のみならずと雖も種々の事情に測せられ其効果を見るに至らざりし然るに一昨三十二年屑物の商勢蠶絲と共に非常の好況を呈し市價十餘年來未曾有の暴騰を極めたるに際し此不正僞造品の流行は著しく其度を高め關西各府縣より長野群馬岩手等蠶絲主要の産地に至るまで滔々として流行の勢を逐くし甚しきは不正品の僞造又は賣買を以て專業とする者あるに至る而して其弊害を受くるは主として神戸横濱二港にして現に神戸港或る有力なる本邦の輸出外商は此弊害に係る損失の爲め神戸港の取引を絶つに至り爲めに昨卅二年度は前年に比し輸出高三分の一に過ぎず神戸港に於ける本品の輸出賣買は將に絶えんとして僅に一縷の命脈を保つの現狀たり横濱港も亦神戸の餘弊を受け最も弊害の甚しき關西地方より直接輸送せらるゝもの又は神戸港を經由して輸入せらるゝもの近年漸く多きを致すと共に不正品の害毒は早くも外商の間に認識せられ關西の屑物と稱すれば僅して不正品の含有するものと見做して警戒を加へ玉石混淆共に市場に屏棄せらるゝに至る之れが爲に正業者の蒙る不利は擧げて言ふべからざるものあり今にして早く此弊害の根を絶ち源を塞ぐに非ざれば或は恐る横濱港も亦久しからずして全般の屑物に浸潤し終に此重要輸出品をして全く海外需用者より撥斥せらるべきや必至の數なりと豈恐れざるべけんや而して近來は不正品の僞造賣買の手段も愈々巧妙隱微にして經驗ある當業者と雖も正否を鑑別するに苦しむ外品の如き練達の技師を置き監査を嚴にするも往々發見を逸し之を歐洲に送り紡績機に上せて後始めて不正品の混合あるを知る如き甚しき欺僞の深且酷なるものあり而して之を製出する地區も漸く廣大にして殆ど指摘するに難しとす現下の狀勢を以ては横濱神戸と言ふ如き一二區域同業者の制裁を以ては到底之を防遏する能に足らず今や重要物産同業組合法ありて商品の粗濫を防ぐの途備はれるが如しと雖も是等の奸商は却て組合外信用の何物たるを知らざる輩に多く且つ假令組合法の制裁を借るとするも本業組合の設立は未だ全國に洽からず單に組合法の効力を以ては到底之を矯正に足らずと信ず是本建議書を提出する所以にして事情寔に歎視し難きに由る蓋し政府に於て最も効力ある手段を以て之が弊源を絶滅し以て重要物産の價値を存養するの方法を測定せられんことを是偏に當業の休戚に係るのみならず亦實に一國通商上の利害と體面に關する事至大至切の問題たるを信ずればなり

右建議候也

●客年の蠶種製造高と本年の蠶養

客年の蠶種製造季節には絲價は九百圓以上千圓近くの好況を保ち居たれば隨て蠶種製造高の著しく增加したるは爭ふ可らざる事實なれども昨今絲價は養蠶家をして繭價の下廉を豫想せしめ隨て其飼育高に減少を來すに至らん然るに昨今里帛紬育を始め其他歐米各地の機業家は齊しく原料の缺乏を感じ居れば今後絲價は格外の上騰を來さゝるも責行の增加繼續すべきは明なるを以て今日絲價を標準として飼育し製絲せんには不結果を見るが如きことは萬々なかるべき乎

●人事彙報

▲鈴木武太郎氏　本會技藝委員なる生絲檢査所技師兼農商務技師なる鈴木武太郎氏は高等官六等に叙せられたり

▲月田藤三郎氏　本會技藝委員なる農商務技師月田藤三郎氏は今回高等官六等に叙せらる

▲東野彌九郎氏　滋賀縣伊香郡元高時村長東野彌九郎氏は公同事務に勤勉したる廉を以て過般賞勵局に於て藍綬褒賞を下賜せられたり其章記を掲くれば左の如し

資性温厚力ヲ蠶桑ノ業ニ竭ス從來地方繰ニシテ品位下劣ナルヲ慨シ各地ニ遊歷シテ良法ヲ研覈シ機械製絲場ヲ創メヲ斯業ノ改新ヲ勉メ旁ラ生徒ヲ教養シ或ハ遠邇ノ招請ニ應シテ巡回訓授シ協同販賣ヲ設テ相州盛進社ヲ起シ推サレテ社長ヲ爲リ更ニ自費ヲ以テ米國ニ航シテ其實況ヲ査察シ標本ヲ繰製輸送シテ好評ヲ博シ尋テ合資會社ヲ設テ直輸出ヲ奬勵シ其他蠶繭乾燥及貯藏法ヲ案出シテ稗益ヲ同業ニ與フル等洵ニ奇特トス依テ爲其賞勵員講習所ヲ設ケテ小學校ノ急要ヲ充タシ校舍ノ開建ヲ勸誘シテ教育ノ普及ヲ計リ種痘ヲ懇諭シテ天然痘ノ流行ヲ豫防シ山林ノ栽植ヲ誘掖シテ水源涵養ヲ努ノ繭共進會ヲ開テ蠶業ヲ奬勵シ組合ヲ結ヒ試驗田ヲ起シテ米質ノ改良ヲ促シ相救社ヲ創メテ風俗ヲ敦フシ融通會社ヲ起シテ資本ノ運轉ヲ便ニスル等終掌多年諸務整治民情安輯ス洵ニ公同ノ事務ニ勤勉シ勞效顯著ナリトス依テ明治十四年十二月七日勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ其善行ヲ表彰ス

▲持田角左衛門氏　神奈川縣鎌倉郡中和田村持田角左衛門氏は製絲業の改良發達を圖りたるを以て過日賞勵局に於て銀杯一箇を下賜せられたり其賞文は左の如し

資性温厚力ヲ蠶桑ノ業ニ竭ス從來地方繰ノ幼稚ニシテ品位下劣ナルヲ慨シ各地ニ遊歷シテ良法ヲ研覈シ機械製絲場ヲ創メヲ斯業ノ改新ヲ勉メ旁ラ生徒ヲ教養シ或ハ遠邇ノ招請ニ應シテ巡回訓授シ協同販賣ヲ設テ相州盛進社ヲ起シ推サレテ社長ヲ爲リ更ニ自費ヲ以テ米國ニ航シテ其實況ヲ査察シ標本ヲ繰製輸送シテ好評ヲ博シ尋テ合資會社ヲ設テ直輸出ヲ奬勵シ其他蠶繭乾燥及貯藏法ヲ案出シテ稗益ヲ同業ニ與フル等洵ニ奇特トス依テ爲其賞銀杯一箇下賜候事

●特別廣告

●會員諸件

本年二月中本會に入會せられたるもの左の如し

○通常會員

東京　阿部產四郎　長野　浦野藤作
同　和田勘兵衛　同　清水富治
同　町田政吉　同　町田清治
新潟　近藤俊平　同　小出金左衛門
同　吉田保三　同　田中土佐治
埼玉　町田深　同　馬淵義由
同　川名伴治　同　荻原政之助
千葉　森作吉　同　三木重兵衛
愛知　今井嘉平　同　土屋嘉一郎
同　大石城一郎　同　中島茂作
靜岡　黑岩清之助　同　小布施熊治
長野　小平眞太郎　同　中島民治
同　平尾初太郎　同　植木新太郎
同　宮澤寅之助　同　宮本喜之助
同　平野專次郎　同　岡部福治
同　齋藤政治郎　同　岩井喜之治
同　三木貞之助　同　大瀨大太郎
同　金井庫之助　同　黑岩甚作
同　西島和一　同　上原金四郎
同　小布施幸三郎　同　長野青木米松
同　山上辰三郎　同　山口片山寒太郎
同　土屋源治郎　同　清水渭一
同　北澤六三郎　同　小柳松次郎
岐阜　今井猶吉　同　佐賀權平
福島　猪股源三　同　奥川儀太郎
同　佐々木藤次郎　熊本　岡本眞三郎
同　富山青木吉實　計　五十五名

右の內にて岡部、町田（政吉）義、今井（嘉平）、大石、佐々木、中原、岡本の八氏は各自に申込まれ、和田氏は愚住金藏氏。近藤氏は前澤清兵衛氏。吉田氏は横田長太郎氏。町田（深）氏は二味道政林清作氏。萩原氏及以下七氏並に岩井氏及以下八氏は三木茂右衛門氏。宮本・岡部の二氏は宮澤寅之助氏。今井（猶吉）氏は今井兼一氏。三瀨氏は伊藤郡支會。齋殷氏は角田龜吉氏。青木氏は富山支會。片山、清水の二氏は藤島益文氏。小柳及以下二氏は寺田忠一氏敦も紹介せられたり

又同月中死亡せられしもの左の如し

○通常會員

東京　渡邊庄太郎

●寄附金受領廣告

長野縣　市瀨善治君

右本會へ寄附せられたり

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會入會手續及會員心得

本會に入會せらるゝには左の事項を承知して申込まるべし

一住所氏名を詳記したる入會書に一ヶ月金拾貳錢五厘の計算を以て入會せらるゝ月より向ふ一ヶ年分以上の會費を添へて申込まるべし

一會報は入會を申込まれたる其月の分より發送すべし入會以前の會報を望まるゝときは一冊に付金拾貳錢五厘を領收したる後之を送付すべし
但し第百二號(三十三年十一月發行)以上の會報は一冊に付金拾錢にて送付すべし

一會費其他の金圓を本會に送らるゝとき郵便爲替は拂渡局所を神田淡路町とし受取人を「大日本蠶絲會」とせらるべし小爲替證書は受取人の氏名を省略するを得べきことなれども途中紛失の虞もあるべきにつき爲替證書の表面右の方の欄内に「大日本蠶絲會」と記入せらるべし
爲替振込に不便なる土地なれば郵便切手一割増にて送らるべし
通運便に託し現金にて送らるゝ時は必ず配達賃拂濟にせらるべし

一會費金は毎年規定の通り(翌年の分は前年十二月中に)前納せらるべし

一氏名住所等を變更せられたるときは其都度直に本會に通知せらるべし

一退會せらるゝときは必ず其月までの會費を拂込まれたる後にあらざれば之を了諾せず

一會員中死亡せられたるときは其家族又は其地方會員より本會に通知せらるべし

一質問書は半紙を用ひ一紙に一件を限り字體は成るべく明瞭に記し且つ何府縣何郡何市何村大日本蠶絲會何會員某と署名し又其質問を要する物件方言のみにして本名判然せざるときは成るべく現品を添へて送らるべし

一會費金を督促したる後猶出金せられざる者は之を本分の義務を盡されざる者と看做し本會規則に據り除名すべし

此心得は會員諸君常に能く了知せらるゝは勿論他人の入會を誘導せらるゝの際には殊に之を示されむことを要す

大日本蠶絲會

●正誤前號廣告文中定價金拾圓トアル定價ハ豫約ノ誤リ

申込所

東京 京都 蠶業講習所用達

東京府下王子 五十二番地

紙本治太郎

凡ソ育蠶ノ秘術ヲ解得セント欲セハ須ク先ツ蠶體ノ生理、病理ヲ悉知セサルヘカラス、生理、病理ヲ研究セント欲セハ先ツ蠶體ノ構成ヲ詳ニセサルヘカラス是レ蠶體解剖ノ必要欠クヘカラサル所以ナリ。然レトモ解剖ノ事タル詳リニ之ヲ實驗セント欲セハ幾多精巧ノ器械并ニ藥品ト熟練ノ技術トヲ具有スルニアラサレハ能ハス之レ當業諸士ノ作爲セント欲シテ容易ニ能ハサル所ナリ。弊店茲ニ觀ルアリ今回左記ノ三君ニ目次標本ノ調製ヲ請ヒ廣ク世ノ需ニ應シ蠶業社會ニ補綴ヲ與ヘントス。表記三君ハ多年農商務省蠶業講習所ニ在リテ斯學ヲ研鑽シ斯術ヲ修得セラレタルノ士ナリ。今回發賣ノ標本ハ此ノ三君ノ手ヲ籍リテ調製セシノミナラズ現今斯術ノ泰斗タル石渡、林兩學士ノ綿密ナル檢閲ヲ經タルモノ其眞價ノ如何ハ敢テ自賛ヲ要セスシテ明カナリ。又本品ハ實ニ前古未發ノ調製物(得ント欲シテ容易ニ能ハサルモノ)斯業ニ關係アル諸賢農業學校、講習所傳習所ハ勿論苟モ斯學ノ研究ニ志アルノ人士奮テ購求セラル、アラハ一見斯業ノ蘊奥ヲ究ムルヲ得其便益豈啻ニ暗夜ニ於ケル燈火ノ比ノミニアラサルヘシ。
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
追テ蠶體病理ニ關スル標本ハ近々發表ノ豫定ナリ

京都蠶業講習所技師農學士　石渡繁胤先生
東京蠶業講習所技手農學士　林　彌作先生
　校閲

東京蠶業講習所研究科得業生　生方郡太郎先生
東京蠶業講習所本科卒業生　町田彦太郎先生
東京蠶業講習所研究科得業生　門脇永太郎先生
　調製

蠶體解剖標本　百種函入　豫約金拾圓定價金拾五圓(逓送費共)　一枚賣金貳拾錢(逓送費外)

目次

(一)幼蟲皮斷面(二)腹線(三)脂肪組織ト絲腺ト其核(四)蟻ノ氣門(五)ベルゾノ氣門下腺全形(六)全斷面(七)背皮腺全形(八)全斷面(九)幼蟲林內ニアル未成蛹ノ全形(一〇)全斷面(一一)絹絲腺全形(一二)前部絲腺橫斷面(一三)全縱斷面(一四)中部絲腺橫斷面(一五)全縱斷面(一六)後部絲腺橫斷面(一七)全縱斷面(一八)吐絲管トフヒリッピー氏腺ノ全形(一九)吐絲管橫斷面(二〇)フヒリッピー氏腺斷面(二一)幼蟲嘴線ノ全形(二二)全分泌管橫斷面(二三)全縱斷面(二四)全導管橫斷面(二五)全縱斷面(二六)十文形筋內(二七)筋內橫斷面(二八)全縱斷面(二九)マルピギー氏腺分枝ノ狀(三〇)全縱斷面(三一)全腺橫斷面(三二)全縱斷面(三三)全彫嚢部橫斷面(三三)全縱斷面(三四)幼蟲咽喉橫斷面(三五)全食道橫斷面(三六)全胃ノ界縱斷面(三七)全胃橫斷面(三八)全小腸橫斷面(三九)全直腸橫斷面(四〇)幼蟲血行器開口部橫斷面(四一)全胃ト小腸ノ界縱斷面(四二)幼蟲神經系ノ全形(四三)全神經球ト神經枝ノ橫斷面(四四)全縱斷面(四五)全食道ト胃ノ界縱斷面(四六)全血液注入口外見(四七)幼蟲氣門開閉ノ狀(四八)幼蟲皮膚ニアル叉狀氣管(四九)氣管被膜ノ細胞ト其核(五〇)氣管ノ橫斷面(五一)灰白色部橫斷面(五二)氣管及灰白色部縱斷面(五三)退化氣門全形(五四)退化氣門橫斷面(五五)全縱斷面(五六)幼蟲氣門ノ縱斷面(五七)幼蟲斷技(五八)全上顎(五九)全下顎(六〇)單眼橫斷面(六一)全縱斷面(六二)幼蟲雌生殖器全形(六三)全睾丸縱斷面(六四)幼蟲雄生殖器全形(六五)雄蛹縱斷面(六六)雌蛹縱斷面(六七)全縱斷面(六八)蛹ノ胃橫斷面(六九)蛹ノ氣門外見(七〇)全縱斷面(七一)全睾丸全形(七二)全縱斷面(七三)成蟲唾腺全形(七四)成蟲食道橫斷面(七五)成蟲胃ノ橫斷面(七六)成蟲腸ノ橫斷面(七七)成蟲神經系全形(七八)成蟲氣管分枝ノ狀(七九)成蟲氣門開閉ノ狀(八〇)復眼橫斷面(八一)全縱斷面(八二)成蟲觸角縱斷面(八三)成蟲觸角對照(八四)成蟲第一胸肢ト第二胸肢(八五)成蟲下顎(八六)全第一胸肢(八七)陰莖全形(八八)全末端(八九)卵管橫斷面(九〇)全縱斷面(九一)幼蟲第三環節胴切(九二)全第四環節胴切(九三)全第五環節胴切(九四)全第六環節胴切(九五)全第七環節胴切(九六)全第八環節胴切(九七)全第九環節胴切(九八)全第十環節胴切(九九)全第十一環節胴切(一〇〇)全頭部橫斷面

●注意解剖標本ハ蠶ノ實體ヲ以テ調製シタルモノニシテ印刷物若クハ模製物ニアラズ

●豫約期限四月三十一日迄●標本發送ハ申込ノ順序●現金添付申込ヲ要ス

府縣郡町村設立學校講習所傳習所農會等ハ豫約金ヲ要セス購求者ノ都合ニ依リ東京市神田區錦町三丁目大日本蠶絲會ニ申込アルモ差支ナシ

北海道春秋蠶種

空知郡瀧川村知節館

小石丸又昔
飛白白蠶豫約製造

晩春蠶種貯藏六月二十日迄

共同購入者一取次販賣人優待

試育館友募集一枠製一枚進呈

上毛蠶種の家

上毛蠶館○千本良芳郎

上野國新田郡野町

春蠶蠶種　八重姫。小石丸

販賣仕候御一報次第定格表呈

石川縣河北郡金津村

實力館

春蠶種青熟大又試育用

分與

壹枚代金郵稅共七拾五錢
埼玉縣大里郡八基村鶴地仙太

原種用蠶種

春蠶一夏蠶　又昔　白嬢　白玉
改良大草

實費分與

豫約外剩餘の分此際實費分與可仕候間御照會被下度候也

茨城縣結城郡上山川村

櫻井佐十郎

●健全無病

春蠶原種販賣

青熟○銀光白羽

種類

代價

一蛾ニ付金貳錢

特製　大形　小形
二　三　四
一圓七十五錢
一圓二百五十目
小量　大形　小形
一貫五百目　一貫二百五十目
別ニ賜品
郵便包目
送料
本館自辨爲替ハ陸前國佐沼郵便電信局
宮城縣陸前國桑折郡貫江村

畠山常治

農商務省特許

一名　養蠶必要　薫烟消毒器兼用暖爐　富貴暖爐

本器は最新の發明に係り輕便實用の蠶病消毒器と安全經濟の蠶室用暖爐とを兼たる一器兩用最便最益の利器なり●本器は桑樹霜害豫防法の薫烟を行ふに亦便利也

定價

一圓七十五錢

本器の一度蠶業界に現はるや斯學の大家諸士各地の斯業家諸君は競ふて之を試用し其有効なること感賞し實驗證明書感謝狀等を寄贈せらるゝもの甚だ多く今や本器の名聲は斯界に藉けり

有効證明書

農科大學教授理學博士佐々木忠次郎氏は本器を親ら實驗せられ左の證明者に與へられたり

本器は蠶病消毒器兼に蠶室暖爐として一時に數種の效能を有し其使用法も簡單なれば何人にも容易に會得せらるべし其價格も廉にして一般の蠶業者に適當なり

大擴張

販賣望の方は此際特別割引御相談可仕候

模造品に付て

本器の卒先蠶業界に高評を博したるあり近頃同樣の名稱を以て粗惡且つ不便益なる模造品を販賣せるもの現れたり其正なる薫烟器兼用暖爐には本紙圖面上部に掲出せる小判形の商標を器の正面に附す各地販賣店に放て御購求の節は本店の商標を篤と御注意可被下候

發賣元　關西代理店　東京電話市浪花市浪速区小倉橋際三丁目一番地　阿部彦四郎鐵物店

益收舍　大阪市東區博勞町四丁目一番地　大阪電話東一〇一四　萬平九年

英國蠶絲鑑定師橋本重兵衛編

内外生絲昂低一覽表

實價金參圓五拾錢

附羽二重昂低表

四回刷折本製ニシテ携帶便益之レヲ伸張スレバ扁額トナスコトヲ得ヘシ又三ツ切リトシテ繼キ合スレバ掛物トナルモノトス

本書ハ曩ニ編者ガ海外蠶絲界漫遊ノ結果世界各國ニ於ケル生絲產出高並ニ需用ノ割合等ヲ調査セント欲シ爾來二十年間刻苦精勵幾多ノ辛酸ヲ嘗メテ梓ニ上セシモノニシテ其概要ハ左ノ如シ

本邦收繭額及輸出總額生絲屑絲及絹物ニシテ生絲一ケ年ノ平均百斤ヲ其價格ハ米國爲換ニテ金貨ニ換算セシモノ及本邦提絲鐵砲絲折返絲及太機械一番生絲ノ高低。伊太利及佛國ノ收繭額又世界各國ニ於ケル蠶絲產出高及里昂ニ於ケル佛國絲ノ高低。米國絹輸入稅輸入絹物類生絲高及同國ニ於ケル本邦一番生絲ノ相場。横濱蠶絲取引所ノ先物相場及羽二重ノ最高最低等明治元年ヨリ同三十三年六月ニ至ル三十三年間ノモノニシテ皆圖解ト數字トニ依テ明瞭ナラシメ過去三十三年間世界年々ノ出來事ヲ記載シ斯業消長ノ迹一瞥ノ下ニ集中スルノ盛アラシム編者未ダ世ニ公ニセズト雖モ已ニ農商務大藏外務ノ各省其他ヨリ申込ミヲ享クルヿ枚擧ニ遑アラズ今般若干部ヲ限リ廣ク實價ヲ以テ世ニ公ニセント欲ス（著者述）

前書の購求を望まる向は實價金參圓五拾錢（郵稅共）を添へ御申込相成るべし

大日本蠶絲會

大日本蠶業研究會

蠶種部春蠶種豫約販賣

蠶種ノ良否ハ實ニ養蠶ノ豐凶ニ關スルコト大ニシテ養蠶ノ豐凶ハ常ニ蠶種ノ健否ニヨリテ支配セラル、者タルコトヲ知ラバ蠶種ノ撰擇豈忽ニスヘケンヤ本會ハ深ク之ヲ憂ヘ特ニ蠶種部ヲ設キ

會長大森學士ヲ始**岩田理事**及**大竹長塚**ノ兩教師其他役員一同自ラ**責任**ヲ帶ビ奮勵以テ健全免疫性ノ蠶種ヲ製造販賣可仕候間多少ニ拘ハラズ御飼育相成度願上候

種類（中巢）（又昔）（小石丸）（大巢）（大又）（白龍）

代價 原種用撿查濟蠶種百蛾　金貳圓五拾錢　製絲用撿查濟蠶種壹枚　金壹圓五拾錢

本會ノ蠶種ヲ飼育セントスル諸君ハ蠶種代金ノ貳割以上御拂込豫約申込アルヘシ●送料本會自辨

●割引法　御照會次第回答スヘシ

●爲換振込所　東京市芝區西久保局

●豫約申込所　東京市赤坂區溜池榎坂町二番地

大日本蠶業研究會事業部

會長 農學士大森順造　理事 岩田太郎

茨城縣北相馬郡高野村利根川沿岸地

大日本蠶業研究會**蠶種製造部**

養蠶傳習生

傳習生五十名募集ス

御申越次第規則書ヲ呈ス

大日本蠶業研究會傳習部

●純正フォルマリン液●

フォルマリン液ノ諸種ノ蠶病菌ノ消毒ニ使用シテ奏效顯著ナルコトハ夙ニ大森學士其他帝國大學及東京蠶業講習所ノ實驗成蹟ニ徵シ瞭ラカナリ故ニ之ヲ使用シテ蠶室蠶具ノ消毒ニ供スル者益々多キヲ加フルニ至レリ此際種々ノ奸商輩出シ品質ノ極メテ粗惡ニシテ殺菌ノ效力ヲ有セザル不良品ヲ販賣シ我ガ蠶業界ヲ腦マシ或ハ爲ニ「フォルマリン」水ノ有效ナルヤ否ヤヲ疑フ者ナキニシモアラズ本會會長之ヲ憂フルコト久シ矣故ニ大日本蠶業研究會ニ於テハ之ヲ救濟スルノ任ニ當ラザルヘカラザルガ故ニ事業部ニ於テハ内外化學者及ビ**大森會長**ノ檢查ヲ經タル純正ニシテ奏效確實ナル「フォルマリン」液ヲ汎ク我ガ蠶業界ニ紹介セントス

●原液一ポンド（四十プロセント含有）金壹圓五拾錢

●小包郵便ニテ四百匁●多數ハ通運便

●調劑「フォルマリン」水●

一ポンドニ付キ金壹圓五拾錢

小包送四百匁以內多數ハ通運便

調劑「フォルマリン」水ハ本會ニ於テ發見セシ調劑法ニ則リ「フォルマリン」ニ他ノ藥液ヲ混和シ調製シタル者ニシテ蠶室ニ撒布スルモ容易ニ乾燥スルコトナク蠶室ニ附着シ殺菌ノ效力ヲ一層強大ナラシム●田中式簡便安全消毒燈單立一具金拾貳圓五拾錢小包郵便四百匁●三連立一具金參拾貳圓小包郵便八百匁●五連立一具金五拾參圓小包一貫匁●消毒燈點火用「メチールアルコール」一磅金四拾五錢小包郵便四百匁●自動噴霧器一具金拾圓小包郵便一貫匁

發賣元

東京市赤阪區溜池榎阪町貳番地

大日本蠶業研究會事業部

大日本蠶業研究會報

見本八錢ニテ送ル

理學博士佐々木忠次郎先生校閲　大森順造先生著

增補三版 **日本蠶病論** 菊版四百頁余　價貳圓送料拾貳錢

農學士 大森順造先生　岩田次郎先生合著

再版 **日本蠶業革進策** 菊版四百頁以上　價郵稅共八拾三錢

在大學院農學士大森順造先生著　近刻

蠶業教科書 全一册價送料共壹圓參拾七錢精密圖挿入製本美麗

代金は本部の通知を待て拂込まるべし

通俗 **養蠶講義** 佐々木忠次郎先生校閲岩田次郎先生著●價郵稅共金卅四錢

再版 **蠶種製造論** 信州相馬愛藏先生著　實價郵稅金五十四錢

消毒薰烟 **暖爐** 小形一圓七十五錢大形二圓別製三圓外送料

打込桑摂一個六十錢●其他蠶書蠶具一切

蠶網 各種

爲換振込局芝區西久保局

東京市赤坂區溜池榎坂町貳番地

大日本蠶業研究會事業部

會長 大森順造　理事 岩田太郎

戸田翠香君編

男爵金子堅太郎君題辭

實業寶典

全一册洋裝上製背皮金字入
紙數貳千頁四六判美本
正價金參圓
目方四百五十匁

新書は著者が明治初年以來、勸業寮博物館及開拓使物産取扱所等に歴仕し、親しく實地に就きて調査し以て一の物產史を編み又其餘緒を纂めて商品學として刊行せしが端緒さし爾後各地に歴遊して其資料を蒐集し且つ其異同を訂し屢々校訂改竄を加へ遂に積んで一大册子と成れるを以て其編纂を辭書に倣ひ語毎に各項に分ちて丁寧簡明に解說を附したるものにて普通辭典又は節用大全等に載する所のものは更なり雅語俗語古語等も諸書を參考して補正を加へ以て脫漏なきを勉めたり特に斯書の出色は單に語の解說に止まらず尙進んで植物に於ては品種、播種、栽培、適地、收穫、製造、料理、成分、貯藏等に分ち動物に於ては品種、形狀、飼育、繁殖、料理、成分、貯藏等に分ち鑛物に於ては品種、採掘、製造等に分ち産地、海外輸出等に至るまで悉く解說を加へ例へば衣服の目に於ては東西兩様の裁縫法を載せ、料理の目に於ては在ゆる料理法を解き、染物の目に於ては東西二様の染色法を揭げ、茶の湯、生花、音樂、其他の遊戲に至るまで詳密に起原沿革考證等を附記したれば一本にして殆んど實業百科の書を網羅し一度繙けば立ろに萬能師と爲るを得べく苟くも商工農の業に從ふものは勿論家政を執るもの、參考として必らず各家に一本を備へざるべからざる最良有益の大寶典たゝするに憚らず請ふ陸續豫約御申込あらんことを

農商務省蠶業講習所技師　松永伍作君校閲
望月關馬君　三谷徹君共著

育蠶要錄

全壹册洋裝正價卅五錢郵稅六錢

本書は養蠶家が蠶兒飼育上須臾も欠くべからざる日誌にして目誌○測候用語及符號、溫度表、春蠶催青標準表、甲種飼育日誌、各齡間平均表、各齡飼育經過表、氣候觀測表、各齡間溫濕平均表、蠶兒飼育紀要、乙種飼育日誌、催青日誌、各齡間平均表、蠶兒成育要紀、丙種飼育日誌、催青日誌、飼育日誌、各齡間平均表、蠶兒成育紀要、蠶上簇表、蠶收繭表、蠶製種表、蠶人夫使役表、蠶採桑日記、蠶支出記入表、蠶收支計算表、育蠶結果表、蠶一枚の飼育に關する諸準備、對桑一貫目に對する桑葉條の割合等其他必要の諸表は悉皆網羅して殘さず實に便利有益にして蠶業家たる者必ず一本を欠くべからざる良書なり

橫山源之助君著

養蠶と生絲

本書は著者が多年の實驗に成るもの蠶絲業家必讀の書也

寫眞銅版口繪入

全壹册
洋裝菊版美本
正價金貳拾錢郵稅六錢

發兌元　東京日本橋區本町三丁目　博文館

蠶業新報

（毎月一回定期刊行）　第九拾四號　（明治卅四年二月廿日發行）

●「口繪」蛆蠅產卵之圖　石渡農學士寫生（は本號所載「蛆蠅產卵日記」と共に對照して一讀の價値あるもの）

●「蠶務私見」製絲器械の改良と製絲技術師の養成

●「蠶界時論」蠶病消毒に就て注意　佐々木博士
蠶兒の清冷育を望むと題する論文を讀むで小岩井氏の反對論は益々詳密を加へ今や蠶界の耳目を聳動するに至れり又池田氏の蠶業經營の方針論は論旨愈々一般に沁て之亦一讀すべきもの
大森農學士の蠶病と國家經濟は流石主唱者の議論丈一般蠶業家の是非一讀せざる可らざるもの
松永技師の日本蠶絲業の將來は益々佳境に入り此二論は今日日本蠶業家の項門の一針又警醒の一劑にして熟讀更に三讀すべきものなり

●「蠶家實驗」蛆蠅產卵日記　石渡農學士の實驗にして口繪と共に對照して大なる趣味と利益とを併有するもの又一讀せざる可らず、蠶兒石灰飼育試驗の成績は本號を以て完結せり

●定價一部七錢十部拾二部前金郵稅共八拾四錢廿四部同壹圓五十六錢●爲替東京本局郵券代用一割增（特電話本局二千八拾五番）

發行所　東京市日本橋區箔屋町十四番地　蠶業新報社

農學士針塚長太郎著

新刊　養蠶學

洋製本綴（製本既成）
定價七拾五錢
郵稅八錢

本書は農科大學及農商務省蠶業講習所等に於ける斯道專門諸大家の多年研究の成績を基礎とし、大に著者の實驗を加へ、且又各地實業家の經驗を參へて編纂したる者にして、其の內容は如何といふに、蠶室、蠶具、蠶兒の發生、蠶體の解剖生理、蠶種の貯藏、催青法、蟻蠶掃立飼育法、飼育中に於ける諸般の注意、上簇法、採種法、蠶種檢查法等を詳述し、殊に微粒子病、諸種の軟化病、白殭病、綠殭病、蠶蛆、蠅蛆等の蠶病に於て、病原、病兆、驅除、豫防等を最も嶄新に發揮せり、而して其行文の簡にして要を得たるは亦本書の特色とす、實に是れ我が蠶業界に新面目を開きたる好著述なれば、斯道に篤志なる諸彥、豈に此卷を手にせざるを得んや

新刊　絹絲學

洋製本綴（製本既成）
定價七拾五錢
郵稅八錢

世に絹絲の書尠からずと雖ども、其說く所製絲法の一部に止まりて未だ曾て絹絲の性質を根本より理化學的に論究したる者なきは。斯業の一大恨事なり、本書は農科大學、蠶業講習所、生絲檢查所等の研究成績を網羅し、獨逸の大家ジルベルマン氏の著書より、絹絲の部分を參譯して編纂したる者にして、其內容は、絹絲の槪論、絹絲中の灰分、絹絲に對する水アルカリ等の溶解力、並に其成績物、アルカリの作用、絹絲と他の動植物性纖維との區別、各種の酸の作用、絹絲成分の處理法、絲膠の性質、野蠶絲の講造性質彈力伸力、並に是等に關する全般の定則、練絲に用ゐる石鹼の性質、練絲法、生絲加里に關する事項、水質改良法、繭揚剝法、各式製絲法、蠶新式殺蛹乾燥法、製絲に關する諸器具、生絲檢查法、並に用具等、細大漏す所なし、是れ亦斯業の改進を促す所の寶典として生れ出でたるものなれば、一日も早く購讀して効果を收められんことを欲す

發行所　東京市日本橋區馬喰町二丁目一番地　興文社　敬白

◎蠶業界諸氏ニ!!!急告ス

自動噴霧器

ホルマリン液

和製(壹具)金拾圓　小包料ハ何レモ百里内金貳拾錢
舶來製(壹具)金拾六圓　百里外金四拾錢

本品ハ「ホルマリン」液ヲ容解シ蠶室、蠶具ニ撒布消毒ナスヿハ適宜ニ細霧ヲ噴出スル至便ナル良器ナリ

◉本器(和製)ニハ製作ニ一大改良ヲ加ヘ一定ノ商標ヲ附シ販賣仕候ニ付萬一ニモ御使用中工合狂セタルヿハ三ヶ年間ハ責任ヲ以テ無代價ニテ修繕可致候是レ發賣元ノ特色ナリ

◉本品ハ發賣以來我蠶業界ニ好評ヲ博シツヽアルヲ始メ近來模造品アリ御購求ノ節ハ發賣元ノ商標ニ御注意アランコヲ乞フ

◉本器ノ說明使用書ハ御申込次第贈呈ス

◉蠶病消毒ニ必用ナル利器ヲ御使用アランコヲ國家ノ爲メ謹告仕候

調劑各國藥種問屋　本舗
東京市日本橋區本町三丁目十八番地
松本市左衛門
(電話本局七百五十一番)

簡便安全消毒燈發賣元
醫療理化學器械問屋
及蠶業用顯微鏡試驗器械
東京市日本橋區本町三丁目十四番地
田中杢次郎
(電話本局千五百二十番)

製造發賣元

◉緊急廣告

蟻酸アルデヒト液

瓦斯式中田簡便安全消毒燈

○リングヲル氏消毒器一式販賣元

◎本消毒燈ハ名稱ノ如ク使用至テ簡便ニシテ最モ安全且奏効顯著ナルハ世ニ一定ノ公評アリ彼ノ危險ニシテ火災ヲ惹起シタル消毒燈ト同一視セラル、コヲ勿レ

本店販賣ノ器械ハ完全、藥品ハ正確ナリ故ニ蠶室、蠶具ヲ消毒シ既ニ三四劑ノ增收アルハ實業家諸氏ノ一般ニ認メラレ發賣以來好評ヲ博シ我蠶業界ニ歡迎セラレツヽアリ本店ハ製作ニ倍々改良ヲ加ヘ且藥品等モ悉ク純正ノ物ヲ販賣ス目下春蠶ノ消毒期節ニ付續々御購求ノ上御使用アランコヲ國家ノ爲メ謹告ス

本消毒燈ハ單立アリ三連立、五連立アリ故ニ便宜ノモノヲ御使用セラル、コヲ得

○本品ニハ製造發賣元ノ商標アリ御注意ヲ乞フ

○本器ノ說明使用書ハ御申越次第贈呈ス

製造發賣元

ライツ顯微鏡日本一手販賣
醫療理化學器械問屋
東京市日本橋區本町三丁目十四番地
田中杢次郎
(特電話本局千五百二十番)
東京市日本橋區本町三丁目十八番地
松本市左衛門

特約販賣店

○簡便安全消毒燈(單立金拾貳圓五拾錢　三連立金參拾參圓　五連立金五拾金圓)
○メチールアルコール(壹口)火用(壹壹金四拾五錢)
○自動噴霧器金拾圓
○田中式簡便噴霧器金貳圓
○蟻酸アルデヒト液壹壹)金壹圓(四十プロセント含有)壹壹金壹圓五拾錢
○フォルマリン
○トリラー氏消毒器販賣元

佐々木理學博士
大森農學士
三吉農學士
田中式簡便噴霧器
河原農學士
清水昆蟲學士
實驗證明附

理學博士佐々木忠二郎先生著
● **蠶兒飼育法** 全 賣價廿二錢 郵税二錢

ボルレー氏 再版
○ **微粒子病肉眼鑑定法** 全 賣價卅錢 郵税四錢

信陽油井彌一郎先生著
● **蠶之蛆害** 全 賣價廿三錢 郵税二錢

農商務技師松永伍作先生著述
○ **夏秋蠶の燈** 全 賣價五十五錢 郵税六錢

第五版
蠶桑實驗說 全一冊 賣價五十錢 郵税六錢

第十二版 再訂増補
養蠶術講義 全一冊 賣價四十錢 郵税四錢

農商務技師本多岩次郎先生復命
清國蠶業視察復命 全一冊 賣價五十錢 郵税六錢

清國蠶絲業調査 全一冊 賣價四十錢 郵税六錢

第四版 小幡信篤先生譯述
ハーベルランド氏 **養蠶論** 全一冊 賣價八十五錢 郵税十錢

農商務省農務局編 第一次
蠶事試驗成蹟十年報 全一冊 賣價三十五錢 郵税六錢

京都蠶業講習所技手田島棟平先生著
蠶桑之眞理 全一冊 賣價四十八錢 郵税六錢

末松格平先生著
蠶桑進化論 全一冊 賣價五拾錢 郵税四錢

石井民司先生著
實用蠶桑書 全一冊 賣價四十五錢 郵税四錢

田村多門先生著
學理經驗 **實地養蠶論** 全一冊 賣價四十八錢 郵税六錢

養蠶術問答 全一冊 賣價三十五錢 郵税二錢

池田幸之助先生講述 新刊
實地應用 **栽桑養蠶術** 全一冊 賣價金卅二錢郵税共

發兌 東京京橋區南傳馬町二丁目 穴山篤太郎

丸山舍發賣書籍目録

書名	著者	價	郵税
大日本蠶史	從五位速水堅曹補 佐野瑛著	二圓五十錢	二十錢
蠶體生理（再版）	石渡農學士閲 池田榮太郎著	一圓廿五錢	十四錢
日本蠶病消毒法	諸先生之校閲 池田榮太郎著	二十五錢	四錢
屑繭利用紬製絲獨習秘書	丸山舍器械紬製絲傳習所著	五十錢	四錢
實驗養蠶新書	加藤吉池二氏閲 仁保清作著	四十五錢	四錢
日本蠶病論（第三版）	佐々木博士閲 大森農學士著	二圓	十四錢
日本蠶業革進策（再版）	大森農學士 岩田次郎二氏著	七十五錢	八錢
座繰製絲法	群馬縣前橋製絲十五織史著	二十錢	二錢
養蠶講義（第三版）	木村九藏先生閲 折茂住平著	三十錢	四錢
節高病蠶論（再版）	三吉學士閲 宮入長右衛門著	四十錢	四錢
四化蠶飼育法	毛利先生閲 四化蠶講習會著	二十錢	二錢
秋蠶原論	秋蠶豐熱組長 戸所林次郎著	三十錢	四錢
桑樹諸害驅除豫防法	城丹蠶業講習所 渡邊義武著	二十錢	二錢
簡易蠶桑問答附春蠶標準表	練木喜三先生閲 小田勢助著	八錢	二錢
大日本蠶絲業家人名錄	蠶業新報社 大溝亭編輯	二十五錢	四錢
實地應用接木法（第四版）	竹澤章著	十五錢	二錢
實業學校案內	丸山舍 安田太助編輯	十八錢	二錢
蠶界名士之肖像	蠶業新報社編	十錢	二錢
蠶業懸賞論文集	蠶業新報社編	十錢	一錢
蠶種製造論（再版）	相馬愛藏著	五十錢	四錢
秋蠶飼育法	相馬愛藏著	十五錢	二錢
蠶躰解剖（第三版）	外山、石渡兩農學士著	一圓二十錢	十錢
蠶躰病理（第四版）	佐々木博士閲 河原農學士著	三十五錢	四錢
新刊組絲學	農學士針塚長太郎著	七十五錢	八錢
新刊養蠶學	農學士針塚長太郎著	七十五錢	八錢
製絲法（第二版）	高橋信貞著	一圓	十錢
養蠶實驗說	競進社正副社長一等教授著	一圓二十錢	十錢
競進社長蠶飼の鑑	中村高樹著	三十五錢	四錢
通俗養蠶術講義	佐々木博士閲 岩田次郎著	三十錢	四錢
蠶業適要化學教科書	西ヶ原講義復講 杉山著	四十錢	四錢

●以上揭ぐる外東京市內發行の書籍は何種の者にても取次仕候也

東京日本橋區通旅籠町四拾番地●京都上京區中立賣通七本松東入●大阪西區京町堀二丁目三十二番地

丸山舍本店（特電話二〇八五番） 丸山舍京都支店 丸山舍大阪支店

●ムラトリ式噴霧器

銅製　正價金八圓五十錢
ニッケル製　正價金九圓

顯微鏡

ライヘルト氏
ツァイス氏
ライッツ氏

●ホルマリン船來原液　四十%金壹圓五拾錢

●トリラ氏消毒器
●蠶業講習所用乾濕計及寒暖計
●蠶業幻燈器並ニ映畫
●蠶種檢查用器具一式
●製糸器具一式
●春夏秋風穴四化蠶種
●細菌培養試驗器
●其他農蠶書籍等養蠶ニ關スル物品一切
●簡便消毒燈一具金拾圓
●解剖用諸器械
●蠶種製造用器具一式
●繭殺蛹乾燥器
●撚簇製造器
●各種桑苗木

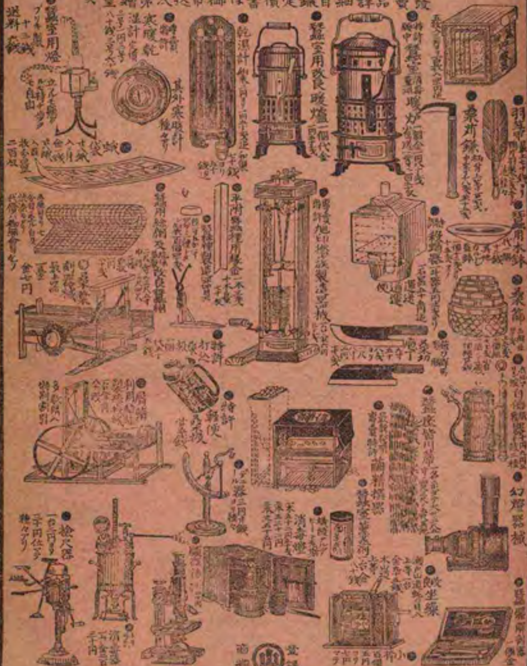
凡ソ良品ヲ得ント欲セバ工作品ハ原料ヲ精撰シテ之ニ技術ノ精巧ヲ加ヘ農産品ハ良種ヲ撰ンデ種々ノ障害ヲ豫防シ可成其發育成長ヲ害セシメザルコトヲ勤メザレバ其目的ヲ達シテ相當ノ利益ヲ得ル能ハザルハ天下ノ大法則ニシテ愛顧諸君ノ夙ニ知了セラル、所ナリ而シテ現今蠶絲業ノ國家及一般人士ニ有利有益ナルヲ知ラル、ヤ之ヲ營ム者日ニ多ク從テ器具蠶種桑苗ノ需要日ニ增加ス爰ニ於テカ奸商等ノ機ニ乘ジテ不正ノ手段ヲ行ヒ暴利ヲ博セントスル者アリ加之養蠶ノ增加ト共ニ蠶病ノ蔓延又甚シカラントス弊店深ク之ヲ慨スルアリ蠶業講習所御用達ヲ命ゼラレ候以來正實勉強迅速トヲ旨トシ蠶種桑苗ノ良種ト器具ハ輕便ニシテ實用上最モ經濟的ノモノヲ撰ビ蠶病ヲ驅除スルノ消毒器及ビ各種ノ顯微鏡ハ斯業技師ノ鑑定ヲ乞ヒ其他斯業ニ關スル一切ノ必需品ヲ取次販賣候條斯業ヲ營ミ後日ノ悔ヲ招カザランヲ期スルノ士奮テ御注文アランヿヲ希望ノ至リニ不堪候

農商務省
東京 京部 蠶業講習所
御用達

東京府下王子五十二番地
紙本治太郎

改良蠶具類一式製造發賣元

發賣品詳細目錄定價書ハ御申込次第贈呈ス



登錄商標

蠶種桑苗蠶書蠶具問屋

東京市日本橋區通旅籠町十四番地●京都市上京區中立賣通七本松東入[illegible]●大阪市[illegible]

丸山舍本店（電話本局二八〇五番電報略號○ヤマ）○丸山舍京都支店（電報略號○ヤマ）○丸山舍大阪支店（電報略號○ヤマ）

本器ノ有益ニシテ全國ニ大好評ヲ博シタル

特許 専賣 **旭鶴印撚簇製造機械**

定價 五分籠用 壹臺 金五圓九十五錢
七分籠用 壹臺 金六圓三拾錢

發明人 溝呂木源兵衛
加藤淺次郎

撚簇ヲ半パ製成シタル樣ノ圖

●九輕便桑扱具

定價 壹個 金貳拾五錢 郵税四錢

●桑切庖丁●桑剡器械●蠶室用暖爐各種●桑切鎌●桑篩●カルトン鉢●絲綢●琉球綢●寒暖計乾濕計●羽帚●蠶種貯藏品●安全消毒燈●自働噴霧器●滿殺蛹器●紙絲●小枠●製絲小道具類●其外蠶具製絲器一式販賣●右諸品澤山御注文之節ハ大勉强割引仕候間澤山御注文奉願上候

蠶具製絲器械一式發賣所 東京神田區駿河町三十二番地（今川橋） 中川安次郎

寒暖計並乾濕計大販賣

蠶業に於て寒暖計及乾濕計の必要なるは今更言ふ迄もなし左れば年々全國製造高數十萬本を以て數ふ實に盛なりと云ふべし然れども惜いかな買ふ者の多くは其必要なる度の正不正は措いて問はず唯だ價の廉なるのみに着眼して以て之に供し而して賣る者の客の意を迎ふるに勉め只管廉なるものを調達し可なりとなす偶々瓦品を撰んで販賣せんに精撰せざる可からず製作に意を用ひざるは製造上の原價を大に停滯所なしむるに至る故に幾分の價値を減じ賣れざるは之を一切購買者の損失なり故に今日の如く品物の盛行する時に當り弊舍物に資金を投ずるの考へを有する者は必ず正確の高價を撰み又相當の代價を仕拂ふの決心あるべし賣者の時に亦只最高最低の二種を設け決して虛偽の價を吾蠶業社會に發賣す續々御注文を希望す

寒暖計

船來板付代 金壹圓
船來太丸代 金七十錢
船來中丸代 金壹圓
船殺蛹計 同八拾錢
船細管 同貳拾錢
船來最高最低寒暖計 壹圓
大形六圓 小形五圓

乾濕計

船來別形 金壹圓五十錢
和製最上 金壹圓五十錢
船來大形 金二圓
船來中形 金壹圓七十錢
小包郵便送料 四百匁以内

發送は見本一個六錢宜しく小包郵便送料は一個五十匁以内

右の外普通の上とも申すべき寒暖計にて二十錢卅五錢五十錢乾濕計にて五十錢七十錢等の品も御座候

最高最低寒暖計を用ゐられよ

此寒暖計は温度の最も高かりし所及低かりし所を指示し置く故后に至りて之を見昨夜の温度は最高何度にして最低何度なりしと云ふことを知り以て正確の蠶日誌をも調製し得るなり此寒暖計の一個だも所持せざる者が一日の平均温度なぞ堂々と書立て日誌等を作るものあるも少しも當てになるものにあらずと存候

廣告

一ダース以上購入は割引す

發賣 東京日本橋箔屋町十四 丸山舍
京都上京區中立賣通七本松東入 丸山舍支店
大坂川口本田二番町卅二番町 丸山舍支店

●日本農事株式會社新規發賣品至急廣告●

●專賣特許 打込手扱兼用桑扱
壹個定價六拾錢郵税八錢多數割引

本器ハ下圖ノ如ク打込ニ使用スルモ或ハ手扱ニ使用スルモ壹器アレバ何レニモ兼用スル天下無類新規發明特許ノ桑扱ナリ

●專賣特許 桑葉刻機
大形金九圓 小形金七圓

本器ハ在來世間ニアル桑刻器トハ違ヒ構造堅固且使用スルニモ極輕便ニシテ婦女子ニテモ一時間ニ桑葉十二貫目ヲ一分目ヨリ八分目マデ自由ニ刻ムコト容易ニ出來得ル天下無類新規發明特許ノ桑葉刻機ナリ

●專賣特許 蠶室用暖爐各種
●專賣特許 旭鶴印撚篠製造機械
定價七分簡用六圓三十錢 五分簡用五圓九十錢
●簡便安全消毒燈 壹具金拾二圓 小包料六百目
●內外純良農產種子各種
●特約一手販賣 及取次ヤ販賣御希望ノ御方又ハ共同購入ニテ御注文ハ特別大割引可仕候 ニ付郵券三錢封入御申込次第農蠶具一式目錄春時種子各種目錄及割引規定書御送付可致候

●自働噴霧器
甲壹具拾圓 乙金六圓五十錢
ホルマリン原液及メチールアルコール

●右ノ外農蠶具一式發賣

農具蠶器內外農事種子各種

發賣元　東京淺草區永住町五〇　日本農事株式會社

日本蠶病消毒法

原理詳解
實用應用

京都蠶業講習所長 松永伍作先生
同所技師 農學士 石渡繁胤先生
同所師 農學士 川島勝次郎先生
池田桑太郎君著

校閲

（蠶業界に非常の喝采を以て迎へられたる本書は初版賣切れ暫く品切中の處今般）「再版」出來發賣偖々御愛讀を乞ふ

洋裝美本 精圖入 定價廿五錢 郵税四錢

日次
第一節 蠶病ノ種類 ○第二節 蠶病ノ原因 ○第三節 微生物繁殖ノ概況 ○第四節 消毒法實行上ニ於ケル注意 ○第五節 蠶兒ノ病原 ○第六節 蠶室ノ消毒法 ○第七節 蠶具ノ消毒法 ○第八節 蠶具ノ消毒法 ○第九節 蠶具ノ消毒法 ○第十節 蠶具ノ消毒法 ○第十一節 蠶具ノ消毒法 ○第十二節 蠶具ノ消毒法 ○第十三節 蠶具ノ消毒法 ○第十四節 蠶具ノ消毒法 ○第十五節 蠶具ノ消毒法 ○第十六節 蠶具ノ消毒法 ○第十七節 蠶具ノ消毒法 ○第十八節 蠶具ノ消毒法 ○第十九節 蠶具ノ消毒法 ○第二十節 蠶具ノ消毒法 ○第二十一節 蠶具ノ消毒法 ○第二十二節 蠶具ノ消毒法 ○第二十三節 蠶具ノ消毒法 ○第二十四節 蠶具ノ消毒法 ○第二十五節 蠶具ノ消毒法 ○第二十六節 蠶具ノ消毒法 ○第二十七節 蠶具ノ消毒法 ○第二十八節 蠶具ノ消毒法 ○第二十九節 蠶具ノ消毒法 ○第三十節 蠶具ノ消毒法 ○第三十一節 蠶具ノ消毒法 ○第三十二節 蠶具ノ消毒法 ○第三十三節 蠶具ノ消毒法 ○第三十四節 蠶具ノ消毒法 ○第三十五節 蠶具ノ消毒法 ○第三十六節 蠶具ノ消毒法 ○第三十七節 蠶具ノ消毒法 ○第三十八節 蠶具ノ消毒法 ○第三十九節 蠶具ノ消毒法 ○第四十節 蠶具ノ消毒法 ○第四十一節 蠶具ノ消毒法 ○第四十二節 蠶具ノ消毒法 ○第四十三節 蠶具ノ消毒法 ○第四十四節 蠶具ノ消毒法 ○第四十五節 蠶具ノ消毒法 ○第四十六節 蠶具ノ消毒法 ○第四十七節 蠶具ノ消毒法 ○第四十八節 蠶具ノ消毒法 ○第四十九節 蠶具ノ消毒法 ○第五十節 蠶具ノ消毒法 ○第五十一節 蠶具ノ消毒法 ○第五十二節 蠶具ノ消毒法 ○第五十三節 蠶具ノ消毒法 ○第五十四節 蠶具ノ消毒法 ○第五十五節 蠶具ノ消毒法 ○第五十六節 蠶具ノ消毒法 ○第五十七節 蠶具ノ消毒法 ○第五十八節 蠶具ノ消毒法 ○第五十九節 蠶具ノ消毒法 ○第六十節 蠶具ノ消毒法 ○第六十一節 蠶具ノ消毒法 ○第六十二節 蠶具ノ消毒法 ○第六十三節 蠶具ノ消毒法 ○第六十四節 蠶具ノ消毒法 ○第六十五節 蠶具ノ消毒法 ○第六十六節 蠶具ノ消毒法 ○第六十七節 蠶具ノ消毒法 ○第六十八節 蠶具ノ消毒法 ○第六十九節 蠶具ノ消毒法 ○第七十節 蠶具ノ消毒法 ○第七十一節 蠶具ノ消毒法 ○第七十二節 蠶具ノ消毒法 ○第七十三節 蠶具ノ消毒法 ○第七十四節 蠶具ノ消毒法 ○第七十五節 蠶具ノ消毒法 ○第七十六節 蠶具ノ消毒法 ○第七十七節 蠶具ノ消毒法 ○第七十八節 蠶具ノ消毒法 ○第七十九節 蠶具ノ消毒法 ○第八十節 蠶具ノ消毒法 ○第八十一節 蠶具ノ消毒法 ○第八十二節 蠶具ノ消毒法 ○第八十三節 蠶具ノ消毒法 ○第八十四節 蠶具ノ消毒法 ○第八十五節 蠶具ノ消毒法 ○第八十六節 蠶具ノ消毒法 ○第八十七節 蠶具ノ消毒法 ○第八十八節 蠶具ノ消毒法 ○第八十九節 蠶具ノ消毒法 ○第九十節 蠶具ノ消毒法 ○第九十一節 蠶具ノ消毒法 ○第九十二節 蠶具ノ消毒法 ○第九十三節 蠶具ノ消毒法 ○第九十四節 蠶具ノ消毒法 ○第九十五節 蠶具ノ消毒法 ○第九十六節 蠶具ノ消毒法 ○第九十七節 蠶具ノ消毒法 ○第九十八節 蠶具ノ消毒法 ○第九十九節 蠶具ノ消毒法 ○第百節 蠶具ノ消毒法 ○第百一節 蠶具ノ消毒法 ○第百二節 蠶具ノ消毒法 ○第百三節 蠶具ノ消毒法 ○第百四節 蠶具ノ消毒法 ○第百五節 蠶具ノ消毒法 ○第百六節 蠶具ノ消毒法 ○第百七節 蠶具ノ消毒法 ○第百八節 蠶具ノ消毒法 ○第百九節 蠶具ノ消毒法 ○第百十節 蠶具ノ消毒法 ○第百十一節 蠶具ノ消毒法 ○第百十二節 蠶具ノ消毒法 ○第百十三節 蠶具ノ消毒法 ○第百十四節 蠶具ノ消毒法 ○第百十五節 蠶具ノ消毒法 ○第百十六節 蠶具ノ消毒法 ○第百十七節 蠶具ノ消毒法 ○第百十八節 蠶具ノ消毒法 ○第百十九節 蠶具ノ消毒法 ○第百二十節 蠶具ノ消毒法 ○第百二十一節 蠶具ノ消毒法 ○第百二十二節 蠶具ノ消毒法 ○第百二十三節 蠶具ノ消毒法 ○第百二十四節 蠶具ノ消毒法 ○第百二十五節 蠶具ノ消毒法 ○第百二十六節 蠶具ノ消毒法 ○第百二十七節 蠶具ノ消毒法 ○第百二十八節 蠶具ノ消毒法 ○第百二十九節 蠶具ノ消毒法 ○第百三十節 蠶具ノ消毒法 ○第百三十一節 蠶具ノ消毒法 ○第百三十二節 蠶具ノ消毒法 ○第百三十三節 蠶具ノ消毒法 ○第百三十四節 蠶具ノ消毒法 ○第百三十五節 蠶具ノ消毒法 ○第百三十六節 蠶具ノ消毒法 ○第百三十七節 蠶具ノ消毒法 ○第百三十八節 蠶具ノ消毒法 ○第百三十九節 蠶具ノ消毒法 ○第百四十節 蠶具ノ消毒法 ○第百四十一節 蠶具ノ消毒法 ○第百四十二節 蠶具ノ消毒法 ○第百四十三節 蠶具ノ消毒法 ○第百四十四節 蠶具ノ消毒法 ○第百四十五節 蠶具ノ消毒法 ○第百四十六節 蠶具ノ消毒法 ○第百四十七節 蠶具ノ消毒法 ○第百四十八節 蠶具ノ消毒法 ○第百四十九節 蠶具ノ消毒法 ○第百五十節 蠶具ノ消毒法 ○第百五十一節 蠶具ノ消毒法 ○第百五十二節 蠶具ノ消毒法 ○第百五十三節 蠶具ノ消毒法 ○第百五十四節 蠶具ノ消毒法 ○第百五十五節 蠶具ノ消毒法 ○第百五十六節 蠶具ノ消毒法 ○第百五十七節 蠶具ノ消毒法 ○第百五十八節 蠶具ノ消毒法 ○第百五十九節 蠶具ノ消毒法 ○第百六十節 蠶具ノ消毒法 ○第百六十一節 蠶具ノ消毒法 ○第百六十二節 蠶具ノ消毒法 ○第百六十三節 蠶具ノ消毒法 ○第百六十四節 蠶具ノ消毒法 ○第百六十五節 蠶具ノ消毒法 ○第百六十六節 蠶具ノ消毒法 ○第百六十七節 蠶具ノ消毒法 ○第百六十八節 蠶具ノ消毒法 ○第百六十九節 蠶具ノ消毒法 ○第百七十節 蠶具ノ消毒法 ○第百七十一節 蠶具ノ消毒法 ○第百七十二節 蠶具ノ消毒法 ○第百七十三節 蠶具ノ消毒法 ○第百七十四節 蠶具ノ消毒法 ○第百七十五節 蠶具ノ消毒法 ○第百七十六節 蠶具ノ消毒法 ○第百七十七節 蠶具ノ消毒法 ○第百七十八節 蠶具ノ消毒法 ○第百七十九節 蠶具ノ消毒法 ○第百八十節 蠶具ノ消毒法 ○第百八十一節 蠶具ノ消毒法 ○第百八十二節 蠶具ノ消毒法 ○第百八十三節 蠶具ノ消毒法 ○第百八十四節 蠶具ノ消毒法 ○第百八十五節 蠶具ノ消毒法 ○第百八十六節 蠶具ノ消毒法 ○第百八十七節 蠶具ノ消毒法 ○第百八十八節 蠶具ノ消毒法 ○第百八十九節 蠶具ノ消毒法 ○第百九十節 蠶具ノ消毒法 ○第百九十一節 蠶具ノ消毒法 ○第百九十二節 蠶具ノ消毒法 ○第百九十三節 蠶具ノ消毒法 ○第百九十四節 蠶具ノ消毒法 ○第百九十五節 蠶具ノ消毒法 ○第百九十六節 蠶具ノ消毒法 ○第百九十七節 蠶具ノ消毒法 ○第百九十八節 蠶具ノ消毒法 ○第百九十九節 蠶具ノ消毒法 ○第二百節 蠶具ノ消毒法

東京蠶業講習所長 澤野淳先生序
京都蠶業講習所長 松永伍作先生序
石渡農學士校閲
池田桑太郎君著

（再版）

蠶業病理

正價金壹圓貳拾五錢郵税十四錢
新版縦七寸五分横五寸二分
背皮絹クロース金文字入函服
石版寫眞版等數十個挿入石版
彩色五回刷綺麗入金數三百
七十頁用紙鮮美上等本書月次
昨年十一月本誌上ニアリ

發賣 東京日本橋 箔屋町十四 丸山舍 京都上京區中立賣通七本松東入 丸山舍支店 大阪川口本田 三番町井二番 丸山舍支店

北海道蠶種委托販賣廣告

●●框製優等 百蛾中病毒ノ爲メ切拔キナキモノ百蛾金壹圓五拾錢

春蠶 小石丸青熟又昔 右郵送料共

●平製無毒保證種 全面附壹枚金壹圓廿錢

但シ平附拾枚框製壹千蛾以上ハ割引ス御注文ノ際ハ御申込ト同時ニ代價三分一以上御拂込アレバ蠶種ハ直チニ發送ス幾條ハ蠶種着ノ上御拂渡シチ乞フ（爲替ハ札幌郵便電信局）

札幌區南五條東二丁目拾參番地　北海道蠶種委托販賣事務所

主任　阿子島安元

一 蠶種廣告

小石丸長巢又昔

普通製原紙壹枚金壹圓三十五錢框製原種用武拾八蛾付壹枚金五拾八錢八厘運賃ヲ要セス

本園ニ販賣スル所ノ蠶種ハ園主中村正路氏カ三十余年來經驗練磨セラレタル手腕ニ阿武川沿岸ノ砂地ニ生育繁茂セル眞桑テ撰擇シテ飼育製造セラレタルモノニシテ其蠶種ノ如何ニ強健ニ其種類ノ如何ニ製絲上ニ適當セルカハ乞フ御試育ノ上ニ於テ知ラレンコテ望ム

山口縣阿武郡椿郷東分村

畊稼園種苗部

製絲法

前農商務大臣正三位勳一等金子堅太郎君題辭　農商務次官從四位勳四等藤田四郎君序文　横濱生絲檢査所長正六位勳五等岡毅君序文　前横濱生絲檢査所技師檢査部長正七位勳六等高橋信貞著述

全一冊　洋裝美本　四十有餘の細圖入　實價壹圓　郵稅拾錢

高橋信貞君が積年の經驗を學理に徴し満腔の熱誠を以てものされたる今古未曾の良書なり其緒論さしては世界蠶絲業の大勢を詳録し緒論には本邦蠶絲家の取るへき將來の方針を斷論し章を分つ十二、款を設くる六十餘而して其技術に入りては四十有餘の細密圖を挿入して一々之が得失を評論し製絲工場場の撰定より工業經濟の收支計算、創業費償還の方法に至るまで細大一さして備らさるなし弊堂請ふて之を發刊し廣く世に頒たんさす苟も意を邦家の富源に留むるの諸氏請ふ速に御講讀あらんことを

明文堂主敬白

前書の購求を望まるゝ向申込あらば發送すべし

大日本蠶絲會

○上武特產桑篩及ヒ早中晩兼用ノ眞種 杢早生桑苗販賣○

武州競進社用			上州高山社用		
●五ッ組	上等壹組	四拾錢	一五ッ組	最上壹組	五拾錢
●仝	並 壹組	三拾錢	一仝	上等壹組	四拾五錢
●七ッ組	上等壹組	六拾錢	一仝	並 壹組	三拾五錢
●仝	並 壹組	五拾錢	一一分五厘	上等壹個	拾五錢
●拾貳個組	上等壹組	壹圓四拾錢	一仝上角目	上等壹個	拾貳錢
●仝	並 壹組	壹圓八拾錢	一三分角目	上等壹個	拾壹錢

○粟糠及籾糠篩

代價 籾糠篩十個ニ付金五十錢粟糠篩十個ニ付金五十錢

●小包郵送料 〇五ッ組及ヒ七ッ組各一組ニ付百里迄金十貳錢百里以外ハ金廿四錢〇拾貳組壹組ニ付百里迄金十六錢百里以外金三十二錢トス〇籾糠篩及粟糠篩ハ十箇ニ付五ッ組壹組ノ送料ト仝ジ

競進社々長故木村九藏先生撰拔

早中晩兼用 杢早生（一名木村早生）桑苗

代價 取木苗上等千本ニ付金七圓代出苗上等千本ニ付金九圓〇代出原料壹萬本金十五圓見本苗百本ニ付郵送費共百里以內金九十錢百里以外金壹圓拾錢ニテ御注文ニ應ズ

○多數御注文ノ向ハ御照會次第特別割引ノ御相談ニ應ズ〇爲替ハ武藏國兒玉局ヘ御拂込ヲ乞フ〇桑篩販賣品目錄ハ御申込次第郵呈ス

桑苗蠶具販賣所

武藏國兒玉郡丹莊村字植竹

大畠和輔

告大日本蠶絲會員諸君

北海蠶種ノ純良ナルハ予輩ノ屢唱導スル處ナリ果哉大日本蠶絲會第六回品評會審査ノ結果受賞ノ比例各府縣ノ遠ク及ハサル處ナリ本社亦此ノ榮譽ヲ擔フ因テ聊カ祝意ヲ表センカ爲メ普通製壹百枚框製五千蛾ニ限リ左ノ價格ヲ以テ貴需ニ應ス

一普通製（三分三厘平付）壹枚ニ付金壹圓框製（廿八蛾付）壹枚ニ付金四拾錢但シ定限超過ノ際ハ謝絕スベシ

北海道產蠶種專門

磐城國伊具郡舘矢間村木沼

北辰社支部

養蠶傳習生募集廣告

本場ハ淸溫育法ヲ敎授シテ學理應用ノ實地家ヲ養成ス希望者ハ四月十五日限リ入所スベシ　但シ入所中食料ヲ要セス卒業ノ上ハ優等生ヘ賞品或ハ賞金ヲ與フ

宮城縣伊具郡舘矢間村木沼

北辰社模範養蠶場

追而入所手續等ノ詳細ハ郵劵一葉（參錢）相添ヒ速カニ申込ム可シ

本所ハ今般官民有力者ノ贊成有之候ニ付組織變更ノ必要有之當分生徒養成方北辰社ヘ囑託候條此段廣告ス

私立 **東北蠶業講習所**

●養蠶家は見落す勿れ

!!!新刊!!!

福島縣蠶業學校長農學士宮原忠正先生序文

在東京帝國大學大學院農學士外山龜太郞先生校閱

養蠶家 齋藤常雄君著述

全年養蠶法

大判・紙數・百 全一冊・餘・四 定價・廿錢 郵稅金六錢

蠶絲は本邦第一の輸出品にして養蠶は國民の第一事業なり從て此等に關する著書少なからざれども多くは學理に精にして實際に疎し 著者は我國屈指の蠶地たる福島の有名なる養蠶家にして拮据經營の多年辛勞を積み實際に徵し其功績の著しき之を私にするに忍びず廣く江湖の同志の士に照會せんとして本書を著さる 全國の養蠶家諸君速に本書によりて獨り方法を採りて利外又大遺利の存するを知れ

●賣捌所 大阪 三木佐助 吉岡平助 柳原喜兵衛 梅原龜七

▲東京神田 ▲裏神保町 合資會社 冨山房發兌

高橋信貞君編述
●米國シカゴ府開催●世界大博覽會出品 **繭生絲解說** ●實價拾二錢●郵稅二錢

本書は緊な日本蠶業の沿革に起し次て桑及蠶の重なる種類に就き其得失を論し延ひて現時の養蠶及製絲法を詳叙し而して日米間に於ける蠶絲貿易の盛況に論及し將來の冀望さして彼我國民の親睦和衷進捗を俱にし利益を共にし彼我貿易の發達を遂ぐるの要を擴張して其局を結ばれたる簡明無比の良書たり（明女堂主識白）
前書購求を望まるゝ向は規定代價と郵稅とを添へ申込あるへし

大日本蠶絲會

●大日本●蠶絲會 **會員名簿** ●明治三十三年●三月末日現在

代價郵稅共金拾五錢
本書御要望の諸君は代價と郵稅とを添へて御申込み相成候はゝ發送可致候也

大日本蠶絲會

●正五位速水堅曹君修補 佐野瑛氏著 **大日本蠶史** 正價金二圓五十錢 郵稅金二十錢

右御入用の諸君は本會へ御申込あらは發送す

大日本蠶絲會

農商務省農事試驗場長
兼東京蠶業講習所長　農學博士　澤野淳先生序文

東京帝國大學
農科大學教授　理學博士　佐々木忠次郎先生校閲

前農商務省東京
蠶業講習所技師　農學士（河原改）廣瀨次郎先生著述

實驗蠶體生理

菊判全一冊
洋製美本
紙質舶來上等
印刷鮮明紙數
凡二百七十一
頁餘寫眞西洋
木版六十有余
圖寫眞銅版及
彩色石版入り

●實價金壹圓郵稅金拾錢實本出來ハ
貳月下旬送本ハ着金順序ニ依ル

諸員ハ

大日本蠶絲會員特別大割引減價金七十五錢 郵稅八錢

此ノ割引ハ大日本農會員、各蠶業講習所、農、蠶學校及傳習所、夏期講習會等總テ團體組織ノ各生徒諸君ニシテ直接申込ニ限ル

蠶業上學理應用ノ利益頗ル大ナルコト漸ク世ニ知ラル、ト雖モ未ダ蠶ノ生理ヲ詳カニスルモノ少ナキハ豈ニ一大缺點ナラズヤ弊堂ハ囊ニ蠶躰病理ヲ公ニシ名聲嘖々タル廣瀨農學士ニ請フニ本書著述ノコトヲ以テシタルニ學士ハ爾來研鑽ノ餘暇ヲ以テ本書ノ起稿ニ從事シ先蠶ノ學說未タ明確ナラザル所ハ親シク實驗ノ勞ヲ採リ一々其成蹟ヲ擧ゲテ著述ノ料ニ供シ今ヤ完成シ佐々木博士ノ周到綿密ナル校閲ヲ經テ出版ノ榮ヲ得ルニ到レリ通論ニ於テハ先ツ自然界ノ美ヲ說キ造化ノ巧ヲ明カニシ家蠶ノ天性ニ及ボシ諸器械ノ構造及機能ニ就キ要ヲ撮リ煩ヲ避ケ加フルニ精密ナル圖畫ヲ挿入シテ一目了解ニ便ニシ特論ニ於テハ諸般ノ生理的作用ヲ詳述シ進ミテ實際ニ緊要ナル事項ヲ論及シ以テ大ヰニ家蠶本能ヲ發揚シ之レヲ實地ニ活働セシメンコトニ勉メタリ斯業ニ篤志ノ諸士蠶躰病理ト共ニ本書ヲ座右ニ備ヘ學理應用ノ利益ヲシテ益々多大ナラシメンコト懇請ノ至リニ堪ヘス

（明文堂主敬白）

前記書籍の購求を望まるゝ向は規定の代價と郵稅とを添へ御申込あらば遞送す

大日本蠶絲會

寒水浴貯藏春蠶種販賣

信州の地山高くして水清く土地高燥にして大氣清潔なり然も此の地此の蠶種を以て極寒肌を裂くの晨清水にて寒水浸を施せし貯藏の春蠶種 **信濃錦、又昔、小石丸** 外數種あり時は今ま春風和氣たり蠶卵種の輸送に最適の好期たり

壹枚代金 **壹圓廿錢** 十枚以上一枚代金壹圓宛要望者至急申込る可し

●蠶綱販賣廣告

●**初眠用**より**四眠起用**まで取揃へ居り候
定價は本誌第百一號にあり詳細は御通知次第定價明細表進呈仕り候

信州本場　桑苗販賣廣告

種類　鼠返し　元右衛門

二年苗　極上等　千本代拾貳圓
一年苗　上等　千本代金六圓
全　並苗　千本代金四圓
（運賃は買受者の負擔の事）

○共同にて成可く千本以上申込れたし壹萬本以上定價の一割直引す時將に植込の季節なれば期を失せず至急前金に添へ申込る可し

長野縣下高井郡延德村
合名會社　**高明館本局**

風穴貯藏臨時掃立 **春蠶種** 又昔青熟其他數種全面附一枚壹圓三十五錢爲替豐科局
掃立御望次第六月中旬迄何時にても出穴發送可致候

信濃南安曇郡南穗高村踏入
・**扶桑舘齋藤兵次郎**

正七位高橋信貞君撰

●●世界各國産繭標本寫眞●●

全二葉解說一冊付實價廿錢郵稅四錢

繭は生絲の前身にして生絲は繭の後身なり故に繭佳良ならざれば生絲も又佳良ならざるは人皆之を知る然れども繭種の撰擇に至りては區々一ならざるが爲め生絲の品位も亦隨て雜駁たるを免れざるは諸君の熟知せらるゝ處なり今や之が一定の方針を定むるに方り汎く內外の產繭に就き研究を要するや勿論なるを以て同君が採集せられたる各種の標本に就き更に撰擇を請ふて眞形を寫眞となし而して各種に產地名稱を付し類面用たらしめ解說には繊絲の長短適否等を詳密に記述せられたるものなれば苟も蠶絲業の改善に志ある諸君は座右に缺くべからざるの良書なり
前書の購求を望まるゝ向は各規定の代價と郵稅とを添へて御見込あらば遞送す

大日本蠶絲會

蠶業傳習生徒募集

四月五日ヨリ學科養蠶肥料桑樹栽培解剖生理並ニ病理講義ヲ相始ム

派遣講師

外ニ東京蠶業講習所玉縣技師講習所卒業生田島德二郎外數名ノ技師ハ中井清九藏埼玉縣南埼玉郡溯止村

蠶業傳習所

信濃路●青熟●又小石丸●眼白●昔　原紙全面厚附卵量八匁一枚金一圓●五枚以上ハ割引ス

春蠶種

價分與

信州下高井郡延德村青木蠶業場

右各種種用百蛾二圓

外ニ●夏蠶原種用●白龍●玉不知●糸錦●百蛾　金壹圓六十錢

本會は學者と染織業に關係ある商工業者相集りて斯道の進歩を圖る唯一の團體なり尚會務を擴張すること漸次刷新の功を擧げんとす爲め規則を改め評議員を置き會報の編輯を改良し此際有志の士は郵券貳錢を乞ふ●會費ハ一ヶ年金貳圓規則の書は郵券貳錢會報見本は貳拾錢添御申込次第遞送ス

東京下谷長町五十三

大日本織物協會

覽把器

本器ハ田土ヲ細碎スルニ於テ稻苗跡ヲ牛馬ノカヲ減省シ收穫ヲ又ハ二毛作地拵ニ最有利ナリ

特許

特許

造器

上簇盤製

整角器

飼牛ノ角ヲ如何ナ許向ニモ二日乃至二週間ニ育整スベシ特精組數種ノ簇而製造適宜積重チ備置得

右三器共遠方ニ在リテハ送料多額ニ要シ殊ニ整角器ハ材料ヲ用ヒ得安キ小數ノ材料ヲ積ヲ加エヲ

整角器ハ三十六錢送金アレバ製造使用ノ特約ヲナシ多ク要シ購求者ノ不便アト送料ニ費ヲ以ア上簇盤製造器攪把器各々壹圓宛

詳細圖解說明書ヲ送呈スル者使用ノ見込ナキ時ハ三十日以內ハ解約シ一割引金五厘人以上ハ二割引十人以上ハ一割引器械ニ切手參錢引

尚一定ノ土地ニ對スル標價ヲ以テ一手販賣ノ契約スル適

特許品共益信用者ノ證明シッヽアル所ナリ

各特許ナルコトハ見込ナキ

長島黑石圖

邑智郡君谷村

發明者　小田忠四郎